大審院判例要旨
刑事諸法令對照
刑法實用

宮原久吉君編

東京
清水書店

C8
2711
06

C2
2113
014

凡例

一本書ハ裁判構成法實施以來三十五年十二月ニ至ル判例ノ重ナルモノヲ掲グ

一本書ハ實用ヲ目的トシ併テ研究ノ資料ニ供セントスルヲ以テ刑法ト相關聯スル法令ヲ對比シ加フルニ大審院判例中重ナル判決至要ノ論旨ヲ簡明ニ摘載シ判意ヲ了得スルト實地應用ニ便ナランヿヲ期セリ

一本書ハ判例ノ要領ヲ簡短ニ摘記シタルヲ以テ或ハ意義明確ニ通セサル者アルヲ保シ難シ因テ判決全文ノ研究ト索引ノ便益ヲ計リ其判例ノ番號及年月日ヲ附記セリ

一本書ハ對照ニ便ナル爲メ判例及關聯法令ハ區別シ易カランカ爲メニ其体裁ヲ異ニセリ

一本書判例中前後反對アルモノアリ卽チ聯合裁判ニ於テ前例ヲ變更シ

タルモノ若クハ前例判旨ヲ異ニスルモノナルヲ以テ新例ヲ載セ且ツ同判例許多アルモノハ新例若クハ説明ノ密ナルモノヲ掲載シ其他ハ之ヲ省畧セリ

一本書判例中犯罪ノ手段方法ノ爲メ犯罪ヲ構成スル者例セハ詐欺取財ヲ犯ス爲メ文書若クハ印章等ヲ僞造行使スル者ノ類ハ重ニ詐欺取財ノ條項ニ對照シタリト雖モ文書若クハ印章僞造行使罪等ト對比便ナリトスルモノハ其條項ニ參照セリ

一本書判例ノ論旨許多ノ事項ヲ包含シ彼是各條ニ關渉スルモノハ最モ其關係密ナル條項ト對照セシト雖モ或ハ其對比ニ適セサル點ナキヲ保シ難シ是偏ニ編者ノ淺薄菲才ノ致ス所以ナルヲ以テ各條對照シ深ク呵責セラルヽコトナグンハ幸甚

大審院判例要旨
刑事諸法令對照

刑法實用

目錄

第一編　總則　一
第一章　法例　一
第二章　刑例　二
第一節　刑名　四
第二節　主刑處分　七
第三節　附加刑處分　一一
第四節　徵償處分　一八
第五節　刑期計算　二一
第六節　假出獄　二二
第七節　期滿免除　二三
第八節　權復　二四
第三章　加減例　二七
第四章　不論罪及ヒ減輕

第一節　不論罪及ヒ宥恕減輕　二七
第二節　自首減輕　三〇
第三節　酌量減輕　三一
第五章　再犯加重　三三
第六章　加減順序　三四
第七章　數罪俱發　四一
第八章　數人共犯　四一
第一節　正犯　四七
第二節　從犯　四八
第九章　未遂犯罪　四九
第十章　親屬例　五〇
第二編　公益ニ關スル重罪輕罪　五〇
第一章　皇室ニ對スル罪　五一
第二章　國事ニ關スル罪　五一
第一節　內亂ニ關スル罪　五三
第二節　外患ニ關スル罪　五四
第三章　靜謐ヲ害スル罪　五四
第一節　兇徒聚衆ノ罪　五四
第二節　官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪　五五
第三節　囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪　六〇
第四節　附加刑ノ執行ヲ遁ルル罪　六三
第五節　私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪　六四
第六節　往來通信ヲ妨害スル罪　六四
第七節　人ノ住所ヲ侵ス罪　六六
第八節　官ノ封印ヲ破棄スル罪　六八
第九節　公務ヲ行フヲ拒ム罪　六九
第四章　信用ヲ害スル罪　六九
第一節　貨幣ヲ僞造スル罪　七四
第二節　官印ヲ僞造スル罪　七八
第三節　官ノ文書ヲ僞造スル罪　八九
第四節　私印私書ヲ僞造スル罪　一〇六
第五節　免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ僞造スル罪　一〇八
第六節　僞證ノ罪　一一三
第七節　度量衡ヲ僞造スル罪

第八節　身分ヲ詐稱スル罪　一一五
第九節　公撰ノ投票ヲ僞造スル罪　一一六
第五章　健康ヲ害スル罪　一一六
第一節　阿片烟ニ關スル罪　一一七
第二節　飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪　一一七
第三節　傳染病豫防規則ニ關スル罪　一一八
第四節　危害品及ヒ健康ヲ害スヘキ物品製造ノ規則ニ關スル罪　一一九
第五節　健康ヲ害スヘキ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪　一一九
第六節　私ニ醫業ヲ爲ス罪　一一九
第六章　風俗ヲ害スル罪　一二二
第七章　死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪　一二三
第八章　商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪　一二四
第九章　官吏瀆職ノ罪　一二四
第一節　官吏公益ヲ害スル罪　一二五
第二節　官吏人民ニ對スル罪　一三〇
第三節　官吏財產ニ對スル罪　一三七
第三編　身體財產ニ對スル重罪輕罪

第一章　身體ニ對スル罪　一三七
第一節　謀殺故殺ノ罪　一三九
第二節　毆打創傷ノ罪　一四〇
第三節　殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪　一四三
第四節　過失殺傷ノ罪　一四五
第五節　自殺ニ關スル罪　一四六
第六節　擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪　一四七
第七節　脅迫ノ罪　一四六
第八節　墮胎ノ罪　一四九
第九節　幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪　一五〇
第十節　幼者ヲ略取誘拐スル罪　一五一
第十一節　猥褻姦淫重婚ノ罪　一五二
第十二節　誣告及ヒ誹毀ノ罪　一五四
第十三節　祖父母父母ニ對スル罪　一五八
第二章　財產ニ對スル罪　一五九
第一節　竊盜ノ罪　一五九
第二節　强盜ノ罪　一六八

第三節　遺失物埋藏物ニ關スル罪　一七二
第四節　家資分散ニ關スル罪　一七四
第五節　詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪　一七八
第六節　贓物ニ關スル罪　二〇三
第七節　放火失火ノ罪　二〇五
第八節　決水ノ罪　二〇八
第九節　船舶ヲ覆沒スル罪　二〇九
第十節　家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪　二一〇
第四編　違警罪　二一五
附則

刑法實用

第一編　總則

第一章　法例

第一條　凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト爲ス

一　重罪
二　輕罪
三　違警罪

◎重罪輕罪ノ區別ハ罪ノ性質ニ依リテ之ヲ定ム（三十九年二月廿日）

第二條　法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得ス

◎物品賣却ノ依頼ヲ受ケ賣主ノ指定價格ヨリ高價ニ賣却シタル上其超過額ヲ賣主ヨリ受領シタル所爲ハ法律上罪トナラス（三十一年第八六四號三十一年十月十一日）

◎后發ノ所爲ハ前發ノ結果ニシテ別罪ヲ構成セサル場合ニ在ツテモ其前發ノ所爲ニ付キ被告カ曾テ責問ヲ受ケタルコトナキトキハ後發ノ所爲ニ付キ其責罰ヲ免カルヽコトヲ得ス（三十四年れ第六四七號同五月三十一日）

◎詐欺ノ疾病證書作成ヲ醫師ニ囑託シタル者ニ對スル刑罰ハ刑法ニ規定ナキヲ以テ犯罪ヲ構成セサルモノトス（三十五年十一月二十一日）

第三條　法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

◉効力ヲ停止セラレタル法律ノ効力ノ回復ハ新法ノ頒布ト謂フヿヲ得ス然レトモ其適用ニ至リテハ新タニ頒布セラレタル法律ト異ナルヿナシ（明二年七一五號同年十二月廿五日）

◉發布ノ日ヨリ施行スヘキ勅令ニ違反シタル所爲アルトキハ其發布ヲ知リタルト否トヲ問ハス其制裁ヲ免カルヽヲ得ス（三十一年九五六號同年一月二十四日）

◉刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スル場合ニ於テ舊法（刑法）ハ數罪俱發例ヲ適用シ新法（森林法）ハ數罪ヲ併科スルトキハ舊法ヲ以テ輕シトス（三十一年第六六六號同年九月九日）

◉新法ト舊法ノ輕重ヲ比較スルニ當リ新舊二法共ニ附加刑ノ種類ノ異同如何ヲ論セス專ラ主刑ノミニ依リ輕重ヲ比較スヘキモノトス然シテ主刑同一ニシテ舊法ニハ監視ノ附加刑アリテ新法ニハ附加刑ナキトキハ舊法ヲ重シトス（三十四年）

第四條　此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルコトヲ得ス

第五條　此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

第二章　刑例

第一節　刑名

第六條　刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第七條　左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一　死刑
二　無期徒刑
三　有期徒刑
四　無期流刑
五　有期流刑
六　重懲役
七　輕懲役
八　重禁獄
九　輕禁獄

第八條　左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一　重禁錮
二　輕禁錮
三　罰金

第九條　左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス

一　拘留
二　科料

第十條　左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一　剝奪公權

二　停止公權

三　（三十一年六月法律第十一號民法施行法第十四條ヲ以テ削除）

四　監視

五　罰金

六　沒收

第十一條　刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル法方細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第二節　主刑處分

第十二條　死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄內ニ於テ之ヲ行フ

第十三條　死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十四條　大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

第十五條　死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

第十六條　死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルコトヲ許サス

第十七條　徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シテ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條　徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス內地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條　徒刑ノ四六十歲ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

第二十條　流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十一條　無期流刑ノ四五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルコトヲ得

有期流刑ノ四三年ヲ經過スル者亦同シ

第二十二條　懲役ハ內地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歲ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十三條　禁獄ハ內地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條　禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十五條　定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舍ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以內ハ給與ノ限ニ在ラス

第二十六條　罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第二十七條　罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一ケ月內ニ納完セシム若シ限內納完セサル者ハ一圓

ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求メニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ヲ過クルコト得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

◎刑法第廿七條ハ罰金ヲ完納セシムルノ期間ト方法ヲ規定スル者ニ外ナラス故ニ換刑ノ處分ハ即チ罰金執行ノ一方法タルニ過キス其同條二項但書ノ制限ヲ設ケタル所以ノ者ハ罰金ノ額甚タ大ニシテ到底完納スル能ハサル者アルニ於テ一項ノ折算法ニ從フトキハ或ハ終身禁錮セラルヽカ如キコトアラハ罰金刑執行ノ方法トシテハ甚タ妥當ナラス ト爲スヲ以テナリ而シテ換刑處分ハ元來罰金ヲ完納セシムルノ執行方法ナルカ故ニ禁錮限内ニ罰金ヲ納タル時ハ裁判官ノ命令等ヲ俟タス直ニ禁錮ヲ免スルナリ然ルニ換刑處分ハ同シク執行方法ナルニ裁判官ヲシテ之ヲ命セシムル所以ノモノハ罰金ヲ以テ財産刑ヲ執行スルニ體刑タル輕禁錮ヲ以テスルモノナルカ故ニ其手續ヲ鄭重ナラシメタルニ外ナラス換刑ノ性質既ニ如斯ナルヲ以テ同條三項ニ禁錮限内罰金ヲ納メタルトキハ云々トアルハ判決ニヨリ確定シタル時ト云ノ意ニシテ既ニ禁錮ノ執行ニテ經過シタル日數ヲ控除シ殘餘ノ罰金ヲ納ムルニアラサレハ禁錮ヲ免スヘキモノニアラサルノ趣意モ亦自カラ明ナリ（三十年抗告一三號同年十二月八日）

第二十八條　拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十九條　科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第三十條　科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

第三節　附加刑處分

第三十一條　剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一　國民ノ特權
二　官吏ト爲ルノ權
三　勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權
四　外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
五　兵籍ニ入ルノ權
六　裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス
七　後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス
八　分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權
九　學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十二條　重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十三條　禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第三十四條　輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ行フコトヲ停止ス

主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ

第三十五條（三十一年法律第十一號民法施行法第十四條ヲ以テ削除）

第三十六條（同上）

第三十七條　重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス

第三十八條　輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルコトヲ得ス

第三十九條　死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タルモノハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

第四十條　監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キメル日ヨリ起算ス

若シ主刑ニ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條　監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ免スルコトヲ得

第四十二條　附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月內ニ納完セサルトキハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

第四十三條　左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一　法律ニ於テ禁制シタル物件

二　犯罪ノ用ニ供シタル物件

三　犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條　法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハズ之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得ス

◎沒收スヘキ物件カ被告ノ手裡ニ現存セサルコト明カナル場合ニハ沒收ノ言渡ヲナサヽルモ不法ノ裁判ニアラス（廿四年一四〇號廿四年一月十六日）

◎僞造ノ賣買證書ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニモアラス犯罪ニ因テ得タル物件ニモアラス所謂法律上ノ禁制品ナリ（廿六年七〇號同年三月三日）

◎沒收處分ハ檢事ノ請求ヲ要スヘキモノニ非ス（二十七年四三五號同年六月二十五日）

◎刑法三百七十條ノ兇器云々ニ適當スル犯罪ハ兇器ヲ携帶スル行爲ト窃盜ノ行爲ト相合シテ茲ニ之ヲ組成スルモノナレハ其兇器ハ所謂罪體ニシテ沒收スヘキモノニ非ス（廿六年一一八六號廿七年二月廿二日）

◎强盜犯ノ携帶スル兇器ノ如キハ刑ノ加重ヲ爲スヘキ一ノ情狀ニ過キサレハ之ヲ以テ犯罪ヲ擇成スヘキ罪體ト云フコトヲ得ス故ニ犯罪供用ノ物件トシテ沒收シタルハ不法ニ非ス（廿七年一三三四號二十八年二月二十一日）

◉貨幣偽造ノ器械ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリ（二十八年四二四號同年四月廿五日）

◉變造トハ文書ノ一部ヲ增減變換スルニ過キサルモノナレハ其變造ニ係ル部分ヲ沒收スルハ固ヨリ當然ナレトモ一部ノ變造ニ係リタルカ爲メ他ノ眞正ナル部分マテモ併セテ之ヲ沒收スルノ理ナシ故ニ執行官ニ於テ其變造ニ係ル部分ヲ截リ取リ又ハ塗抹シ又ハ裏書シテ以テ沒收ノ爲分ヲ爲スコトヲ得ヘキニ全部ヲ沒收シタルハ擬律錯誤タルヲ免レス（廿八年四五三號同年五月二十日）

◉爆發物ハ特許ヲ得タルモノニ非サレハ之ヲ所持スルヲ得サルヲ以テ法律上禁制物タルハ論ヲ俟タス（廿八年六五八號同年六月七日）

◉偽造手形ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリ（廿八年五七三號廿八年七月八日）

◉偽造ハ證書ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリ（廿八年八九三號同年九月十六日）

◉犯罪ノ準備ニ供シタル物件ヲ以テ犯罪ノ用ニ供シタル物件トシテ沒收シタル裁判ハ不法ナリ（廿八年九六四號同年十月十日）

◉被害者ノ不明トハ被害者ノ有無不明ヲ云フニ非ス其住所氏名等ノ不明ナル場合ヲ云フ（廿八年一二〇號同年九月十五日）

◉刑法第四十四條ニ所謂所有主ナキ時トハ絶對的ニ無主物タル場合ヲ云フニ非ス所有主ノ發見セラレサル場合ヲ云フ（同上）

◉所持ナル言詞ハ普通語ニ於テ所有ノ意味ヲ包含ス（廿八年一三二八號同年十二月九日）

◉偽造ニ係ル官印ノ記號印章ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリ（廿八年一四六一號廿九年二月廿四日）

◉玩弄紙幣ハ明治廿八年法律廿八號ニ依リ禁制物トナリタルモノナリ故ニ刑法四十三條一號ニ依リ沒收スヘク二號ニ依ルヘキニ非ス（廿九年四一六號同年四月三十日）

◉主タル物件ヲ沒收スルノ判決ハ從タル附屬物件ニ及フ（廿九年五五八號同年六月五日）

◉犯罪供用ノ物品ハ縱令犯罪事實審理ノ必要上分析スルコトアルモ之カ爲メ犯罪供用ノ性質ヲ變スル者ニ非ス從テ之ヲ沒收セシ判決ハ相當ナリ（三十年七六號同年一月二十六日）

◉郵便稅ヲ免ルヽ目的ヲ以テ使用濟ノ郵便端書ヲ再ヒ使用シタル時ハ其端書ハ犯用物件トシテ沒收セラル（三十年五〇五號同年三月九日）

◉沒收ノ言渡ハ物件ヲ主眼トシテ言渡スモノナレハ其沒收ヲ言渡シタル判決主文ニハ物體ヲ確示スルモノナリ故ニ費渡證書ヲ沒收ストアレハ正本ノミ沒收シ謄本ニアラサルハ明カナリ（三十年六六九號同年九月廿八日）

◉沒收ハ一ノ附加刑ニシテ共犯ハ同身一體離ルヘカラサル關係アリ犯罪供用ノ物件共犯中ノ一人ノ所有ニ係ル場合ト雖モ他ノ共犯人ニ對シテモ實際ノ利害如何ニ拘ラス沒收ヲ言渡スハ不當ニ非ス（三十年一一五四號卅一年一月廿一日）

◉無記名公債證書ハ其性質轉轉スヘキモノナレトモ賍物タルコト明確ニシテ現存スル以上ハ刑法附則第五十五條又ハ同五十六條ニ依リ處分スヘキモノトス（三十一年第四六六號仝年五月二十七日）

◉犯罪ノ用ニ供シタル物件ト雖モ其物件ニ對シ犯人以外ニ所有者アルトキハ偽造ニ係ル部分ハ格ル者アルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス

犯罪ノ用ニ供シタル偽造證書ニシテ犯人以外ニ占有者アルトキハ偽造ニ係ル部分ハ格別其他ノ部分ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス（三十一年第七七號同年九月二十七日）

第四節　徵償處分

第四十五條　刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

◎公訴費用ハ控訴理由アルモ結局無罪免訴ノ外ハ負擔ヲ免レス（二十七年九七五號同年十月一日）

◎共犯者ノ一ハ有罪ニ決シ一ハ無罪ニ決ス此場合ノ公訴費用ハ總テ有罪者ニ對シ生シタルモノナレハ其全部ヲ負擔スヘキモノニシテ其一半ヲ國庫ニ於テ負擔スヘキモノニ非ス（廿七年一二五六號同年十一月廿九日）

◎訴訟費用ハ共同被告人ニ對シ連帶負擔セシムヘキモノトス然ルニ民事原告人ト被告人ト連帶負擔ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリ（廿七年一一五四號同年十二月十四日）

◎賭博ヲ爲シタル者ト其賭房ヲ給與シタル者トハ犯罪行爲ヲ共ニシタルモノナレハ二者同時ニ公訴ヲ受ケ其公訴ヨリ生スル裁判費用ハ刑法四十七條ニ依リ公訴費用ヲ連帶負擔トス（廿八年五一八號同年五月廿一日）

◎有罪ノ判決ヲ爲シタル時ハ控訴ノ理由アリタルト否トニ拘ラス訴訟費用ハ其全部ヲ負擔セシム（廿八年九二〇號同年九月十七日）

◎公訴費用ハ全部負擔ノ言渡シアリタル場合ニ他ニ幾部ノ負擔ヲ言渡サレタル者アリトノ故ヲ以テ其全部負擔ニ對シ不服ヲ唱フルヲ得ス（廿九年二〇一號同年三月五日）

◎共犯人公判前ニ死亡シ公訴消滅シタル時ハ公訴裁判費用ハ生存者ニ於テ其全部ヲ負擔スヘキモノトス（廿九年一一二三號同年十一月十七日）

第四十六條　犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラルヽト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ免カルヽコトヲ得ス

◎不正品タル贓物ニモセヨ之ヲ知ラスシテ公商ヨリ買取シタル時ハ無効ノ賣買ト云フヲ得ス（廿四年二部一三號同年二月十八日）

◎贓物ヲ賣却シテ得タル金員ハ贓物ニ非ス（廿三年一部九九號廿三年七月六日）

◎贓金ヲ以テ買得シタル物品ハ贓物ニ非サルヲ以テ被害者ニ還付スヘキモノニ非ス（廿四年三〇三號同年十二月十日）

◎預金手形ヲ窃取セハ其手形ハ贓物タルハ勿論其手形ニ依リ受取リタル金圓モ亦贓物ナリ（廿五年六六〇號同年九月二十六日）

◎刑法附則五十六條ハ必シモ質入期限中ノモノニ限ラス期限後ト雖モ質取人ニ其物品現在スレハ之カ請求ヲ拒ムヲ得ス（廿五年民三七號同年十一月廿九日）

◎贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取リタル者其贓物現在スル時ハ典主ハ身分公商ナルト否トヲ問ハス還給拒ムヲ得ス（廿六年二九二號同年四月十三日）

◎刑法附則第五十五條ハ公商ニ限リ一ノ例外ヲ規定シタル者ナリ而シテ公商ニ由ルト就發ニ由ルトハ同一ニ非ス故ニ就發ニ由リ善意ヲ以テ買得シタル不動產ト雖モ最初ノ買發不正ナル以上ハ幾回轉轉シテ其都度登記ヲ經ルモ所有權ハ移轉セス（廿七年民五九號同年六月十一日）

◎贓物轉轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ現時ノ占有者ニ對シ被害者之カ返還ヲ要求スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ過去ノ占有者ニ對シテハ其要求ヲ爲スノ權利ヲ有セス何トナレハ被害者ト過去ノ占有者トノ間ニハ人權上ノ關係ナキノミナラス復タ物權上ノ關係ヲ有セサレハナリ（廿七年七四二號同年十月廿九日）

◎被害者カ第三者ニ對シ抵當登記ノ取消ヲ請求スルハ加害者ノ犯罪行爲ニ依リ他ニ移轉シタル地所ノ抵當權ヲ取戻スニ外ナラサレハ刑訴二條ノ所謂犯罪ニ因リ生シタル賍物ノ返還ヲ請求スルモノト看做サヽルヘカラス（廿七年一〇〇〇號同年十一月廿九日）

◎假下トハ現在ノ物品ヲ假リニ被害者ニ下附スルノ謂ニシテ眞ノ還付ソレニ非ス從テ判決ヲ以テ之ヲ言渡スニ非サレハ法律上還付ノ効ナシトス（廿八年一〇九〇號同年十月廿八日）

◎刑訴二條ニ所謂賍物ノ返還トハ單ニ犯罪行爲ニ依リ奪取セラレタル物品ノ取戻ノミヲ指スニ非スシテ廣ク犯罪行爲ニ因リ侵害セラレタル物權ノ回復ヲモ意味スルモノトス（廿八年一二八五號同年十二月廿六日）

◎僞造證書ニ依リテ賣買セラレタル不動産ハ賍物ナリ而シテ既ニ賍物タル以上ハ其取得者ノ誰タルヲ問ハス現存スル所ヲ追從シテ其還給ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス（廿九年九五五號同年十月廿二日）

◎管意ノ買得者ト雖モ其買得ノ地所犯罪行爲ニ原因セシモノナルトキハ登記法六條ヲ援用シテ眞所有者ニ對抗スルヲ得ス（廿九年九一六號同年十月廿九日）

◎民事原告人私訴トシテ或ル寶物ノ返還ヲ請求シ若シ寶物存在セサルトキハ金員ノ賠償ヲ請求スル旨ノ申立ヲ爲ハモ不確定ノ請求ト爲シタルモノト云フヲ得ス（三十年四七五號同年六月八日）

◎登記取消ハ不動産ヲ回復スルヲ目的トスルモノニシテ賍收返還ノ一方法ナリ（三十年五〇八號同年六月十四日）

◎公商ニ依リ買取シタル賍物ヲ除クノ外現占有者ハ被害者ニ無償還給ヲ爲スヘキ者トス（三十年九一二號同年十一月二日）

◎正犯從犯者及教唆者ノ刑ニ輕重アルモ其賠償責任ハ同體ニシテ損害賠償等ハ連帶シテ之ヲ負擔スヘキモノトス（二十四年一一號同年一月十六日）

◎意思ノ有無ヲ問ハス人ヲ死ニ致シタル時ハ致死者又ハ其民事擔當人ハ之カ葬式費用ノ賠償ヲ免ルヽコトヲ得ス（廿四年二部二七九號同年五月四日）

◎賭博ニ事寄セ之ヲ詐欺ノ方法手段トシ金圓ヲ騙取シタル時ハ欺詐取財ヲ構成ス而シテ金圓ヲ騙取セラレタルモノト雖モ法律ノ救濟ヲ受クルヲ妨ケス（廿四年一八三號同年六月十一日）

◎買戻契約ノ證書ヲ毀棄シタルニ止リ原告ノ有スル買戻ノ權能ヲ滅盡シタルニ非サレハ純粹民事ノ訴訟ヲ以テ地所ノ買戻ヲ求ムルハ格別私訴トシテ其返還ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス然ルニ買戻ノ證書ト買戻ノ權能トヲ混同シ損害賠償ト認メ附帶私訴トシテ採用シタル不法ナリ（廿五年一一八六號同年十一月十七日）

◎葬式ハ人ノ死亡ニヨリ必ス行ハサルヘカラスト雖モ祭祀料ハ生存者ノ資カニ應シ隨意ニ之ヲ爲スモノニシテ直接犯罪ヨリ必然生スル損害ト云ヲ得ス（廿六年八八四號同年十一月九日）

◎賍物ト知ラスシテ之ヲ買ニ取リタル者カ過失ニ依リ其質物ヲ紛失セシメシトテ所有主ヨリ賠償ヲ求ムルヲ得ス（廿六年一二三〇號廿七年二月十九日）

◎身體毀傷ノ損害ニシテ量定スヘキニ非サレハ請求ハ採用セス（廿七年四六一號同年六月一日）

◎犯罪ニ基キ假差押ヲ受ケタル被害者カ其假押差ヲ解ク爲メ供託スヘキ金ヲ他借シ利子ヲ支拂タル時ハ其利子ハ犯罪ヨリ常シタル直接ノ損害ニシテ私訴トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得（廿七年七四四號同年十一月二十二日）

◎被上告人ニ於テ破產者ニ對シ商品代金ノ支拂ヲ求ムルニハ商法九百七十八條以下ノ規定ニ依ルヘキモノニテ破產宣告後ニ至リ刑事裁判所ニ於テ私訴ノ申立ヲ爲スヘキヿヲ得ヘキモノニ非ス然ルニ商品代金ト認ナカラ此申立ヲ採用シタルハ不法ナリト論スレトモ商品代金ナル事實ヲ認メタルハ勿論ナリト雖モ其代金ノ義務ヲ負擔シタル行爲カ詐欺破產ノ罪ナルヲ以テ其行爲ニ基キ被害者ニ生シタル代金請求權ハ即チ犯罪ニ因リテ生シタル損害賠償ノ請求權ナリト認メタルモノナリ（廿七年一〇二七號同年十一月十三日）

◎凡ソ犯罪ニ因リ人ヲ死ニ致シタル時ハ其有意タルト無意タルトヲ問ハス其死者ノ葬式ヲ行フニ當リ要スル費用ハ即チ犯罪ニ因リ生シタル直接ノ損害ナルヲ以テ加害者ニ於テ之カ賠償ノ責ニ任スヘキハ當然ノコトナリトス然ルニ原訴ノ判決茲ニ出テス葬式費用ノ如キハ犯罪ニ原因シタル直接ノ損害ト認メ難ク遺族者ノ負擔スヘキモノナリト判示シタルハ不法ナリ（廿八年一四五五號廿九年一月二十日）

◎誹毀ノ所爲ニ依リ名譽ヲ毀損セラレタル者ハ其名譽回復ノ方法ニ要スル費用ハ犯罪ニ因テ生シタル損害トシテ之ヲ請求スルノ權ヲ有ス而シテ加害者ハ當然其賠償ノ責ニ任スヘキモノトス（廿九年二八五號同年三月三十日）

◎假差押ノ金圓ハ被差押人ノ所有ニ屬ス而シテ執達吏カ其假差押ニ係ル金圓ヲ占有スルハ職務上之ヲ監守スルニ外ナラス從テ其監守中窃取ノ所爲アル時ハ所有者ニ對シ損害ヲ加ヘタルモノニシテ賠償ノ責任ヲ負フヘキモノトス（廿九年八八五號同年十月十六日）

◎不法行爲ニ原因スル損害賠償ノ債權ハ損害ノアリタル時ヨリ發生ス從テ其當時ヨリ利子ヲ生ス（三十年四七二號同年六月廿二日）

◎犯罪ヲ原因トシテ損害賠償ヲ請求スル場合ニアリテハ遲滯ノ條件ヲ要セスシテ當然利息ヲ生スヘキモノトス（三十年五五七號同年六月廿五日）

◎預主名義ノ引出切手ヲ僞造シ銀行ヨリ當座預金ヲ騙取シタル場合ニ於ケル被害者ハ預主ニ非スシテ銀行ナリ（三十年七五〇號同年十月七日）

◎妻ノ犯罪ニ因テ他人ニ加ヘタル損害ハ其夫民事擔當人トシテ賠償ノ責ニ任スヘキモノトス（三十年一〇六六號同年十二月廿日）

◎犯罪人ナリトシテ告訴ヲ受クレハ其當時既ニ名譽ヲ毀損シ損害ヲ受ケタルモノナリ故ニ名譽回復ノ爲メ新聞紙ニ廣告ヲ請求スルハ新聞社カ廣告掲載ヲ承諾セサル以前ニ在テモ告訴者ニ廣告料ノ支拂ヲ命スルハ當然ナリ（三十年一一七八號卅一年一月廿一日）

◎損害ヲ賠償スル場合ニ加害者數名アレハ連帶其責ニ任スヘキモノトス而シテ其連帶ノ性質トシテ數名ノ內一人全部ノ負擔ヲ請求セラルルモ之ヲ拒ム能ハス（三十年一一七〇號三十一年二月廿五日）

◎後見人ハ被後見人ノ財產ヲ管理スルニ付獨立固有ノ權利ヲ有ス假令被後見人ノ犯罪行爲ニ起因スル場合ト雖モ其損害ノ回復ヲ求ムルノ權利アリ故ニ被後見人ノ犯罪行爲ニヨリ害入トナシタル登記ノ取消ヲ求ムルヲ得ヘシ然ルニ被後見人ハ刑ノ言渡ヲ受ケ又犯時未丁年者ナルモ責任ヲ辨識シタルモノト認ムルヲ以テ被後見人カ賠償ノ責任ヲ盡シタル上ニ在サレハ後見人ハ債權者ニ對シ登記ノ取消ヲ求ムルヲ得ス又後見人ニ何等ノ損害ナシトノ理由ヲ以テ棄却シタルハ違法ナリ（三十一年三〇三號同年三月廿九日）

第四十七條　數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償

第四十八條　裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ

審判スルコトヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス

◎刑法附則第四十八條贓物犯人ノ手ニ存在スルトキハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ストノ規定ハ犯人カ其物件ニ付キ何等ノ權利ヲ有セサル場合ニ適用スヘキ者トス從テ質權者タル犯罪人カ一旦賣却シタル質物ヲ取戻シ其占有中ニ押收セラレタルトキニ於テハ其贓物ハ質權者タル犯罪人ニ還付スヘキモノトス（三十四年）

第五節　刑期計算

第四十九條　刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條　刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第五十一條　刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタルモノハ左ノ例ニ從フ

一　犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス

二　檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス

三　上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

◎刑法第五十一條ニ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ストアルハ單ニ上訴ヲ爲ササル場合ヲ定メタルモノトス而シテ同條一二號ニハ刑名ノ文字ナキヲ以テ其前判宣告ノ法文ニハ無罪ノ宣告モ亦該當ス（廿四年二七〇號同年十一月廿六日）

◎刑法第五十一條二號ノ法文ニハ被告及ヒ檢察官ヨリ同時ニ上訴ヲ爲シタル場合及檢察官カ附帶上告ヲ爲シタル場合ニモ之ヲ包含ス（廿四年三〇六號同年十二月三日）

◎上訴中ニ係ル日數ヲ刑期ニ算入スルハ必ス公判宣告ニ對スル上訴正當ナル時ニ限ルモノトス故ニ其他ノ言渡ニ對スル上訴ハ正當ナルモ刑期ニ算入スルヲ得ス（廿五年一七五號同年三月廿四日）

◎被告カ控訴申立成立セサルモ其後檢事總長ノ非常上告ニ依リ前判決ヲ破毀スルトキハ刑期計算ハ前判決宣告ノ日ヨリ起算ス（廿五年四四一號同年五月十九日）

◎上告ヲ爲シ後取下願書提出シ其聞屆アレハ上訴不當ノ場合ト同一ニ歸スルヲ以テ聞屆ノ日迄ハ刑期ニ算入スルヲ得ス（廿五年六一二號同年九月十九日）

◎被告ノ上告理由アリテ破毀ノ後第二控訴院ニ繫屬中ニ於テ被告ノ控訴取下ケアリタル場合ニ刑期ハ一審判決ノ日ヨリ大審院破毀ノ日迄算ス入ヘキモノトス（廿七年二四三號同年三月廿九日）

◎上告相當ナリシ効果トシテ刑期ヲ一審刑名ノ宣告ノ日ヨリ起算スル場合ニ於テ一審裁判カ欠席判決並ニ對席判決ノ二個アリタル時ハ對席判決宣告ノ日ヨリ起算スヘシ何トナレハ欠席判決ハ故障ノ受理ニ依テ消滅スルヲ以テナリ（廿七年四九三號同年五月廿九日）

◎刑法五十一條二項ノ場合ニハ上訴ノ結果犯人ノ利益トナルト否トニ拘ラス其日數ヲ刑期ニ算入スヘキモノトス故ニ被告カ上訴ヲ爲シタルモ檢事ノ附帶上告アル時ハ其上告ノ正當ナルト否トニ拘ラス前判ノ日ヨリ刑期ヲ起算セサル可カラス（廿七年五三四號同年

六月五日）

◎刑法五十一條三號ノ規定ハ上訴中ニ保釋又ハ責付セラレ居リタル者ハ上訴完結ノ前後ヲ問ハス其保釋又ハ責付中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ストノ趣旨ナリト解釋スルヲ相當トス何トナレハ即チ身体ノ拘束ヲ受ケサル保釋又ハ責付中ニ日數ヲ刑期ニ算入スルノ理アラザレハナリ（廿八年八四號同年七月四日）

◎甲裁判所ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルニ控訴院ニ於テ管轄違ノ理由ヲ以テ事件ヲ乙裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シ其判決確定シタル時ハ甲裁判所ノ訴訟手續ハ全然無効ニ歸スヘキモノトス從テ其管轄違ノ判決以後更ニ第一審ノ判決アルマテノ拘留ハ未決拘留ト同視スヘキモノニシテ刑期ニ算入スルヲ得ス（廿九年抗告一號同年二月四日）

◎故障ハ上訴ニ非ス故ニ故障申立ヲ理由アリトシタル時ト雖モ刑法五十一條一號ヲ適用スルヲ得ス（廿九年一六號同年十二月七日）

◎大審院ニ於テ甲控訴院ノ判決ヲ破毀シテ乙控訴院ニ移送シタル場合ニ於テ其後ノ上訴正當ナラサル以上ハ大審院ノ破毀ノ判決ヨリ乙控訴院ノ判決アルマデノ日數ハ刑期ニ算入スヘキモノニ非ス（三十年抗告一〇號同年九月二十四日）

◎公訴ノ裁判費用ニ關スル點ノミニ付第一審判決ヲ更正シタルトキト雖モ上訴ハ正當ナルヲ以テ刑法第五十一條ニ依リ其刑期ハ前判決宣告ノ日ヨリ起算ス（三十三年）

◎欠席判決ニ對シ故障ヲ申立テ有罪ノ對審判決ヲ受ケ控訴審ニ於テ原判決ヲ取消ノ上更ニ有罪ノ判決ヲ受ケタル場合ニ於テハ其刑期ハ前判即チ對審判決ノ日ヨリ起算スヘキモノニシテ欠席判決ノ日ヨリ起算スヘキモノニアラス（三十四年）

◎控訴ノ判決ニ對シ上告ヲ爲シ上告審ニ於テ棄却セラレタル場合ハ刑期ハ后判決ノ宣告日即チ上告裁判所ノ判決言渡ノ日ヨリ起算スヘキモノトス（三十四年）

第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サルヽト雖モ仍ホ島地ニ居住セシム

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス（三十一年法律第十一號民法施行法第十四條ヲ以テ本條中削除）

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス

第七節 期滿免除

第五十八條 刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

一　死刑ハ三十年
二　無期徒刑流ハ二十五年
三　有期徒流刑ハ二十年
四　重懲役重禁獄ハ十五年
五　輕懲役輕禁獄ハ十年
六　禁錮罰金ハ七年
七　拘留科料ハ一年

第六十條　剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス

第六十一條　期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ闕席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

◎刑法第六十一條ノ后段欠席判決ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算スル法意ハ管轄權ノ有無ニ拘ラス苟モ裁判所ニ於テ欠席判決ヲ以テ刑ヲ宣告シタルトキハ宣告ノ日ヨリ刑ノ時効ノ進行ヲ開始スルモノトス（三十三年）

第六十二條　刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

◎詐欺的委託金費消ノ罪ハ其金額ヲ領收シ其目的ヲ遂ケタル時ニ於テ始メテ成立スルモノニ付之カ經時効モ亦其目的ヲ遂ケタル時ヨリ起算セサルヘカラス（廿四年八一號同年十月五日）

◎刑法六十一條ニ期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス云々欠席判決ニ係ルトキハ其宣告ノ日ヨリ起算ストアリ然ラハ其欠席判決ヲ受ケタル日ヨリ同法五十九條ニ規定スル年限ヲ經過シタルニ於テハ其欠席判決ハ確定シ已ニ期滿免除ヲ得タル者ニ付其欠席判決ヲ受ケタル者ヨリ故障ノ申立ヲ爲スモ之ヲ受理スヘキモノニ非ス（廿七年七一號同年三月廿五日）

◎凡ソ刑ノ言渡ハ其對席タルト欠席タルトヲ問ハス之カ執行ヲ目的ト爲スモノナルヲ以テ被告カ執行ヲ免ルル點ニ付テハ兩者相異ナラス故ニ刑法六十二條ヲ欠席判決ニ適用スルヲ得サルノ理ナシ（廿七年二四七號同年十一月廿七日）

◎私印私書僞造罪ハ行使ニ依リテ完成ス從テ其時効ノ成就ハ行使ノ日ヨリ起算スヘク僞造ノ日ヨリ起算スヘキモノニ非ス（廿八年一〇三七號九月十六日）

第八節　復權

第六十三條　公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第六十四條　大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス

赦ニ由テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス

第六十五條　復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラス

第三章　加減例

第六十六條　法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス

但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第六十七條　重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一　死刑
二　無期徒刑
三　有期徒刑
四　重懲役
五　輕懲役

第六十八條　國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一　死刑
二　無期流刑
三　有期流刑
四　重禁獄
五　輕禁獄

第六十九條　輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第七十條　禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金願ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルコトヲ得

第七十一條　禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルコトヲ得

◉禁錮ヨリ四等ヲ通減スル時ハ禁錮減盡スルヲ以テ拘留ニ處セサルヘカラス（廿四年二部一〇四號同年四月十三日）

◉被告カ富籤購買ノ所爲再犯ニ係ル時ハ明治十五年廿五號布告二條ニ定メタル二十日以上四月以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ノ二倍ノ範圍内ニ於テ處分スヘキモノトス乃チ被告ハ前キニ同罪ニ付重禁錮二月十五日罰金十圓ニ處セラレタルモノナレハ同布告三條一條二條ノ罪ヲ再犯シタルモノハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス」トノ但書ニ從ヒ本件ノ最下限ヲ重禁錮二月十五日罰金十圓ト定メザルヘカラス左スレハ假令二等ヲ酌減スルモ其最下限ヲ一月七日ノ重禁錮即チ二月十五日ノ四分ノ二五圓ノ罰金即チ十圓ノ四分ノ二ニ下スコトヲ得ス然ルニ原裁判所カ被告再犯ノ所爲ニ對シ重禁錮一月罰金六圓ニ處シタルハ加減法ヲ

誤リタルモノナリ（廿六年一三八八號同年十二月廿五日）

◎又同布告ノ二條ニ二倍トアルヲ前キニ被告ニ科シタル刑期金額ノ二倍ニ處スヘキモノト解釋スルハ誤解ナリ（同上）

◎判決ニ如重ノ方法及加重シタル刑期金額ノ範圍ハ特ニ之ヲ擧示セサルモ總則ノ規定ニ依リ自ラ明カナリトス而シテ總則ノ法條ハ必シモ逐一之ヲ明示スルヲ要セス即チ加重ノ法條タル九十二條ヲ適用セハ該七十條ノ如キハ明示スルノ限ニアラス（廿七年三六七號同年四月廿四日）

◎原判決ハ法律ノ適用上錯誤ノ廉ナキモ刑法三百二條ニ依リ三百一條一項ノ刑ニ一等ヲ加フレハ其長期重禁錮三年九月ト成ルナリ而シテ八十五條ニ從ヒ其本刑ニ一等ヲ減スレハ其長期ハ二年九月廿二日ニシテ三年ノ刑期ヲ算出スヘキ謂レナシ（廿八年二四五號同年三月十九日）

第七十二條　拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルコトヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルコトヲ得減シテ一日以下ニ降スコトヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルコトヲ得減シテ五錢以下ニ降スコトヲ得ス

第七十三條　禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第七十四條　附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ亦タ主刑ヲ科ス

第四章　不論罪及ヒ減輕

第一節　不論罪及ヒ有恕減輕

第七十五條　抗拒ス可カラサル制强ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同シ

第七十六條　本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス

第七十七條　罪ヲ犯スノ意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラス

罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其重キニ從テ論スルコトヲ得ス

罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルコトヲ得ス

法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スコトヲ得ス

第七十八條　罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス

◎飲酒酩酊ヲ以テ精神ノ喪失ト認ムルト否トハ承審官ノ事實認定ニ屬ス（廿八年七八八號同年九月十六日）

◎法律ハ酒癖者ノ飲酒シタル事實ヲ以テ其所爲知覺精神ノ喪失ヲ推測スルコトナシ（廿八年一〇二四號同年十一月十四日）

第七十九條　罪ヲ犯ス時十二歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歲以上ノ者ハ情狀ニ因リ

滿十六歲ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

◎法律ニ於テ十二歲ニ滿タサルモノハ其罪ヲ論セスト規定シタルハ罪アリトシテ之ヲ免スルノ注意ニ非ス十二歲以下ノ幼者ハ犯罪組成ノ要素タル罪ヲ犯スノ意思ヲ缺クモノト看做ニ由ル故ニ十二歲ニ滿タサル幼者ノ所爲ハ偶刑法ノ制裁ニ觸ルルコトアリ雖トモ固ヨリ罪ヲ犯シタリト爲スヘカラス從テ一般ノ犯罪ニ幼者ノ加功スルコトアルモ之カ爲メ二人以上共ニ其罪ヲ犯シタルモノト爲スヘカラサルコト勿論ナリトス（廿八年八三大號同年七月二日）

◎罪ヲ犯ス時十二歲ニ滿タサル者ノ不論罪及親屬相盜者ノ所爲窃盜ヲ以テ論セサルハ畢竟身分ニ依リ其罪ヲ論セサルノミ其性質ニ於テハ即チ窃盜タルコト論ヲ俟タス故ニ十二歲未滿ノ幼者及親屬間ノ窃盜ニ係ル財物ヲ寄藏シ又ハ故買シタル者ハ刑法ノ制裁ヲ免レス（廿七年七九號同年一月二十五日）

第八十條　罪ヲ犯ス時滿十二歲以上十六歲ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歲ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

◎刑法八十條ニ謂フ是非ノ辨別トハ所爲ノ善惡ヲ識別スルノ知力ニシテ罪ヲ犯スノ意思ノ有無ニ關セス（廿四年二部一〇三號同年四月廿四日）

◎被告人ノ年齡ヲ算出スルニハ明治六年三十六號布告ニ依リ其生月ヨリ起算スルモノトス（廿四年一八九號同年六月十六日）

◎十六歲以上二十歲未滿ノ犯罪者ニ付テハ刑法上其二十年ニ滿ルト否トヲ區別スルヲ必要トナスモ其丁年未丁年ノ區別ヲ爲ス必要ナルカ故ニ右斷罪ノ際明治六年三十六號同五年三百三十七號布告ヲ適用シ同九年四十一號即チ丁年ヲ定メタル布告ヲ適用セサルハ相當ナリ（二十六年八三七號同年十月三十日）

◎被告人ノ年齡ハ必スシモ戸籍ニ憑據スルヲ要セス證人及參考人ノ豫審調書ヲ採用シ之ニ依テ算定スルコトヲ得而シテ其年齡ノ算定ハ事實問題ニ屬ス（廿九年二二二號同年三月十九日）

◎年齡ヲ認定スルニハ必スシモ戸籍ニ依テ定ムヘキモノニ非ス之ヲ認定スルハ事實承審官ノ職權ニ屬ス（三十一年五三一號同年六月三日）

◎懲治場ノ留置ハ特別ノ處分ニシテ刑ノ言渡ニアラス（三十三年）

第八十一條　罪ヲ犯ス時滿十六歲以上二十歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

◎刑法第八十一條ニ所謂十六歲以上ノ文詞ニハ滿十六歲ヲ包含ス（廿九年二八八號同年三月三十日）

◎法律上ニ於テ連續犯ハ分割スヘカラス從テ最初ノ犯行丁年未滿ナレハトテ之ヲ分割シテ刑法八十一條ヲ適用スルコトヲ得ス（三十年三八〇號同年五月十日）

第八十二條　瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十三條　違警罪ハ滿十六歲以上二十歲ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得ス

滿十二才以上十六才ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス十二才ニ滿サル者及ビ瘖啞者ハ其罪ヲ論セス

第八十四條　此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節　自首減輕

第八十五條　罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス

◎刑法八十五條ハ罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ官ニ自首シタル者ハ減等スルノ法規ニシテ脫監逃走ノ如キ已發罪ハ該法條ノ支配外ナリトス（廿四年二部一八八號同年六年廿九日）

◎自首ハ事未タ官ニ發覺セサル前ニ於テ官ニ之ヲ爲ス時ハ有効ニシテ減輕ヲ與ヘサルヘカラス從テ其事ノ被害者ニ發覺スルト否トハ敢テ以ヲ問ハス（廿六年一二七五號同年十二月七日）

◎裁判宣告前ニ任意ニ自白ヲ爲シタルモ自首ト云フヲ得ス（廿七年四一〇號同年六月十八日）

◎僞證ノ自首モ一般自首ノ總則ニ依ル（廿七年八四四號同年十二月十三日）

◎刑法八十五條ニ所謂官トアルハ捜査權ヲ有スル檢事又ハ司法警察官ヲ指示シタルモノニシテ捜査權ヲ有セサル豫審判事ハ包含セス依テ豫審判事ニ爲シタル自首ハ法律上無効ナリ（廿八年三〇號廿八年三月十一日）

◎自己ノ犯罪ヲ悔悟セシ旨ヲ申送リタル書簡ハ總合相當官吏ニ宛テタルモノト雖モ之ヲ以テ官ニ自首シタルモノト認ムルヲ得ス（廿八年三七一號同月十六日）

◎自首ノ事實ヲ認メナカラ自首減等ノ法條ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アリ（廿九年八九一號同年九月廿一日）

◎檢事ノ推問ニ基ツケル犯罪事實ノ告白ハ自首ニ非ス（三十年五六九號同年十月十五日）

第八十六條　財產ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ノ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタルトキハ二等ヲ減ス

第八十七條　財產ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第八十八條　此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ揭ケタル者ハ各其本條ニ從フ

第三節　酌量減輕

第八十九條　重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得

第九十條　酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

◎酌量減輕ハ本刑ノ範圍ニ從テ減輕スヘキモノニシテ被告人ニ科スヘキ刑期ヲ定ヲ其刑期ヨリ減輕スヘキモノニ非ス（廿九年一〇四九號同年十月廿九日）

第五章　再犯加重

第九十一條　先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

◎再犯加重ヲ言渡シナカラ單ニ被告カ前犯ノ罪名ノミヲ掲ケ其所斷セラレタル正條ヲ示サス爲メニ前犯カ大赦令ニ依リ消滅シタルヤ否ヤ判別スルニ由ナキモノハ事實理由ノ不備アルモノトス（廿四年九八號同年五月五日）

◎被告ノ犯罪再犯已上ナル時ハ何等ノ犯罪ニ依リ何レノ裁判所ニ於テ如何ナル刑ニ處セラレタルヤ其事實ヲ明示セサルハ理由不備ノ不法タリ（廿六年三〇八號同年四月二十四日）

◎單行ノ條例ニシテ再犯加重ノ規定ナキモノハ刑法ノ總則ニ依リ再犯加重ノ處分ヲナスヘキモノトス（廿九年六〇二號同年六月十六日）

◎再犯ニ係ル數罪俱發ノ場合ニ於テハ先ツ再犯加重例ニ照シ其數罪ニ付キ各一等ヲ加ヘ然ル後數罪俱發例ヲ適用シ一ノ重キニ從ヒ處斷スヘキモノトス（三十年一〇七七號十二月十日）

第九十二條　先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

◎輕罪三犯以上ヲ認メ刑法九十八條ヲ適用セサルモ九十二條ヲ適用セハ不法ニ非ス（廿七年五四六號同年八月十六日）

◎判決ハ特典ノ爲メニ其効ヲ失ハス從テ前犯重罪ノ判決ヲ受ケタル後特典ニ依リ輕罪ノ刑ニ減セラルルモ後犯重罪ニ係ル時ハ仍ホ重罪ノ再犯加重ヲ以テ之ヲ論ス（廿八年九四六號同年十月五日）

◎刑法九十二條ニ再犯輕罪ニ該ル時トアルハ再犯ノ罪輕罪ノ刑ニ該ル時ヲ指シタルモノトス（三十年九四二號同年十月五日）

第九十三條　先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年內再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地內ニ於テ犯シタルニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十四條　再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第九十五條　刑期限內再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス

罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徵收ス

第九十六條　陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十七條　大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十八條　三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

第六章　加減順序

第九十九條　犯罪ノ情犯ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

一　再犯加重
二　宥恕減輕
三　自首減輕
四　酌量減刑

第七章　數罪俱發

第百條　重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經ス二罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス重罪ノ刑ハ刑期ノ長キヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

◎數罪俱發トハ必シモ異性質ノミ俱發シタル場合ニ限ルヘキニ非ラサレハ同性質ノ犯罪俱發シタル場合ハ其性質ノ同一ナルニ拘ラス刑法百條ニ依リ其中孰レカ情狀重キニ從ヒ處斷スヘキモノトス（廿七年九五號同年一月廿五日）

◎一事件ノ審理中上告ニ係ル他ノ未確定ノ一事件アルコトヲ認メタル時ハ數罪俱發ノ例ニ照シテ之ヲ處分セサルヘカラス否ラサレハ被告人ヲシテ各刑各別ニ執行ヲ受クルノ不都合ヲ生スヘシ（廿七年一二四七號同年三月一日）

◎刑法百條ノ所謂輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最モ重キ者ニ從テ處斷ストハ俱發ノ各罪ニ付刑法ノ規定スル刑ノ範圍ノミヲ以テ輕重ヲ比較スヘキニ非スシテ其所犯ノ情狀ノ輕重ニ據ルヘキモノトス（廿七年二九九號同年四月十二日）

◎被告カ一ノ犯罪ニ付甲地方裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケ又他ノ犯罪ニテ乙地方裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケタル場合ニ被告カ右二ケノ判決ニ對シ控訴ヲ爲シタル時ハ其判決ハ未タ確定セサルヲ以テ原院カ刑法百二條ヲ適用處斷セサルハ相當ナレトモ數罪俱發ニ付刑法百條ヲ適用シ一ノ重キニ從テ處斷スヘク各罪ニ付各本刑ヲ併科スヘキ者ニ非ス故ニ甲乙ノ裁判所ニ現理ナキモ原院ハ共ニ之ヲ取消シ更ニ相當ノ判決ヲ爲スヘキニ右二ケノ裁判ヲ認可シ遂ニ二刑併科ノ結果ヲ生スルニ至ラシメタルハ破毀ヲ免レサル裁判ナリ（廿七年三七六號三七七號合件同年六月十一日）

◎二罪俱發ノ場合ニ於テ其二罪ニ付各法律ヲ適用シ其重キ一罪ノミニ付刑期ヲ明示シアレハ他ノ一罪ニ對シ刑期ヲ明示セサルトテ被告ノ利害ニ關係ナク又之ヲ明示スヘシトノ法規ナケレハ之ヲ以テ違法ノ裁判ト云フヲ得ス（廿七年四三五號同年六月廿五日）

◎原判決ハ窃盗罪ト賭博罪ト併發シタリト認定シナカラ其法律適用ニ當リ數罪俱發例ニ因リ一ノ重キ窃盗罪ノ刑ヲ執行スルニ止メ云々ト說明シタルノミニシテ數罪俱發例中第何條ニ照シ一ノ重キ窃盗罪ノ刑ヲ執行スヘキヤ其正條ヲ明示セサリシハ法律ニ依リ判決ニ理由ヲ付セサル違法ヲ免レス（廿七年八六四號同年十月十九日）

◎二審カ判決ヲ與フルノ當時別件ノ上告中ニ係リ未タ確定判決ヲ經タルモノニアラサレハ數罪俱發例ヲ適用セサリシハ相當ナリ（廿七年一三五九號廿八年一月廿一日）

◎二罪俱發ノ事件ニ付一罪ノミヲ控訴シタル時ハ他ノ一罪ハ確定スルヲ以テ控訴ニ係ル一罪ハ餘罪後發ノ例ニ依リ處斷スヘキモノニシテ數罪俱發ノ法條ヲ適用スヘキモノニ非ス（廿八年八八〇號同年九月廿八日）

◎數罪俱發一ノ重キニ從テ處斷スル場合ニ於テハ其輕キ罪ニ付テハ別ニ刑ヲ科セサルヲ以テ其輕キ罪ニ付未遂犯減等ノ法條ヲ摘記シタルノミニシテ何等ヲ減スヘキモノナル

コト迄モ詳記セサルモ不法ニ非ス（廿八年一三八五號同年十二月十三日）

◎二個各別ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合ニアリテハ其一ハ控訴期間ヲ經過シタル爲メ棄却ノ言渡ヲ爲スモ仍ホ二個ノ判決ヲ對照シ數罪俱發例ニ依リ處斷スヘキ者トス（廿九年八九四號同年九月廿四日）

◎數罪俱發シタル時ハ主刑ハ重キニ從テ處斷シ沒收ノ附加刑ハ之ヲ併科ス（廿九年一〇九八號同年十一月十九日）

◎明治十四年布告七十二號五條ニ所謂法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒスシテ刑法施行以前ノ法律規則ヲ指シタルモノトス（三十年七二〇號同年九月十日）

◎數罪俱發一ノ重キニ從テ處斷スルハ其俱發セル數罪ノ全部ニ對シ單ニ一刑ヲ科スルヲノニ外ナラス（三十二年三八二號同年四月十一日）

◎數人一体ヲ組成シテ同一ノ行爲ヲ爲シタルモノト雖モ犯罪全体ニ付キ總テ其責ニ任スヘキモノニアラス故ニ各人自ラ干與セサル部分ニ就テハ刑法上ノ責ヲ負フヘキモノニアラス（三十二年一〇二五號同年十一月廿八日）

◎地所賣渡證書正副二通ヲ僞造シテ同時ニ行使シタル所爲ハ一所爲ニシテ二所爲ニ非ス（三十一年第四三七號三十一年五月十二日）

◎刑期等シク且共ニ定役アル刑ニ該ルヘキ重罪數個アル場合ニ付テハ法律自カラ其輕重ヲ判定スヘキ標準ヲ規定セス是卽チ判定權ヲ擧ケテ裁判官ニ一任シタルモノトス故ニ數罪中何レカ重キヤヲ判定シ其旨ヲ明示セハ足ルモノニシテ理由ノ如キハ示スヲ要セス（三十一年二七三號同年四月一日）

◎二罪俱發セシ場合ニ於テ一ノ重キニ從テ處斷スルニ當リ適用スヘキ法條ヲ明示セサル判決ハ不法ナリ（三十一年第九〇七號三十一年十月三十一日）

◎證言ノ事項カ一個ナルモ重罪及輕罪ヲ曲庇スルトキハ數個ノ僞證罪ヲ構成ス（三十三年れ五七八號三十四年一月十七日）

◎假證罪ハ重罪又ハ輕罪ヲ曲庇シ若クハ防害スル等ノ場合ニ於テ各其刑ヲ異ニス從テ一片ノ僞證ト雖モ被告人數名ニ對スル場合ハ數罪俱發以テ處斷スルモノトス（三十四年れ五五六號同五月九日）

◎一罪前ニ發覺シ既ニ判決ヲ經テ二個ノ餘罪后ニ發覺シタル場合ニ於テハ二罪俱發ナルヲ以テ先ツ刑法第百條ヲ適用シ而シテ后同法第百二條ヲ適用スヘキモノトス（三十四年三四〇號同三月二十二日）

◎他ノ三人ノ承諾ナキニモ拘ラス自己ト共ニ速帶債務者ノ如ク裝ヒ一個ノ借用證書ヲ僞造行使シタル所爲ハ一罪ニシテ三罪ニ非ス（三十四年第八二〇號同六月七日）

◎數個ノ犯罪行爲ヲ意思繼續ノ爲メ一罪トナルハ變例ニ屬ス從テ意思繼續ノ事實ヲ認メサルトキハ別ニ判文ヲ以テ之ヲ說明スルノ必要ナシ（三十四八年七六號同年六月十四日）

第百一條　遠警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ

第百二條　一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其經ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ何ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス

若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ罪セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

◎被告ハ明治廿二年中他ノ犯罪ニ依リ處刑セラレタル際本件ノ罪ヲ包藏シ同廿四年中再犯ノ罪ニ依リ處刑セラル、際仍ホ之ヲ包藏シ其刑期滿限ノ後本件ノ罪發覺シタル時ハ刑法百二條二項ノ再犯ノ罪ト俱ニ發シタルノ例ニ依リ其再犯ノ刑ハ通算スヘキモノナルヲ以テ廿四年中ニ處斷セラレシ刑ハ通算シ廿四年中ノ處刑ハ通算セサル者トス（廿六年一〇一六號同年十二月十八日）

◎本件ノ犯罪ハ被告カ既ニ處斷ヲ受ケタル違警罪ノ餘罪ニシテ其刑重キニ付刑法百二條ヲ適用シ被告ノ既ニ受ケタル違警罪ノ拘留七日ヲ本刑ニ通算スヘキモノナルコトハ判決ノ理由ニ明示シタル如クナレトモ右ノ拘留ヲ本刑ニ通算スルハ刑ノ執行處分ニアラスシテ判決ナルヲ以テ必ス之ヲ判決主文ニ明示セサルヘカラス然ルニ其判決主文ニ本刑ノミラ掲ケ拘留通算ノ點ヲ明示セサリシハ擬律ノ錯誤タルヲ免レス（廿七年一三九六號廿八年一月廿二日）

◎刑法百二條二項ハ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發覺セサル罪カ再犯ノ罪ト俱ニ發シタル場合ニ適用スヘキ特別ノ規定ナレハ之ニ適當セサル場合即チ俱ニ發シタルニ非ザル場合ニ於テハ一般ニ係ル規定即チ同條一項ヲ適用シテ處斷セサルヘカラス（廿八年五〇一號同年六月廿七日）

◎刑法二百四條一項同百九十七條一項同百九十五條ノ所爲アル者ニ對シ同法二百六條ヲ適用セスシテ單ニ同法百條一項ノミヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ナリ（三十一年二五號同年二月十五日）

◎刑法百二條末項ハ再犯ノ罪ト共發シタル餘罪處分法ナリト雖モ再犯ノ罪及餘罪トモ數罪アル場合ニハ各其數罪中ノ一ノ重キモノヲ定ムルコトモ本條ニ規定シタルニ非ス故ニ本項ヲ處斷スルニハ先餘罪ト再犯ノ罪トニ對シ各刑法百條ヲ適用シ各一ノ重キモノヲ定タル上同百二條末項ニ照シ其二罪中ノ一ノ重キニ從ヒ處斷セサルヘカラス然ルニ同百二條末項ノミヲ以テ處斷シタルハ不法ナリ（三十一年一四九號同年三月一日）

◎刑法百二條ニ所謂餘罪トハ前發ノ甲罪ト後發ノ乙罪ト俱發シタル時ハ同法百條ニ依リ處斷スヘキモノヲ云フ（廿九年九〇三號同年九月廿五日）

◎刑法百二條ニ所謂餘罪トハ或ル犯罪ノ判決後ニ至リ發覺シタル以前ノ犯罪ヲ云フ（廿九年九〇一號同年九月十九日）

◎前發ノ罰金ヲ後發ノ刑期ニ通算スル言渡ハ刑ノ言渡ニ非サルヲ以テ法律ノ理由ハ明示ヲ要セス（廿九年八五二號同年十月廿二日）

◎第一審裁判所ニ於テ恐喝取財及賭博ノ二罪アルコトヲ認メ刑法百條ニ基キ一ノ重キ恐喝取財罪ニ依リ處斷シタル判決ニ對シ被告人ハ賭博罪ニ服シ恐喝取財罪ノミヲ控訴シタル時ハ第二審裁判所ハ賭博罪ヲ以テ恐喝取財罪ノ餘罪トシ刑法百二條ヲ當行スヘキモノトス（廿九年九九六號同年十一月二日）

◎刑法第百二條第一項ハ數罪俱發例ニ依テ處分スヘキ犯罪前後時ヲ異ニシ發覺シタル場合ニ適用スル規定ナリ

刑法第百二條第二項ハ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發覺セサル罪カ再犯ノ罪ト俱ニ發シタル場合ニ適用スヘキ特別ノ規定ナリ（三十二年非常上告第四號三十三年一月二十九日）

◎刑法第百二條餘罪后發ノ例ヲ適用シテ其輕重ヲ比較スルニハ前發ノ主刑ト后發ノ主刑

トヲ以テ標準トスヘキモノトス（三十三年れ第七〇二號三十三年六月十八日）

◎刑法第百二條ノ所謂餘罪トハ或ル犯罪ノ判決以前ニ於テ犯シタル罪ヲ謂フモノニシテ其當時未タ發覺セサル罪ハ勿論既ニ發覺スルモ同時ニ判決ヲ經サリシモノハ皆之ニ包含スルモノトス（三十三年れ一二九號同年十一月三十日）

◎刑法第百二條第一項ハ數罪俱發例ニ依テ處分スヘキ性質ノモノ、前后時ヲ異ニシテ發覺シタル場合ニ適用シ同條第二項ハ前發ノ罪ヲ判決スルトキ未タ發覺セサル罪カ再犯ト俱ニ發シタル場合ニ適用スヘキ特別ノ規定ナリトス（三十二年抗告四號三十三年一月二十九日）

◎數罪俱發例ニ依リ處斷スヘキモノハ其管轄ニ屬スル事件ニ限定スルモノトス（三十三年五號同年二月二日）

◎二人ヲ殺害センコトヲ豫謀シ以テ二人ヲ殺害シタルトキハ數罪俱發例ヲ適用スヘキモノトス（三十三年レ四一〇號同年五月二十四日）

◎文書僞造ニシテ詐欺取財ノ手段タルトキハ二者通シテ一罪ヲ構成スルモノナレハ詐欺取財成立ノ同時ニ於テ文書僞造罪モ亦成立シタルモノトス從テ餘罪ノ后發シタル場合ニ在テハ一罪トシテ刑法第百二條ヲ適用スヘキモノトス（三十四年）

◎刑ノ輕重ハ主刑ヲ以テ標準トナスヘキモノトス因テ第一審判決ニ於テ附加セサル罰金刑ヲ附加スルモ主刑ニシテ第一審判決ヨリ輕キトキハ第一審ヲ被告人ノ不利益ニ變更シタルモノト謂フヲ得ス（三十四年）

◎前發ノ刑カ禁錮罰金監視ニシテ后發ノ刑亦禁錮罰金監視トナルトキハ前發ノ罪ニ科シタル禁錮ノミナラス罰金監視ノ刑モ同シク通算スヘキ者トス（三十四年れ四三二號五月九日）

第百三條　數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第八章　數人共犯

第一節　正犯

第百四條　二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

◎刑法三百六十九條ニハ二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フトアリテ共ニ三百六十六條以下二條ノ法律ヲ適用スヘキ共犯者アル場合ニノミ適用スヘキモノナリ而シテ甲者ト共ニ罪ヲ犯シタル乙者ニハ刑法二百八十九條ヲ適用シタルニ甲者ニハ三百六十九條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナリ（廿七年一〇九一號同年十一月一日）

◎數人共犯ノ事實ヲ認メ刑法ノ各正條ヲ適用シタル上ハ特ニ同法百四條ノ總則ヲ適用スルヲ要セス（廿八年九三五號同年十月一日）

◎犯罪實行ノ場所ニ於テ見張ヲ爲シタル所爲ハ犯罪ノ實行ニ外ナラス（廿八年一三五一號同年十二月十九日）

◎數人共謀ノ事實アル以上ハ其共謀者中何人カ之ヲ實行スルモ共謀者一体行爲ナリトス（廿九年一七六號同年三月三日）

◎數人共謀ノ上同一ノ決意ヲ以テ同時同所ニ於テ他ノ數人ノ對シ殺害ノ行爲ヲ加ヘタル時ハ各被害者ニ對シ各別ノ犯罪ヲ構成スヘキモノニシテ一罪トシテ處斷スヘキモノニ非ス（廿九年六四一號同年六月廿九日）

◎情ヲ告ケスシテ他人ヲシテ犯罪行爲ニ功加セシメタル時ハ犯罪者ニ於テ其刑責ヲ受クヘキモノトス（廿七年七九九號同年九月十八日）

◎二人以上共ニ相謀リ各其分擔スル所ヲ定メ犯罪行爲ニ着手シタル以上ハ分身一体ニシテ均シク正犯ナリ（廿九年七三七號同年十月十三日）

◎刑罰ハ共犯者間ニ分割スヘキモノニ非ス故ニ被告各自ニ罰金ヲ科シタルハ當然ナリ（廿九年一一九六號同年十二月十五日）

◎情ヲ知ラサル第三者ヲ使役シテ犯罪行爲ヲ爲サシメタル時ハ縱令自ラ其行爲ヲ行ハサルモ正犯タルノ責任ヲ免カレス（三十年三四號同年二月十八日）

◎没收ハ一ノ附加刑ニシテ共犯ハ同身一體離ルヘカラサル關係アル犯罪供用ノ物件共犯中ノ一人ノ所有ニ係ル場合ト雖モ他ノ共犯人ニ對シテモ實際ノ利害如何ニ拘ハラス没收ヲ言渡スハ不當ニ非ス（三十年一一五四號三十一年一月廿一日）

第百五條　人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

◎教唆者ヲ罰スル所以ハ其惑思ヲ犯人ニ移シ犯罪ノ原因トナサシメ以テ犯罪ヲ決行セシメタルニ依ルモノナレハ必スヤ判文上教唆者カ犯罪ノ手段ヲ示シ之カ教唆ヲ爲シタル事實ヲ明示セサルヘカラス（廿三年一一四號廿四年一月廿七日）

◎毆人ヲ教唆シテ毆打創傷セシメ依テ被害者ヲシテ二十日以上職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル場合ニ於テ下手者ノ一部ハ刑法四百廿五條第九ノ適用ヲ受クルニ止リ而シテ他ノ下手者未タ同三百一條一項ノ處分ヲ受ケタルモノナキ時ト雖モ教唆者ハ三百一條ノ適用ヲ免ルルコト能ハス（廿四年五一號同年七月九日）

◎甲者乙者宛ノ郵便在中ノ爲替券ヲ窃取シ丙ヲシテ乙ノ名義ヲ詐稱シ乙ノ氏名ヲ記載シ自己ノ實印ヲ押サシメ局員ヲ欺キ金員ヲ交付セシメタルハ窃盗ノ結果ニシテ私書僞造行使詐欺取財教唆ノ罪ニ非ス丙ハ甲ト共謀ノ事跡ナク單ニ甲ノ指旨ニ從ヒ前顯ノ詐僞ヲ爲シ金員ヲ甲ニ交付シタルモノナレハ事后ノ從犯ニシテ法律上罪トナラス（廿五年一一八七號同年十一月廿四日）

◎教唆罪ハ教唆者カ或手段方法ヲ用ヰ他人ヲ教唆シ犯罪決行ヲ爲サシメタルノ所爲アルヲ要ス而シテ被告兩名共謀シテ新聞原稿ヲ製シ之ヲ新聞社ニ投書シタルニ過ス抑モ投書ノ取捨ハ新聞社編纂人ノ隨意ニ屬スヘキモノナレハ他人ノ惡事ヲ新聞ニ投書シタル事實ヲ以テ犯罪教唆ノ手段方法ト爲スヲ得ス（廿六年五三五號同年六月十二日）

◎傭人ノ手ヲ假リ盗伐シタリト認メタル時ハ現場ニ在テ指揮スルト他所ニ在テ指揮スルトニ因リ教唆ト共犯トノ別ヲ生スル理由ナケレハ指揮ノ場所ヲ明示スルヲ要ス（廿六年五六九號同年六月廿二日）

◎教唆者被教唆者ハ孰レモ正犯ナルヲ以テ其犯情ニ依リ刑期ノ差等ヲ定ムルモノナレハ教唆者ノ刑カ被教唆者ヨリ重キコトアルモ特ニ其理由ヲ附スルヲ要セス（廿七年四一〇號同年六月十八日）

◎教唆ニ依リ被教唆者カ官林ヲ監伐シ通常ノ窃盗ヲ以テ處斷セラレタルハ只其監守者タル身分ナキカ爲メナリ其身分アル教唆者ニシテ其監守物件ヲ窃取スルノ教唆ヲ爲シタル罪質ヲ示スヘキモノニ非ス故ニ刑法百五條二百八十九條ヲ適用シテ教唆者ヲ處斷シタルハ相當ナリ（廿八年一九一號同年二月廿六日）

◎十二歳ニ滿サル幼者ノ加功スルコトアルモ之カ爲メニ二人以上共ニ其罪ヲ犯シタルモノト爲ス可ラス（廿八年八三六號同年七月二日）

◎實行ノ日時場所方法ヲ詳記スル上ハ共謀ノ日時場所方法ヲ省略スルモ理由不備ノ判決ニ非ス（廿八年八三八號同年九月十六日）

◎縣會議員ノ言行ヲ憤リ人ヲ教唆シテ毆打セシメタル場合ニ於テ被教唆者ハ被害者ノ議員タルコトヲ知ラサリシ等ノ事實ノ爲メ遠警罪ニ處セラルルコトアルモ教唆者ハ仍ホ刑法百五條ノ刑責ヲ免ルルヲ得ス（廿九年七〇六號同年七月十日）

◎二人共謀シテ一体トナリ犯行ニ着手シタル以上ハ其一人縱令手ヲ下ササルモ二人同一ノ罪責ニ任セサルヘカラス（三十年三六四號同年五月六日）

◎公選投票詐僞報告罪ハ調書ヲ作成シ投票ノ結局ヲ執告スル身分ヲ有スル者ニ非サレハ實行正犯者ニ非ス而シテ其身分ヲ有セサル者ト雖モ教唆又ハ幫助ノ所爲アル時ハ教唆者又ハ從犯者トシテ其犯罪ヲ構成ス（三十年八五〇號同年十月廿二日）

◎毆打ニ關スル犯罪ハ其結果ニ依テ刑責ヲ定ムヘキモノナレハ致死ノ場合ニアリテハ單ニ毆打ヲ教唆シタル者ト雖モ仍毆打致死罪ノ教唆者タル責任ヲ免レス（同上）

◎懷胎中其產出兒ヲ殺害スルコトヲ豫謀シ分娩后直チニ之ヲ殺害シタル所爲ハ謀殺ニ非スシテ故殺ナリ從テ其豫謀ヲ教唆シタル所爲ハ謀殺教唆ノ罪ヲ構成セス（廿九年九八八號三十年三月七日）

◎情ヲ告ケテ僞造官印ノ彫刻ヲ依囑シタル所爲ハ官印僞造罪ノ教唆ナリ（三十年一六七號同年三月十五日）

◎教唆者ノ罰セラレタルト否トヲ問ハス苟モ人ヲ教唆シテ犯罪行爲ヲ爲サシメタルトキハ教唆罪ヲ成立ス新聞紙ノ編輯人ヲ教唆シテ人ヲ誹毀スル記事ヲ掲載セシメタル所爲ハ教唆罪ヲ構成ス（三十二年五〇九號同年五月十二日）

◎誹毀及官吏侮辱ノ記事ヲ新聞社ニ寄送シ編輯人ヲシテ新聞紙ニ掲載セシメタル所爲ハ誹毀及官吏侮辱罪ノ教唆ナリ（明治三十一年四四〇號明治三十一年六月十日）

◎教唆ハ被教唆者カ重罪輕罪ヲ犯シタルニ因テ犯罪ヲ構成ス從テ被教唆者カ罪ヲ犯シタル場所ヲ以テ教唆罪成立ノ場所トス（三十二年七二一號同年二月二十一日）

◎是非ノ辨別有無ハ各所爲ニ付之ヲ判定スヘキ者トス是非ノ辨別ナク犯罪ノ決心ナキ者ヲ用ヒテ放火セシメタル者ハ教唆者ニ非スシテ實行正犯ナリ（卅二年一九七號同年三月十四日）

◎毆打創傷罪ハ結果ニ依テ刑法上ノ責任ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ苟モ毆打ヲ教唆シタル以上ハ其結果ニ對スル罪責ヲ免レサルモノトス（三十二年一二二一號同年十二月八日）

◎毆打創傷罪ニ付キ教唆ノ外實行ニ干與シタル事實アリトスルモ尙ホ教唆罪ヲ以テ論スヘキモノトス（三十三年れ三五三號同年四月十九日）

◎官吏收賄罪構成ニハ官吏タル身分アルヲ必要トシ其官吏ヲ教唆シテ賄賂ヲ收受セシメタル非官吏ノ所爲ハ教唆罪ヲ構成ス從テ非官吏ニシテ官吏ノ收賄ヲ幫助シタル非官吏モ亦其從犯者タリ官吏收賄罪ノ非官吏ノ教唆者及ヒ從犯者ニシテ官吏ノ受シタル賄金ノ幾分ヲ毀消シタル事實アルモ之ニ對シ追徵スルコトヲ得ス從テ實行正犯者ニ從テ全部ノ責任ヲ負フモノトス（三十三年八六二號同十一月二十六日）

◎人ノ居宅內ニ忍入リ窃盜ヲ犯スコトヲ教唆シタルモノハ自然ノ順序トシテ門戶墻壁ヲ踰越スルノ行爲ヲモ連想スルハ普通ノ狀態ナリトス故ニ其手段方法タル門戶墻壁ノ踰越ノ行爲ニ付テモ其責任ヲ負ハサル可カラス（三十五年五月八日）

◎刑法ニ所謂教唆ニ係ル重罪輕罪トハ教唆被教唆者双方ニ對シ性質上獨立シテ罪ト成ルヘキ行爲ヲ教唆シタルニ非サレハ以テ共犯ト爲ス足ラス從テ教唆者ノ一方ノ行爲カ罪トナラサルトキハ教唆罪ハ成立セス（三十五年ろ二二號）

◎官吏侮辱ト爲ルヘキ記事ヲ認タル原稿ヲ新聞社員ニ交付シテ之ヲ新聞紙上ニ掲載發行

セシメタル所爲ハ官吏侮辱罪ヲ教唆シタルニ過キサルモノトス自己カ侮辱罪ヲ犯シタルモノト謂フヲ得ス（三十五年十二月二十五日）

第百六條　正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスコトヲ得ス

◎刑法三百七十七條二項ニ所謂他人共ニ犯シタル者トハ唯リ實行ノ正犯者ノミヲ意味スルニ非ス總テノ共犯者即チ教唆者從犯者ノ全体ヲ包括スル意義ナリトス（廿八年一〇八號同年十月八日）

◎親屬タル身分上ノ關係ヲ有スル者窃盗ノ所爲ヲ犯スモ其罪ヲ問ハス從テ之ト共ニ犯シタル他人ノ所爲ヲ以テ共犯ナリト論スルヲ得ス（同上）

◎親屬相盗ノ場合ニ於テ親屬以外ノ共犯人中其財物ヲ分チタレハトテ親屬ナル身分上ノ關係ヲ有スルモノヲ共犯ノ一人トシテ處斷スルハ刑法三百七十七條二項ノ精神ニ非ス（廿八年一一五二號同年十月廿五日）

第百七條　犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スコトヲ得ス

第百八條　事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス

一　所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス

二　所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

◎刑法百八條ハ歐打罪ノ如ク結果ニ依リテ其罪責ヲ定ムヘキモノニ適用セス（廿九年四七五號同年五月十五日）

第二節　從犯

第百九條　重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幇助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

◎事後ノ從犯ハ法律上之ヲ罰スヘキ正條ナシ（二十八年）

◎墮胎ノ情ヲ知テ房室ヲ給與シタル所爲ハ墮胎罪ノ從犯ナリ（三十二年三七〇號同四月七日）

◎犯罪行爲ノ繼續中豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幇助シタルモノハ從犯ナリトス（三十四年れ第一一六三號同十月四日）

第百十條　身分ニ因リテ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルコトヲ得ス

◎器具ヲ給與シ正犯ヲ幇助シテ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ器具ノ精粗其方法手段ノ功拙ニ關セス皆從犯ナリ（廿四年六六號同年九月廿四日）

◎甲者カ乙者ノ丙者ニ硫酸ヲ注キ掛ケテ創傷ヲ成サシメントスルノ情ヲ知リ硫酸買取ニ要スル書面ヲ作爲シテ乙者ニ渡シ乙者ハ之ニ因テ硫酸ヲ買取シテ犯罪ヲ遂ケタル時ハ甲者ハ從犯ヲ以テ論スヘキモノナリ（廿六年三八九號同年五月十一日）

◎二人以上ニテ窃盗ヲ犯スノ情ヲ知リタル從犯ハ刑法三百六十九條ニ依リ其刑ヲ加重ス（廿八年九八九號同年九月廿六日）

◎誣告罪ハ告訴人ノ外他ニ實行正犯アルコトナシ而シテ告訴人ト共謀シ其代人ト爲リ告

訴狀ヲ檢事ニ提出シタル所爲ハ從犯ナリ（三十年五九八號同年七月二日）

◎刑法百九條ニ從犯ハ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ストアルハ正犯カ現ニ受ケタル刑ヨリ一等ヲ減スヘキモノニ非ラスシテ法律ニ定メタル正犯ノ刑ヨリ一等ヲ減スヘキ趣意ナリトス（三十年六八八號同年八月三十一日）

第九章　未遂犯罪

第百十一條　罪ヲ犯サントコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ設載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

第百十二條　罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

◎未遂犯ニ付キ一等若ハ二等ヲ減刑スルハ未遂ノ程度ニ依ルヘキモノニシテ犯情ノ輕重ヲ以テ標準ト爲スヘキモノニ非ス（三十三年れ六九八號同六月二十五日）

◎窃盗ノ目的ヲ以テ家屋内ニ忍ヒ入リ金品ノ入レアル箱笥ノ前ニ到リタル所爲ハ犯罪ノ豫備ニ非スシテ其實行ニ着手シタルモノトス（三十四年九〇五號同年六月二十八日）

◎公正證書ヲ作成シテ債權タルモノヽ如ク裝ヒ其證書ニ基キ假差押命令ヲ得他日辯濟ニ充當スヘキ債務者ノ財產ヲ差押ヘタル以上ハ詐欺取財ノ實行ニ着手シタルモノトス（三十四年）

◎犯罪前ニ發シ有罪ノ判決確定ノ後刑ノ期滿免除ヲ得タル場合ト雖モ余罪後ニ發覺シ有罪ノ判決ヲ爲ストキハ刑法第百二條ニ依リ已ニ期滿免除ヲ得タル前發ノ刑ト比較通算ス可モノトス從テ比較通算ノ結果被告カ刑ノ執行ヲ免カルヽニ至ルト否トハ之ヲ問フノ必要ナキモノトス（三十五年一月二十三日）

◎恐喝取財罪ノ既遂行爲ハ財物騙取ノ目的ヲ以テ人ヲ恐喝シタル事實ハ被恐喝者カ畏怖ノ念ヲ生シ財物ヲ交付シタル事實アルヲ必要トスルモ其恐喝手段カ苟モ人ヲシテ畏怖ノ念ヲ生セシムヘキ性質ノモノナルトキハ適マ被恐喝者ニ對シテハ効力ナカリシ場合ト雖モ恐喝取財ノ未遂罪ハ完全ニ立シ被恐喝者カ畏怖シタルヤ否ヤハ常ニ必シモ犯罪構成ニ影響ヲ及ホスニ非ス（三十五年四月二十一日）

◎財物ヲ得ント欲シ恐喝取財ノ實行ニ着手セシモノハ所謂犯罪實行ニ着手シタルモノトス故ニ恐喝ニ着手シタル后新聞紙上ニ其非行ヲ暴露セラレタル爲メ其目的ヲ遂行スルコト能ハサルトキハ障碍ニ依ル恐喝取財罪ノ未遂罪ヲ構成スルモノトス（三十五年五月廿三日）

◎被告乙ハ甲者ヲ毒殺センコトヲ決意シ餡餅ニ致死量以上ノ昇汞ヲ附着混和シ之ヲ甲者ニ供シタルニ偶々丙者來リ其毒物ナルコトヲ知ラス之ヲ甲者ヨリ貰受ケ喫食シタル爲メ煩悶吐血シタルモ死ニ至ラサル事實ハ刑法第二百九十八條ニ所謂謀殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル罪ノ未遂犯罪ヲ構成スルモノトス（三十五年十月三十日）

第百十三條　重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

第十章　親屬例

第百十四條　此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

一　祖父母、父母夫妻

二　子孫及ヒ其配偶者

三　兄弟、姉妹及ヒ其配偶者

四　兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者

五　父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者

六　父母ノ兄弟姉妹ノ子

七　配偶者ノ祖父母父母

八　配偶者ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者

九　配偶者ノ兄弟姉妹ノ子

十　配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹

第百十五條　祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子玄玄孫外孫同シ兄弟姉妹ト稱スルハ異父母ノ兄弟姉妹同シ養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

第二編　公益ニ關スル重罪輕罪

第一章　皇室ニ對スル罪

第百十六條　天皇三后皇太子ニ對シ危害加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第百十七條　天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

◎刑法百十七條ハ目前ニ非スト雖モ言語筆記又ハ動作等苟モ不敬ニ涉ルモノハ不敬ノ所爲ト爲シ之ヲ罰スルノ律意ニシテ全法百四十一條ノ如ク目前ニ於ケル形容若クハ言語云々ノ用語ト全一意ニ非ス又凡ソ犯罪ハ其場合ニ依リ之カ輕重ヲ考定スヘキモノニシテ言語動作筆記ノ三者ヲ以テ一定ニ輕重ノ區別ヲ爲スヲ得サル者ナリ故ニ言語ニ依レハ所爲ハ動作筆記ノ所爲ヨリ常ニ輕シト云フヲ得ス（廿七年四四二號仝年六月廿八日）

◎普通ノ智識能力アルモノニシテ臣民タルモノヽ口ニシ得ヘカラサル不敬ノ語ヲ爲セハ不敬罪ヲ犯スノ意思アリト認メサルヘカラス（廿七年五三〇號仝年八月二日）

第百十八條　皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第百十九條　皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百二十條　此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二章　國事ニ關スル罪

第一節　內亂ニ關スル罪

第百二十一條　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的ト爲シ內亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁及ヒ敎唆者ハ死刑ニ處ス

二　群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス

三　兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス

四　敎唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十二條　內亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ內亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

第百二十三條　政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖モ內亂ト同ク論シ其敎唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

第百二十四條　前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃ホ本刑ヲ科ス

第百二十五條　兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他內亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

內亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

◉政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ謀殺シタル所爲刑法一二三ハ其罪質單純ノ謀殺タルニ外ナラス唯其目的政府ヲ變亂スルニ在ルヲ以テ特ニ內亂ト同シク論スルノミ而シテ同法百二十五條ハ同百二十一條及百二十二條ノ豫備又ハ陰謀ヲ罰スルノ規定タルニ過キス從テ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺スルノ豫備ヲ爲シタル所爲ハ刑法百二十五條ニ擬律スルヲ得ス（廿八年決定無號同年十二月廿七日）

第百二十六條　內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

第百二十七條　內亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十八條　內亂ニ乘シテ人ノ身體財產ニ對シ內亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二節　外患ニ關スル罪

第百二十九條　外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

第百三十條　交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第百三十一條　本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシ

メ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ

第百三十二條　隆海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戰ノ際敵國ニ通牒シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス

第百三十三條　外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

第百三十四條　外國交戰ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百三十五條　此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三章　靜謐ヲ害スル罪

第一節　兇徒聚衆ノ罪

第百三十六條　兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ說諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ敎唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十七條　兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ强逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及敎唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯衆ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

◎兇徒嘯聚罪ハ嘯聚暴務ノ二條件ヲ具備スル時ハ嘯聚ノ原因如何ヲ問ハス其罪ハ構成ス故ニ聚衆スルノ原因カ暴動前ニ消滅スルモ本罪ノ構成ニ影響ヲ及ホサス（廿三年二三二號廿四年三月六日）

◎多衆ノ兇徒ヲ嘯集シ其首魁トナリ暴行ヲ爲シタル事實ノ理由明瞭ナレハ縱令其嘯集ニ應シタルモノノ氏名ヲ悉ク揭ケサルモ之ヲ以テ理由ノ不備若クハ擬律錯誤アルモノト云フヲ得ス（廿四年二部七四號同年五月四日）

◎暴威ヲ以テ事ヲ達スヘキ意思ニテ兇徒ヲ聚衆シタリトアルハ郡吏ニ對シ兇行强迫ヲ加フルノ如キモ暴威中ニ含有スルハ無論ノコトナリ而シテ其兇行强迫ヲ加フルノ一事件ニ限リ兇徒聚衆ノ組成スルニ非サルニ依リ判文上之カ明示ヲ爲ササルヲ以テ事實理由ノ不備ト云フヲ得ス（廿四年三五七號同年十二月廿一日）

第百三十八條　暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス

首魁及ヒ敎唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ

第二節　官吏ノ職務ヲ行フニ妨害スル罪

第百三十九條　官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ

◎官吏抗拒罪ノ王休タルニハ被執行者タルト否トヲ區別スヘキモノニアラス（三十三年二

四號同三月二日）

◉巡査ハ行政警察規則ニ於テ人民ノ妨害ヲ防護スル職務ヲ有ス因テ暴行ヲ以テ其防護中ニ在ル人民ヲ奪去セントシタル所爲ハ其目的如何ニ拘ラス官吏ノ職務執行ニ抗拒シタル所爲ナリトス（三十四年）

第百四十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第百四十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱者亦同シ

◉刑法百三十九條ノ官吏其職務ヲ執行スルニ當リ之ニ抗拒スルノ罪ハ官吏ニ抗拒シ其職務ヲ行フヲ妨ケントスルノ意思ヲ以テ爲シタル所爲ヲ制裁スル正條ナリ故ニ他意アツテ罪ヲ犯ス際偶々之ヲ妨クルカ又ハ誤テ其職務ヲ行フヲ妨クルカ如キニ至リタル所爲ハ素ヨリ本條ノ制裁外ナリトス故ニ被告等カ相謀テ看守カ其職務ヲ以テ紙ヲ仝房人ニ交付セントスルニ際シ糞汁ヲ投擲シタルハ仝看守ニ曾テ怨恨ヲ挾ミ居リ其恨ヲ晴サンカ爲メニシテ仝房人ニ紙ヲ交付スルヲ妨ケントスルノ意思ニ非ス故ニ官吏抗拒罪ハ成立セス（廿六年五七號同年一月廿六日）

◉巡査ハ人民ノ懇親會ニ出張スルノ職務アリ其之ニ對シ抗拒セハ刑法百三十九條ノ犯罪トス 廿七年三三號同年四月十二日）

◉司法警察官ノ命ニ依リ巡査カ捜査上ノ點アリテ其指名者ノ承諾ヲ得テ之ヲ目的ノ地ニ

同行スルカ如キハ法ノ禁セサル所ナレトモ現行犯ニ非サル被告ニ對シ巡査カ强テ仝行シタルカ如キハ所謂權外ノ行爲ニシテ法律規則ノ執行ト云フヲ得サレハ被告カ同行ノ途中ニ於テ其巡査ニ抗拒シ負傷セシメタルハ抗命罪ヲ組成セス單ニ毆打創傷罪トシテ刑法三百一條三項ヲ適用シタルハ相當ナリ（廿七年四四三號同年五月十八日）

◉苟クモ官吏カ其職務ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ執行ヲ妨害セハ官吏ニ抗拒シタルモノニシテ法律ハ被執行者ト被執行者ニ非サルモノヲ區別セス（廿八年一三三一號同年十二月二日）

◉凡ソ刊行ノ文書ヲ以テ人ヲ侮辱スルノ罪ハ必スシモ唯一ニ譏嘲ノ意義ヲ有スルノ言詞ヲ用ヒタル時ニ限リ成立スルト云フニ非スシテ前後ノ文章ニシテ譏嘲ノ意味アル時ハ侮辱罪ヲ構成ス（廿三年一七二號廿四年二月廿日）

◉新聞紙條例二十五條ニ新聞紙ニ記載シタル事項ニ付誹毀ノ訴アル場合ニ於テ云々事實ヲ證明スルコトヲ得トアルモ官吏侮辱ノ公訴ニ係ル者ニシテ誹毀ノ訴アリタルニ非サレハ事實ノ證明ヲ許スノ限リニ非ス已ニ官吏ノ職務上ニ對シ嘲弄ノ文詞ヲ以テ侮辱ヲ加ヘタリト認定シタル上ハ其事實ノ有無ヲ陳辯スルモ之ヲ以テ犯罪ヲ消滅セシムルコトヲ得ス（廿四年無號同年七月十六日）

◉市長ハ公吏ナルカ故ニ官吏侮辱罪ハ其職務ニ對シテモ成立ス（明治廿三年法律百）（號廿四年二部一八六號同年九月廿一日）

◉官吏侮辱罪ハ官吏ノ職務ニ對シ惡事醜行ヲ摘發シタルカ又ハ惡口嘲言ヲ爲シタルニ非サレハ成立セス（同上）

◉筆記シタル文書ヲ以テ官吏ヲ侮辱シタル行爲ハ我法律中之ヲ罰スヘキ法條ナキヲ以テ

罪トナラス（廿五年九七號同年二月十八日）

◎新聞紙記者カ縣知事ノ職務ニ對シ刊行ノ文書ヲ以テ之ヲ侮辱シタルモ發行人編輯人ニ在テハ必ス當ニ其新聞紙掲載ノ文詞ヲ了知スル者ナリト謂フ可ラス故ニ彼等共謀ノ上此文字ヲ新聞紙上ニ掲載シ特ニ侮辱ノ意思アリタルコトヲ明示セサル裁判ハ事實理由ノ不備ヲ免レス（廿七年一二一號同年二月八日）

◎刑法百四十一條一項ノ犯罪ハ官吏ノ能力ニ對シテ侮辱スルヲ要セス其職務ニ對シテ侮辱シタルノ事實ヲ以テ足レリトス（廿七年四五六號同年五月十四日）

◎司法省ノ情弊ヲ概論シタルニ非スシテ委員選定ヲ爲シタル官吏ノ職務上ノ行爲カ私意私憤ニ出テタリト云フノ文章ハ其官吏ヲ侮辱シタルモノトス而シテ此文章ヲ新聞紙上ニ掲載スル以上ハ侮辱ノ犯意アルコト自ラ明瞭ナリトス（廿七年五八〇號同年八月二十日）

◎執達吏ハ一ノ官吏ニシテ其委任ヲ受ケタル代理人モ亦執達吏ノ事務取扱中ニ於テハ官吏ト同一ノ資格アルモノナリ故ニ其職務ニ對シ其目前ニ於テ言語ヲ以テ犯シタル事實アレハ官吏侮辱罪ハ成立ス（廿七年一二〇二號同年十一月十三日）

◎新聞紙上ニ於ケル官吏侮辱罪ノ構成ニ就テハ編輯人及發行人兼印刷人カ惡意アリテ侮辱シタルコトヲ說示スレハ足ルモノニシテ被告等ノ共謀シタルコトハ此犯罪ノ構成ニ必要ナル條件ニ非ス（廿八年三五〇號同年四月二十六日聯合判決）

◎官吏侮辱罪ハ特定ノ官吏ヲ侮辱シタルコトヲ要ス即チ某警察署詰ノ警部巡査ト判示シアレハ特定ノ官吏ヲ侮辱シタルヤ勿論ナリ（廿八年八七五號同年八月六日）

◎官吏ノ職務分限ハ法令ノ定ムル所ナリ從テ官吏侮辱罪ヲ斷スルニ當リ特ニ其職務ヲ判示スルノ要ナシ（廿九年一一二八號同年十一月廿七日）

◎宮內大臣ハ授爵ニ關スル職務ヲ有スルハ宮內省官制ニ爵位局ヲ設ケアルニ徵シ明カナレハ爵位ニ關スル侮辱ハ職務外ノ侮辱ト云フヘカラス（同上）

◎官吏職務ノ執行ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ利害關係ノ有無ニ拘ラス抗拒罪ヲ構成ス

◎官吏侮辱ノ所爲ハ專ラ暴行ノ行爲中ニ包含セラルヽヲ以テ官吏抗拒罪ニ含有スルモノトス（三十二年五二四號同年五月九日）

◎巡査カ違警罪ノ現行犯人ノ即決スヘキ官署ニ引致スル場合ニ於テ一旦派出所ニ引致シタル后之ヲ當該官署ニ引致スルカ若クハ直チニ引致スルカ如キハ便宜上執レニ依ルモ妨ケナシ故ニ派出所ニ引致セラルヽ際暴行ヲ以テ抗拒セハ官吏抗拒罪ヲ構成ス（三十二年一一四四號同年十一月七日）

◎犯罪嫌疑ノ爲メ職權ヲ以テ逮捕セントスル巡査ニ對シ抗拒シタル所爲ハ眞ノ犯罪者タルト否トヲ問ハス官吏抗拒罪ヲ構成ス（三十二年一〇四三號同年十月二十日）

◎沖商人カ雜貨ヲ外國汽船ノ船室內ニ携ヘ行キ彼我ノ物品ヲ交換スルハ貿易規則ニ悖戾スル所爲ニシテ沖商業違犯ノ行爲ナリ而シテ稅關監吏權補カ該所爲ヲ制止スルハ職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シタルモノニ外ナラス從テ其執行ニ抗拒シタル所爲ハ官吏抗拒罪ヲ構成スヘキモノトス（三十一年第六七九號三十一年八月二十三日）

◎町村助役ニシテ町村制第三十九條ノ規定ニ基キ村會議長ノ職務執行中之ヲ侮辱シタル所爲ハ公吏侮辱罪ヲ構成ス（三十二年二五八號同年三月二十日）

◎官吏侮辱罪ハ必スシモ侮辱スルノ意思アルヲ要セス單ニ侮辱ノ結果ヲ生スルコトヲ豫知スルヲ以テ足ル（三十一年一一六九號同年十二月廿六日）

◎官吏侮辱罪ヲ構成スルニハ官吏ノ汚行ナリトシテ摘發シタル事項カ其職務行爲タルコトヲ必要トセス（三十三年れ一六六三號三十四年一月二十五日）

◎官吏侮辱罪ヲ構成スルニハ官吏ノ汚行ナリトシテ摘發シタル事項カ其官吏ノ職務行爲タルコトヲ必要トセサルナリ（三十四年）

◎刑法ニ所謂官吏トハ法令ニ依リ官吏ト同一ノ待遇ヲ受ケ其他之ニ準據スル旨ノ規定アル者ヲモ含蓄シ其規定ナキ者例セハ雇員ノ如キハ官吏ニアラサルモ縣立中學校長ハ勅令ニ於テ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クヘキ旨規定シアルヲ以テ刑法上ノ官吏ト謂フヘシ從テ其職務ニ對シ侮辱シタル所爲ハ官吏侮辱罪ヲ構成スルモノトス（三十五年九月三十日）

第三節　囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第百四十二條　已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百四十三條　已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セス其刑期限內再ヒ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス

第百四十四條　未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス

◎刑法百四十四條ノ犯罪ハ現實入監シ在ルカ又ハ一度入監シタル後逃走シタルヲ要ス窃盜犯嫌疑ノ爲メ捕獲セラレ警察署ニ於テ取調中逃走シタル者ハ入監以前ノ逃走ニ係ルヲ以テ刑法百四十四條ノ制裁ヲ受ケス（廿五年四一二號同年六月六日）

◎拘留狀ハ職權ヲ有スル檢事ニ非サレハ之ヲ發スルヿヲ得ス而シテ司法官試補ハ地方裁判所以上ノ檢事ヲ代理スルノ職權ナキヲ以テ其發シタル拘留狀ハ法律上何等ノ効力ヲ生スヘキモノニ非ス從テ其執行ヲ逃レ逃走シタル所爲ハ囚徒逃走罪ヲ構成セス（廿八年七七一號同年十月廿八日）

◎甲裁判所ノ發シタル拘引狀ノ効力ハ其令狀ニ記載セシ乙裁判所ニ引致スルヲ以テ終了ス故ニ甲裁判所ノ發シタル拘引狀ヲ以テ乙裁判所以外ニ停遞スルノ効ナシ從テ其途次逃走ノ所爲アルモ囚徒逃走罪トシテ罰スヘキ正條ナシ（二十八年一〇七二號同年十一月四日）

◎刑法百四十四號ニハ未決囚徒入監中逃走シ云々トアリ故ニ現實在監中又ハ一旦入監シタル後逃走シタル場合ニアラサレハ其罪成立セス（三十年八五六號同年九月三十日）

第百四十五條　囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時ハ第百四十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第百四十六條　囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ

◎刑法百四十六條前段ノ罪ハ囚徒ヲ逃走セシムル爲メ其逃走ノ方法ヲ指示スルニ因テ成立スルモノニテ囚徒カ逃走ニ着手スルト否トニ關係ナク又囚徒カ逃走ノ意思ヲ中止ス

ルモ爲メニ其犯罪ヲ消滅スルコトナシ（廿八年二一三號同年二月廿一日）

第百四十七條　囚徒ヲ刼奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス

第百四十八條　囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタルトキハ亦前條ノ例ニ同シ

第百四十九條　前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第百五十條　看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十一條　犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

◎犯罪人藏匿若クハ隱避罪ハ殺極的ノ行爲アルヲ必要トス（三十一年五七九號同年六月十日）

◎刑法百五十一條ハ犯罪者其人ヲ藏匿隱避セシメタル所爲ヲ罰スルノ正條ニシテ他人ノ

犯罪ヲ一身ニ引受ケ自ラ所在ヲ韜晦シタル所爲ハ本條ニ該當セス我刑法ノ之ヲ罰スル正條ナシ（廿六年二四三號同年四月廿七日）

第百五十二條　他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十三條　前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ト係ル時ハ其罪ヲ論セス

第四節　附加刑ノ執行ヲ遁ルル罪

第百五十四條　公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十五條　監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第百五十六條　前二條ノ罪ハ其刑期限內再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

◎監視者カ執行地ニ期限內ニ著セサレハ其者セサルヲ以テ其罪ヲ成立ス其裁判管轄ハ執行ヲ受クヘキ地トス（廿六年八六〇號同年八月三日）

◎監視ノ宣告ヲ受ケタル者ハ主刑ノ終リタル時ヨリ監視規則ノ取扱ヲ受クヘキ義務アリ然ルニ原院ハ被告カ主刑滿期後警察署ヨリ蹤ヲ伺ヒ逃走シタル事實ヲ認メナカラ旅券ノ下附ナキト同則ノ讀聞ナキトノ點ニヨリ該則ニ違反セシモノト謂フヲ得スト判決セシハ不法ナリ（廿八年五一九號同年四月三十日）

◉刑法百五十六條ニ所謂其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ストハ單ニ再犯トシテ刑ヲ加重セストノ意義ニシテ其犯罪ヲ以テ前科ニ算入セストノ意義ニ非ス（三十年六八號同年一月廿五日）

第五節　私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

第百五十七條　官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十八條　前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シテ二等ヲ減ス

第百五十九條　前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第百六十條　第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條　第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ供スル可キ者ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス

第六節　往來通信ヲ妨害スル罪

第百六十二條　道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百六十三條　僞計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦タ前條ニ同シ

第百六十四條　電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

◉電話線ヲ切斷シテ不通ニ至ラシメタル所爲ハ器物毀罪ヲ構成スルモ刑法百六十四條ヲ適用スヘキモノニアラス之レ全ク全條ノ電信ニ關スルノミノ法意ニシテ電話ニ關スルモノヽ如キハ包含セス（三十二年四四八號同年四月二十五日）

第百六十五條　滊車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百六十六條　船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ

第百六十七條　前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第百六十八條　第百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ

重キニ從テ處斷ス

第百六十九條　第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車ヲ顚覆シ又ハ船舶ヲ覆沒シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

第百七十條　此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七節　人ノ住所ヲ侵ス罪

第百七十一條　晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入リタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一　門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入リタル時

二　兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帶シテ入リタル時

三　暴行ヲ爲シテ入リタル時

四　二人以上ニテ入リタル時

◎刑法ニ所謂故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入ルトハ正當ノ事故ナクシテ人ノ住居ニ侵入スルヲ謂フ（三十二年二五二號同年三月十七日）

第百七十二條　夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入リタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

第百七十三條　故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵內ニ入リタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第八節　官ノ封印ヲ破棄スル罪

第百七十四條　官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

◎物件差押ヘノ爲メ執達吏ノ施ス封印ノ方法ハ物ノ開閉スヘキ部分ヲ封鎖スルニ限ルモノニアラス因テ馬ノ襟髮ニ施シタル封印ヲ破毀シタルトキハ封印破毀ノ罪ヲ構成ス（三十三年れ三六七號同年四月九日）

◎收稅官吏カ容器ニ施シタル封印ヲ破毀シ在中ノ物品ヲ取出シ他ニ移シタル所爲ハ封印破毀行爲ト差押物件藏匿行爲トノ二罪ナルヲ以テ窃盜罪ヲ以テ論スヘキモノニアラス（三十五年九月十九日）

第百七十五條　官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

◎封印ヲ破棄シ差押物件ヲ藏匿脫漏セハ封印破棄及財產藏匿ノ二罪ヲ成立ス（廿六年五二大號同年五月廿五日）

◎官ノ施シタル封印中差押フヘカラサルモノアルモ之ヲ破棄セハ刑法百七十四條ノ犯罪ヲ成立ス（廿七年三二九號同年四月十二日）

◉封印ヲ破リタル窃盗ニハ刑法百七十五條ト各窃盗罪ノ條ヲ示セハ足ル同法百條ヲ適用スルヲ要セス（廿七年八七六號同年十一月十一日）

◉裁判所ノ命令ニ基キ執達吏ノ施シタル封印ヲ破棄シタル時ハ封印破棄罪ヲ構成ス從テ其破棄ノ後差押解除ノ判決ヲ受クルアルモ犯罪ノ構成ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス（廿九年七四二號同年九月一日）

◉封緘ヲ爲シ使用ヲ禁シタルニ封緘破ラス緘封付ノ儘取除キ使用シタルハ封緘ヲ無効ニセシモノニシテ封印破棄罪ヲ構成ス（三十年二八九號同年四月十五日）

第百七十六條　看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盗取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節　公務ヲ行フヲ拒ム罪

第百七十七條　陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セザル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百七十八條　陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百七十九條　醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十條　裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シ

第百八十一條　傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ檢査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

第四章　信用ヲ害スル罪

第一節　貨幣ヲ僞造スル罪

第百八十二條　內國通用ノ金銀及ヒ紙幣ヲ僞造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

◉銅貨ノ命貨等ヲ改削シ水銀ヲ以テ之ヲ塗飾シ以テ銀貨ニ代ヘ使用セシハ銀貨僞造ヲ以テ論スヘク詐欺取財ヲ以テ處斷スヘカラス（廿三年一八一九號廿四年十月一日）

◉一旦紙幣ヲ僞造シタル上ハ行使ニ堪ヘ難カランヲ危ミ其後僞造ノ念ヲ絕チ又終ニ僞造紙幣行使ノ念ヲ絕ツモ之ヲ中止犯ナリト云フヲ得ス（廿四年一二四號同年十月五日）

◉貨幣僞造ハ假令同質ナラス又ハ組造ナルモ他人ヲ欺罔スルニ足レハ其罪成立ス（廿五年一一一號同年二月廿九日）

◎正貨ノ命價量目ヲ增減スルハ貨幣ノ變造ニシテ新ニ正貨ニ擬擬シタルモノヲ製出スルハ僞造ナリ而シテ銅貨ノ命價量目ヲ增減セスシテ銀貨摸造ノ原料即チ地金トシテ之ヲ使用シタルハ銀貨僞造ナリトス（廿六年一一二三號同年十二月廿八日）

◎僞造貨幣行使トハ貨幣トシテ通用セシムルヲ云フ銘價額以外ノ低價ヲ以テ物品トシテ賣渡スヲ云フニ非ス故ニ僞造貨幣タルヲ知テ之ヲ取受シ未タ行使セサルモノハ刑法百九十條二項ニ依リ處斷スヘク同條一項ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナリ（廿八年二七七號同年三月八日）

◎僞造貨幣ノ行使トハ之ヲ眞貨トシテ其銘價全格ニ使用スルヲ云フ而シテ之ヲ商品トシテ銘價以下ニ賣買取引シタル所爲ハ行使ニ非ス（廿八年一三二六號同年十二月九日）

◎全質ノ貨幣ヲ變更スルノ所爲ヲ變造トシ他質ノ貨幣ヲ改刪シ水銀ヲ鍍スル等ノ所爲ヲ僞造トス（廿八年一三四四號同年十二月十二日）

◎貨幣僞造行使罪ハ有用ニ行使スルヲ以テ成立ス而シテ僞造金貨ヲ借金ノ擔保トシテ他人ニ交付シタル所爲ハ即チ有用ニ行使シタルモノニシテ貨幣僞造行使罪ヲ構成ス（三十年四九二號全年六月十五日）

◎僞造紙幣ナリ否ノ事實ヲ決定スルハ承審官ノ職權ニ屬ス（三十年七八九號全年十一月十五日）

◎僞造貨幣行使罪ハ僞造貨幣ヲ眞正ナル貨幣トシテ使用スルニ因テ構成ス從テ眞正ナル貨幣トシテ僞造紙幣ヲ他人ニ贈與シタル所爲ハ僞造貨幣ヲ行使シタルモノニシテ僞造紙幣行使罪ヲ構成スルモノトス（三十五年四月七日）

第百八十三條 內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ僞造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ僞造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ內外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

◎日本銀行ヲ銀行ト爲シ壹圓ヲ豊圓ト爲シタルハ眞紙幣ニ異ナル僞造紙幣ト認定シタルハ相當ナリ（二十七年九七九號同年十一月廿日）

◎兌換銀券僞造罪ヲ處斷スルニ當リ刑法百八十四條ヲ擬律スルニ必ス兌換銀行條券例十二條ノ明文ヲ俟タサルヘカラス然ルニ單ニ刑法ノ條文ノミヲ明示シ同條例十二條ヲ明示セサルハ法律理由ノ明示ナキ不法ノ判決ナリトス（廿八年八二〇號同年九月三十日）

◎紙幣ト兌換銀券トハ其性質ヲ異ニス故ニ兌換銀券僞造罪ヲ處斷スルニ當リ日本銀行兌換銀券條例十二條ヲ適用セサル判決ハ法律ノ理由ヲ明示セサル瑕疵アリ（廿九年一七號同年二月七日）

◎兌換券僞造變造ハ同條例十二條ヲ適用スヘク刑法百八十四條ヲ併セテ適用シタルハ擬律錯誤ナリ（廿九年七七四號同年十月五日）

第百八十五條 內國通用ノ銅貨ヲ僞造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ僞造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ僞造ノ器械ヲ豫備シテ未タ著手セサル者ハ各三等ヲ減ス

◎刑法百八十六條二項ノ所謂偽造ノ器械トハ貨幣偽造ニ直接必要ナル器械ヲ指スモノニシテ其器械ヲ製造スルノ器具等ヲ指スモノニ非ス故ニ石版印肉及彫刻針等ヲ購求スルニ止マルモノハ紙幣偽造ニ直接ノ器械ヲ豫備シタリト云フヲ得ス（廿六年三八六號同年五月十五日）

◎貨幣偽造ニ關スル所爲ハ偽造ノ器械ヲ豫備スルヨリ之ヲ偽造シ行使スルニ至ルマテ法律ハ一々之ヲ特別ノ罪トシテ處罰スルモノナレハ一旦偽造行使ノ目的ヲ以テ偽造ノ器械ヲ豫備シタル上ハ其罪即時ニ成立シ爾後偽造ノ目的ヲ絶止スルモ已ニ成立シタル犯罪ヲ免カルヽコトヲ得ス（同上）

◎刑法百八十六條二項ニ偽造ノ器械ヲ豫備ストアルハ偽造ニ必要ナル諸器械悉皆ヲ豫備スルノ意ニ非スシテ其偽造ノ用ニ供スヘキ器械ノ幾分ヲ豫備スルモ亦同條項ノ犯罪ハ成立スルモノトス（同上）

◎貨幣偽造ノ器械ヲ備ヘタル上ハ其完備スルト否トヲ問ハス偽造ノ器械ヲ豫備シタルモノトス而シテ其偽造用ニ供スルヲ得ヘキヤ否ハ事實ノ認定ニ屬ス（廿八年六八一號同年七月十日

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ內國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス

其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

◎偽造紙幣タルノ情ヲ知リテ之ヲ受取リ行使スルノ意思ヲ以テ物品代價トシテ他人ニ交付シタル以上ハ行使ノ所爲アリトス而シテ行使ノ意思終始繼續シ唯外形ノ所爲ノミ時日及場所ヲ異ニシタル者ハ之ヲ一罪トシテ處斷スルヲ相當ス（廿六年七八一號同年十月二日）

◎貨幣偽造ノ器械ヲ豫備シタル上ハ其器械ノ偽造ニ直接主要ノ關係ヲ有スルト否トヲ問ハス豫備罪ヲ成立ス（廿八年一一八一號同年十二月五日）

◎偽造變造ノ情ヲ知テ貨幣ヲ受取シトアル意義ハ單ニ任意授受ニ依テ取得シタルモノノミニ止マラス廣ク奪取ニ依テ取得シタル者ヲモ包含ス（廿九年一〇六九號同年十一月十二日）

◎偽造貨幣タルヲ知リ行使ノ目的ヲ以テ偽造紙幣ヲ窃ニ取出シタル所爲ハ即チ刑法第百九十條第一項ノ受取ニ該當スルモノトス（三十一年九九五五號同年六月二日）

◎偽造貨幣ヲ價格相當ノ貨幣トシテ授受シタル時ハ貨幣偽造行使罪トス（廿八年七九〇號同年九月廿六日）

◎偽造貨幣ノ精粗ヲ問ハス貨幣偽造罪ヲ成立ス（同上）

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ視ニ付ス

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ使行セサル前ニ於テ官ニ自首

シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ附ス

若シ職工雜役及房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第百九十三條　貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額二倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スルコトヲ得ス

第二節　官印ヲ偽造スルノ罪

第百九十四條　御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第百九十五條　各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

◎內務卿衛生局長ノ印ヲ偽造シタル當時ハ內務卿ノ官名ナシトスルモ其偽造ノ目的ハ內務卿衛生局長ノ名ヲ以テ免狀ヲ下附スル當時ノ醫師開業免狀ヲ偽造セントスル事實明瞭ナレハ假令其官職廢止後ニ於テ偽造スルモ偽造罪ヲ構成ス（無號廿四年二月七日）

◎戶長役場ノ廢印ニ係ル小區印ヲ用ヒ公證文書ヲ偽造シタルモ廢印以後ノ年月日ヲ用ヒタルヲ以テ罪トナラス（廿五年三五四號同年五月九日）

◎一個ノ官私印ヲ偽造シ數次ニ行使シタルハ一罪ナルニ之ヲ數罪トシテ處斷シタルハ不法ナリ（廿六年七六八號廿六年十月十六日）

◎偽造官印使用ト公證文書偽造ト詐欺取財ノ三罪アル場合ニハ詐欺取財ト公證文書偽造トハ刑法三百九十條一項ニ照シ一ノ重キニ從ヒ又公證文書偽造ト偽造官印使用トハ二百六條ニ照シ一ノ重キニ從ヒ處斷スヘク而シテ尙ホ數個ノ偽造印使用ノ所爲アルヲ以テ仍ホ刑法百條ニ照シ一ノ重キニ從フヘキモノトス

又刑法二百六條ニ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタルモノト記載シ偽印使用ノ明文ナキモ個ハ偽造中ニ包含シタルモノナルコト下文ノ偽造官印ノ各本條ニ照シトアルヲ以テ明瞭ナレハ本條ヲ適用セサルハ擬律錯誤ナリ（廿八年九三五號同年九月一日）

◎村役場印ノ偽造罪ヲ處斷スルニ當リ單ニ刑法二百六條ノミヲ適用シ明治三十三年法律百號ヲ適用セサル判決ハ擬律錯誤ナリ（廿八年一一九〇號同年十月十八月）

◎官職氏名ヲ刻シ職務上使用スル印章ハ刑法百九十五條ニ所謂官印ニ包含ス（廿八年一〇七二號同年十一月四日）

◎村長及助役ノ職印ハ明治廿三年法律百號ニ所謂公署ノ印ニ包含ス（廿八年一二一四號同年十一月五日）

◎官印偽造罪ノ構成ハ其印材ノ種類ニ拘ラス苟クモ官署ノ印章ヲ摸擬シ人ヲシテ官印ナリト信セシムヘキ程度ニ達スルヲ以テ足レリトス（廿九年六四六號同年六月廿九日）

◎偽造ニ係ル印顆其物ノ實体ニシテ眞物ト誤認セシムルニ足ルヘキ程度ニ達シタリヤ否ヤノ判斷ハ事實ノ認定ニ屬ス（廿九年六九三號同年七月十日）

◎情ヲ告ケテ偽造官印ノ彫刻ヲ依囑シタル所爲ハ官印偽造罪ノ教唆ナリ（三十年一六七號同年三月十五日）

◎大麻ヲ頒布スルハ神宮司廳ニシテ神官教院ニ非ス故ニ大麻ニ押用スル印章ヲ偽造セハ官印偽造罪ナリ（三十年五〇〇號同年六月七日）

◎刑法百九十五條官署ノ印ニハ官吏ノ職印ヲ包含ス（三十年五五一號同年六月十四日）

◎郵便電信局ノ印章ヲ偽造スルニ當リ電信ノ二字ヲ遺脫スルモ官印偽造印ノ構成ヲ妨ケス（三十一年第九七九號三十一年十一月四日）

◎郵便局ニ於テ用ユル日附印ハ官印ナリトス（三十三年）

◎官印偽造罪ヲ構成スルニハ其偽造印カ眞物ニ摸擬スルヲ必要トセス官署ノ印章トシテ人ヲ欺クニ足レハ充分ナリトス（三十三年九二〇七號同三月十四日）

◎官署ニ於テ使用スル契印ハ官ノ印章ナリ（三十三年れ一五七號三十四年一月十五日）

◎印章偽造ノ行爲ハ之ヲ行使スル手段ニ外ナラス故ニ官印ノ偽造ト行使ト併發シタル場合ハ其目的タル行使ノ所爲ニ付キ其罪ヲ論定セサルヘカラス（三十五年十一月六日）

第百九十六條　產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年輕懲役ニ處ス

書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

◎官ノ拂下木材ニ押ス極印ハ官ノ記號ニシテ官印ナリ（廿六年五六八號同年六月廿二日）

◎官ノ印號印章タル形体ヲ存スル以上ハ寸法字体ノ眞正ヲ摸擬セサルモ其犯罪ヲ成立ス（二十八年一四六號二十九年二月二十二日）

◎官ノ記號印章偽造ハ單ニ偽造ノ所爲ノミニ依リ其罪ヲ成立ス故ニ其偽造ノ目的及使用方法ノ如何ハ犯罪ノ構成ニ何等ノ影響アルコトナシ（同上）

◎某縣蠶種檢查所製糸用種檢查證ト刻シタル印章ニ擬シ用字ヲ甲字ニ變更シタル所爲ハ刑法百九十六條一項ニ所謂產物商品等ニ押用スル官ノ印章ニ相當ス（三十年一一七二號三十一年一月二十日）

◎刑法百九十六條一項ニ產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章トアルハ其記號印章ノ用法ヲ示シタルモノニシテ其產物商品等カ何人ノ所有ニ屬スルヤ否ハ固ヨリ問フ所ニ非ス故ニ官林立木末タ拂下トナラサルモ之ニ官ノ極印ヲ盜用使用シタル所爲ニ本條ヲ適用シタルハ相當ナリ（三十一年二六〇號同年三月廿五日）

◎公證文書偽造罪ト公印偽造罪ト併發シタル場合ニ於テ刑法第二百六條ヲ適用セス（同法第三百九十條第二項ヲ適用シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリトス（三十一年一〇二八號三十二年二月十日）

第百九十七條　御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ看守自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

◎官印盜用トハ官吏其ノ監守スル官印ヲ不正ニ押捺シ卽チ正當ニ押捺スヘカラサルモノニ押捺シテ之ヲ使用シ又ハ他官吏ノ蹟ヲ窺ヘ物ニ官印ヲ押捺シテ使用シタル所爲ヲ云フ（廿六年七四〇號同年六月二十二日）

◎官印盜用ハ盜用罪ハ盜捺使用ニ依リテ成立ス（廿九年六四七號同年七月六日）

◎官吏其職權ノ範圍ヲ超逸シ不正ニ文書ヲ作成シ又ハ官印ヲ押捺セシ所爲ハ職權ノ濫用ニ止ラスシテ官文書偽造行使及官印盜用ノ犯罪ヲ構成ス（廿九年一二四八號卅年一月廿一日）

◎村役場ノ奥書ヲ偽造スルニ因テ其役場印ヲ盜捺シタル所爲ハ實体上ノ一罪ナリ（廿九年一二七七號三十年一月廿一日）

◎印影盜用罪ハ官私印ノ別ナク印顆其物ヲ直ニ目的ノ書類ニ盜捺シ又ハ原院ノ認メタル如ク他ノ書類ニ押捺シアリタル印影ヲ移シ來リテ目的ノ書類ニ押捺シ之ヲ行使スルニ因リテ成立スルモノナレハ盜用トシテ處罰シタルハ相當而シテ印影製作ハ卽チ偽造ニシテ偽造ト盜用トハ殊別ノ罪ナルカ故製作卽チ偽造シタルニ非サルヲ以テ盜用罪ニア

ラスト論スルヲ得ス（三十一年一六七號三十一年三月四日）

◎他人ノ盜捺シタル官印ヲ使用シタル所爲ハ官印盜用罪ヲ構成ス（三十一年六七四號同年七月四日）

第百九十八條　官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ僞造變造シ又ハ其情テ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

◎僞造印紙使用罪ハ僞造印紙ト知リ使用セハ刑法百九十八條ノ制裁ハ免カレス故ニ僞造印紙賣渡人ノ免訴トナリタル場合ト雖モ尙ホ知情者トシテ處斷シタルハ相當ナリ（廿六年四九八號同年五月廿二日）

◎古印紙ノ消印ヲ洗除シ又ハ截斷或ハ繼合セタル所爲ハ印紙ノ僞造變造ニ非ス故ニ情ヲ知リ賣却スルモ使用ト云フヲ得ス（廿六年九四六號同年九月廿八日）

第百九十九條　已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百條　此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百一條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節　官ノ文書ヲ僞造スル罪

第二百二條　詔書ヲ僞造シ又ハ增減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百三條　官ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

◎登記官吏ヲ欺キ不實ノ登記ヲ爲サシメタル所爲ハ官文書僞造罪ヲ構成ス（二十三年一七〇七號二十四年四月二日）

◎印鑑簿ハ印章ニ非スシテ文書ナリ故ニ印鑑簿ノ影形ヲ塗抹シテ更ニ僞印ヲ押捺シタル所爲ハ文書變造罪ナリトス（廿九年一九號同年一月廿八日）

◎村長又ハ登記官ヲ瞞着シ證明及登記ヲ爲サシメタル所爲ハ被告自ラ之ヲ僞造シタルニ非レハ之ヲ問スル正條ナシ（廿五年三三九號同年四月十四日）

◎犯跡ヲ蔽ハン爲詐リノ受拂勘定書ヲ作リ村長ノ認印ヲ受ク之ヲ公署ノ簿冊ニ編入セハ編入ト同時ニ公文書僞造罪ヲ成立ス（三十六年六二號同年二月二十三日）

◎一旦使用シ了リタル官廳ノ呼出狀ヲ利用シ新タニ又一ノ官廳ノ呼出狀ノ如キモノヲ作成シタルハ官文書僞造ナリ（廿六年八二六號同年十月十六日）

◎恩給金證書ノ僞造ハ其文辭中眞物ニ比スレハ多少ノ相違スルモ此ヲ以テ官文書僞造ニ非スト云フヲ得ス（二十六年一〇三八號同年十二月二十五日）

◎登記濟トナリタル證書ハ官文書ナリ之ニ貼紙ヲ爲シ金高ヲ變更シタルハ即チ官文書變造ナルヲ以テ私文書トシタルハ擬律錯誤ナリ（二十六年一一九三號二十七年二月十二日）

◎官吏又ハ公吏カ其資格ヲ以テ文書ヲ作爲スルモ惡意ニ出テ其文書ニ詐欺ノ事ヲ記載ス

レハ偽造ノ所爲アリタル者ニシテ刑法二百五條ノ犯罪ヲ構成ス他人ノ資格ヲ僞リタルモノニ非サレハ僞造罪成立セスト論スルヲ得ス（二十七年四五三號同年七月十六日）

◎僞造證書ニ對シ當然發スヘキ役所ノ發シタルハ官文書ニ非ス故ニ公文書ノ性質ヲ具備セサル僞造ナレハ何等ノ効果ヲ生セスト言渡シタル擬律ノ錯誤ナリ（二十七年七七八號同年十月十二日）

◎窃盜ヲ蔽ハンカ爲メ官ノ帳簿ニ詐リテ記入セハ刑法二百三條ノ罪ヲ組成ス（二十七年一二八〇號同年十二月二十八日）

◎現ニ村長ノ管掌スル發着簿動怠簿ハ公文書ナリ（二十八年一二五號同年二月十五日）

◎村役場ニ於テ地所ノ證明ヲ爲スハ其役場ノ職權ヲ以テ爲スヘキモノトス故ニ私ニ其文書ヲ作製スルハ公文書僞造ナリ隨テ之ニ役場ノ印ヲ盜捺スレハ公印盜用ナリトス（二十八年二四四號同年三月一日）

◎郵便爲替證書及爲替報知書ハ郵便局ニ於テ作製スヘキモノナレハ即チ官ノ文書ナルヲ以テ之ヲ僞造行使シタル時ハ刑法二百三條ニ依リ處斷スヘク郵便條例二百四十二條ニ據テ處分スヘキモノニ非ス（二十八年六三一號同年六月二十七日）

◎戸籍簿ヲ變換スルノ所爲ハ公文書變造罪ニシテ犯後ニ至リ其訂正ノ出願ヲ爲スモ依テ其犯罪ヲ消滅スルヲ得ス（廿八年一四八三號廿九年一月二十日）

◎官文書ノ存在シアルヲ變換シタルニ非スシテ全ク其文書ヲ作成スルニ方リテ十錢ト記スヘキヲ十一錢ト記入シタルモ亦僞造トス（二十九年五五號同年二月七日）

◎人ヲシテ官文書ト誤信セシムルニ足ルモノナルトキハ則チ官文書僞造罪ヲ構成ス而シテ實際上果シテ之ト同一ノ文書アリシヤ否ハ敢テ問フ所ニ非ス（二十九年一六九號同年三月二日）

◎其職務ニ非スシテ擅ニ官ノ文書ヲ僞造シタル上ハ其目的ハ自己ノ權利回復ニ在ルヲ口實トナシ惡意ナキ證據ト爲スヲ得ス（同上）

◎執達吏ハ公吏ニ非ス官吏ナリ故ニ官文書僞造ニ對シ明治二十三年法律百號ヲ適用セサルハ相當ナリ（二十八年一一七二號同年十二月二日）

◎執達吏カ假差押調書ニ虚僞ノ事實ヲ記入シ之ヲ其役場ニ備付ケタル所爲ハ官文書僞造行使罪ナリトス（廿八年一一七二號同年十二月二日）

◎登記簿ニ虚僞ノ記入ヲナシ之ヲ登記所ニ備置キタル所爲ハ官文書僞造行使罪ナリトス（廿八年一二八〇號同年十二月六日）

◎官文書僞造罪ノ據成ハ其文書タル必スシモ官署一定ノ用紙ニ記入スルヲ要セス苟クモ其文書ヲ官ノ文書ニ擬シ人ヲシテ官文書ナリト信セシムヘキ程度ニ達スルヲ以テ足レリトス（廿九年六四六號同年六月廿九日）

◎登記官吏他人ト共謀シ其僞造ニ係ル地所賣渡證書正本ニ登記濟ノ文字ヲ記載シ廳印ヲ押捺シ共謀者ニ下附シタル所爲ハ其授受共犯者間ニ止マリ第三者ニ對シテ利用シタルノ事實ナキヲ以テ行使ト爲スヲ得ス從テ印章ヲ押捺シタル所爲モ亦未タ官印盜用罪ヲ成立セス（二十九年六四七號同年七月六日）

◎[illegible]ノ部分ハ即チ獨立ノ事項ナレハ增減變換ニアラスシテ僞造ナリ（二十九年九八〇號同年十月二十六日）

◎證公文書中ニ包含スヘキ私書僞造ハ公證文書僞造罪ニ吸收セラレ別ニ一罪ヲ構成ス〜

キモノニ非ス（廿九年九四八號同年十月三十日）

◎登記所ノ印影ハ摸寫ニ係ルモ偽用證書ニ虛無ノ事實ヲ記載シ眞正ニ登記ヲ受ケタルモノノ如ク假裝シタル所爲ハ公證文書偽造罪ヲ以テ論ス（廿九年八四八號同年十月三十日）

◎戸長奉職中自己所有ノ地所ノ書入抵當ト爲スニ當リ用係ヲシテ無効ノ奥書ヲナサシメ自ラ監守スル役場印ヲ押捺シタルハ村長ナルモ自己ノ爲メ奥書ヲ作ルノ權能ナク全ク一私人ノ資格ナレハ官吏管掌ニ係ル文書ヲ偽造シタルモノトス

◎出納簿ニ虛偽ノ事項ヲ記載シタル所爲ハ新タニ簿冊ヲ作成シタル所爲ニアラスト雖モ其記載シタル部分ハ即チ獨立ノ事項ナレハ增減變換ニアラスシテ偽造ナリ（二十九年九八〇號同年十月二十六日）

官吏其職權ノ範圍ヲ超逸シ不正ニ文書ヲ作成シ又ハ官印ヲ押捺セシ所爲ハ職權ノ濫用ニ止マスシテ官文書偽造行使及官印盜用ノ犯罪ヲ構成ス（二十九年一二四八號三十年一月廿一日）

◎村役場ノ奥書ニ關スル部分ニ年月日ヲ記入シタルハ單純ノ官文書偽造ニシテ公證文書偽造ニ非ス（廿九年一二七七號三十年一月廿一日）

◎地所拂下願書ニ年月日ト奥書ヲ村役場ヲ經由シタルモノノ如ク假裝シタル所爲ハ官文書偽造罪ヲ構成ス

◎村役場ノ奥書ヲ偽造スルニ因テ其役場印ヲ盜捺シタル所爲ハ實体上ノ一罪ナリ

◎郵便貯金預簿郵便爲替金出納簿郵便貯金通帳ハ官文書ナリ（三十年抗告三號同年四月十九日）

◎送達狀ノ執達吏ノ資格ヲ以テ記載スヘキ總テノ記入ヲ爲シ且受取人ノ氏名ヲ偽署シ恰モ正當ニ送達ヲ爲シタルモノノ如ク假裝シ之ヲ區裁判所ニ還納シタル所爲ハ官文書偽造行使罪ヲ構成ス（三十年三一五號同年四月二十三日）

◎公費ノ掲示札ハ之ヲ掲示セサル以前ニ在リテモ其性質上信憑力ヲ有スル文書ナリトス之ヲ偽造セハ公文書偽造罪トス（三十年七七二號同年十一月一日）

◎當然發スヘキ資格ナキ官吏ノ名義ヲ以テ文書ヲ偽造スルモ官文書偽造罪成立ス官吏ノ權能アリヤ否ハ罪ノ構成ニ關係ナシ（三十年一一六一號三十一年一月十八日）

◎村會ノ議事錄謄本ヲ偽造行使セハ公文書偽造使行罪トス（三十年一一六三號三十一年一月二十五日）

◎舊藩ノ家考職ト云ヒ林役ト云ヒ孰レモ當時ノ官吏ニシテ其達書覺書ニ職名ノ記載ナキモ官文書ナルヲ以テ舊藩ノ家老職ノ達書ヲ偽造シタル所爲ハ官文書偽造罪ヲ構成ス（三十二年大號同年二月二十四日）

◎官文書偽造行使宮印盜用ノ罪ヲ構成スルニハ官署若クハ官吏ノ名義ヲ用ヒ文書ヲ偽造シ其官印ヲ盜捺シ之ヲ以テ眞ニ官ヨリ出テタル文書ナリトシ行使スルヲ以テ足レリ必スシモ權限アル官署又ハ官吏ノ作ルヘキ文書ヲ偽造シ之ニ其官印ヲ盜捺シテ行使スルヲ必要トスルモノニアラス（三十二年三三八號同年四月七日）

◎他人ヲ害シ又ハ自己ヲ利スル意思ノ如キハ文書偽造ノ原因タル意思ニシテ犯意ニ非ス而シテ文書ヲ偽造スルノ意思ハ即チ犯意ナリ

◎官文書トハ必スシモ官吏ノ資格ヲ以テ作成シタル文書ノミヲ云フニ非ス私人ノ作成シタル文書トハ雖モ已ニ之ヲ官署ニ差出シ官署ニ於テ保存スヘキモノハ固ヨリ官文書ナリ

トス故ニ之ヲ毀棄セハ其罪ヲ構成ス（三十一年一一〇號三十二年一月三十一日）

◎官署ヨリ發送シタル文書ハ何人ノ手ニ存スルモ官文書ノ性質ヲ失ハス從テ之ヲ變造シテ行使シタル所爲ハ官文書變造行使罪ヲ構成ス（三十二年九四〇號同年九月二十九日）

◎刑法第二百三條ニ所謂官ノ文書トハ官ノ圖會ノ意義ナルヲ以テ村役場備付ノ村繪圖ハ官ノ文書ナリ（三十二年三〇九號同年四月六日）

◎他人ノ前科ヲ隱蔽スル爲メ送籍狀附屬調書ニ前科ナキ旨ヲ記入シテ他ノ市役所ヘ送付シタル所爲ハ公文書僞造行使罪ヲ構成ス（三十一年第七八二號三十一年十一月一日）

◎公證人ニシテ假裝ノ事實ニ基キ公正證書ヲ作成スルモ他人ヲ害スルノ惡意ナク又害ヲ生スベキモノニ非サルトキハ公正證書僞造行使罪ヲ構成セス（三十一年一〇九五號三十一年十二月十三日）

◎郵便爲替券ヲ窃取シタル上其金圓ヲ領收スルニ當リ之ヲ變換シテ行使シタル所爲ハ窃盜罪並ニ官文書僞造行使罪ヲ構成ス（三十三年）

◎村長カ行政執行中其職權内ニ於テ作成シタル役場記錄閲覽ニ關スル規定書ハ公文書ナリ（三十四年れ七二五號同五月二十四日）

◎海外旅行券ハ免狀鑑札ニ非スシテ官文書ナリ（三十四年れ五二四號同六月四日）

◎村役場ノ書記ニシテ其取扱ニ係ル身分登記簿ヲ毀棄シタル所爲ハ管掌ニ係ル文書ノ毀棄罪ヲ構成ス（三十三年一五三號同三月二十三日）

◎電信中繼紙ハ官文書ナリ

◎金庫ハ大藏大臣ノ管理ニ係ル官署ナリ（三十三年六一〇號同五月三十一日）

◎官署公署ノ印章ヲ押捺スルニハ官吏公吏ノ資格ヲ表示スヘキ記載ヲ要スル法規アラサルヲ以テ斯ル文書ハ官文書若ハ公文書ナルヤ否ヤヲ決スルハ事實承審官ノ職權ニ屬スルモノトス（三十五年十月十五日）

◎法律ニ於テ代理ヲ許ス場合ト否トヲ問ハス苟モ代理權限ヲ有セサル者カ擅ニ文書ニ某代理ト記入シ之ヲ以テ官ヨリ出タル文書ナリトシテ行使スルニ於テハ文書僞造行使罪ヲ構成ス（三十五年十月二十日）

第二百四條　公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

◎公證人カ作リタル公正證書ハ公證人ノ名義ヲ用ヒ其職權ヲ以テ作成シタル證書ナレハ被告人カ虚僞ノ申告ヲ爲シ公證人ヲ欺罔シタリト云フヲ以テ其公正證書ヲ僞造シタリト云フヲ得ス假令詐欺ノ手段ニ依リ公正證書ヲ作成セシメタルコモセヨ公證人ノ作レル證書ナル上ハ之ヲ以テ單純ノ私書ナリ僞造ノ文書ナリト論スルヲ得ンヤ故ニ無罪トセシハ相當ナリ（二十五年五六九號同年六月十六日）

◎僞造ノ私文書ノ末尾ニ官吏ノ公證ヲ僞造シタル上ハ即チ公證文書ニシテノ私書ト爲スヲ得ス又一個ノ文書僞造ノ所爲ニ付官文書僞造ト私書僞造トノ二罪ヲ構成スヘキモノニ非サルニ之ヲ二罪トシタルハ擬律錯誤ナリ（二十五年七一四號同年九月二十九日）

◎登記法四十條ハ未登記ノ地所建物等ノ登記ヲ請求スルノ手續ニシテ明治廿三年法律七十八號ヲ以テ同條ヲ改正シタルハ單ニ其登記ヲ求ムルニ戸長ノ證明書ヲ必要トセスト

爲シタルニ止マリ村長ノ證明書ヲ廢止シタリト爲スヿ得ス從テ村長ハ證明ヲ爲スノ職務ナキモノト云フヿヲ得ス故ニ村長ノ交付シタル證明書ヲ變換行使セハ公證文書變換行使ノ罪ヲ構成ス（二十八年一四一號同年二月五日）

◎登記濟ノ證書トハ登記法取扱規則三十條ノ規定ニ從ヒ作成スヘキモノナルヲ以テ之ヲ僞造シタル所爲ニ對シ刑法二百四條ニ所謂官吏ノ公證シタル文書ヲ僞造シタル刑ヲ適用セシハ相當ニシテ擬律ノ錯誤ナリト云フヲ得ス（二十八年七二一號同年六月十六日）

◎刑法二百四條ノ公文書僞造罪ノ物体ハ必スシモ公債證書若クハ地券ト均一ナル性質ヲ有スル文書タルヲ要セス凡テ官吏ノ公證文書全體ヲ包含ス（二十八年九一二號同年九月二十七日）

◎登記濟ト記載シタル證書ハ刑法二百四條ニ所謂官吏ノ公證シタル文書ナリトス即チ地所書入登記ノ場合ニ在テハ其登記原簿ノミナラス登記濟ノ記載アル原證書ヲ併セテ總稱シタルモノトス（二十八年一〇〇八號同年十月四日）

◎詭計ヲ以テ地所抵當證書ニ登記ヲ受ケ登記官吏ノ朱書シタル登記濟ノ文字並ニ其押捺ニ係ル官印ノ要部ノミヲ存シ其他ノ部分ヲ除キ之ヲ利用シテ他紙ニ接續シ地所金額ヲ記入シ恰モ登記完成ノ證書ノ如ク作成シタル所爲ハ公證文書僞造罪ニシテ分割シテ即チ官吏カ文詞ヲ記載シタル部分ノミ公證文書ニシテ他ハ私書ナリト云フヲ得ス（二十八年一〇七三號同年十月十一日）

◎登記所ノ印影ハ模寫ニ係ルモ借用證書ニ虚無ノ事實ヲ記載シ眞正ニ登記ヲ受ケタルモノノ如ク假裝シタル所爲ハ公證文書僞造罪ヲ以テ論ス（二十九年八四八號同年十月三十日）

◎約束以外ニ金員返濟期限ヲ延シ登記ヲ受ケタルモ其證書ヲ其儘債主ニ交付セハ詐欺ノ登記ヲ爲シタル一ツノ發露セント推料シ債主ニ渡ス證書ノ正本ニハ實際約束セシ期限ニ書キ更メタル所爲ハ害ノ生スヘキナケレハ之ヲ刑法百四條ヲ以テ處斷シタルハ不法ニ付無罪（三十一年二〇〇號同年三月十一日）

◎公證人ニシテ假裝ノ事實ニ基キ公正證書僞造行使罪ヲ構成セス（三十一年一〇九五號同年十二月十二日）

◎登記官吏カ登記濟ノ文書ヲ記入シタル文書ハ官吏ノ公證文書ニシテ官文書ニアラス（三十三年れ三五〇號同五月三日）

◎不動産登記法第六十條ニ依リ登記官吏カ登記完了后登記權利者ニ還附スル登記濟ナル證明ハ登記簿ニ記載シタル事項ニ限ルモノニシテ其登記濟ナル公證ハ登記簿記載以外ノ事項ニ及ハサルモノトス從テ登記原因ヲ證スル書面中其記載外ノ事項ニ關スル部分ヲ變換シテ行使シタル所爲ハ公證文書變換行使罪ヲ構成セス（三十四年れ一五一六號同十二月二十日）

◎公證人ニ對シ虚僞ノ申述ヲ爲シ賣買證書ヲ作成セシメタル事實ハ文書僞造罪ノ條件ニ適合セサルモノトス（三十四年）

◎公正證書ニ於ケル關係人ノ署名ハ公正證書成立ノ要件ナルヲ以テ其署名ノ部分ヲ僞造シタル所爲ハ公證文書ノ僞造罪ヲ構成スルモノトス（三十四年）

第二百五條　官吏其管掌ニ係ル文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ其

其文書毀棄シタル者亦同シ

◎刑法二百五條ノ官吏トアル中ニハ雇員モ包含ス（二十三年一部九九號二十四年七月六日）

◎官吏ノ職務ヲ執ルハ執務時間ニ限ルモノニ非ス故ニ在廳時間外ナリトノ一事ヲ以テ通常人ナリト云フコトヲ得ス（同上）

◎官吏管掌中ノ文書偽造罪ニハ其官吏カ官吏ノ資格ヲ偽ハリ記入シタルト否トハ要件ニ非ス（二十七年七五七號同年十月十一日）

◎刑法二百五條ニ所謂官吏其管掌ニ係ル文書トハ官吏其職務上取扱フ所ノ文書ヲ指稱ス（二十九年五七三號同年六月十一日）

◎裁判所雇員カ登記事務ヲ取扱フハ職務上當然ノ行爲ナリトス故ニ官吏ヲ以テ之ヲ論ス

◎戸長奉職中自己所有ノ地所ヲ書入抵當ト爲スニ當リ用係ヲシテ無効ノ奥書ヲナサシメ自ラ監守スル役場印ヲ押捺シタルハ村長ナルモ自己ノ爲メ奥書ヲ作ルノ權能ナク全ク一私人ノ資格ナレハ官吏管掌ニ係ル文書ヲ偽造シタル犯罪ニ非スシテ公證文書偽造ナリトス然トモ監守スル役場印ヲ盗捺シタルハ刑法百九十七條二項同百九十五條ノ制裁ヲ受クルハ勿論ナリトトス（二十九年一一七九號同年一二月十五日）

第二百六條　官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盗用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

◎官ノ文書ヲ偽造スルニ因リ官印ヲ盗用シタルモノハ刑法二百六條ニ依リ處斷スヘク數罪トシテ刑法百條ヲ適用シタルハ不法ナリ（二十九年一三號同年二月七日）

◎官文書偽造ト因テ犯シタル印影盗用トハ刑法二百六條ニヨリ實質上ノ一罪ト爲シ重キニ從フヘキモノナルヲ以テ其輕キモノヲ以テ更ニ他ノ罪ト比較シ其輕重ヲ定メテ處斷スヘキモノニアラス刑法ノ律意モ亦此主旨ニ外ナラス（三十一年一八四號同年四月七日）

第二百七條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減刑ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

第四節　私印私書ヲ偽造スル罪

第二百八條　他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ス

◎私印私書偽造罪ハ他人ニ害ヲ與ヘ已ヲ利シ又ハ他人ヲ利セントスル意思アルニ非サレハ之ヲ組成セス（二十四年二一號同年七月九日）

◎印影盗用罪ハ承諾ナキ場合モ包含スル故ニ所有者ノ目前ニ於テ押捺スルモ承諾以外ニ使用セハ刑法二百八條二項ノ制裁ヲ受ク（二十六年一〇四號二月六日）

◎私書偽造罪ハ信用ヲ害スル罪ナレハ實害ノ有無ヲ問ハス偽造行使セハ其罪ヲ成立ス（二十五年三三四號同年四月二十一日）

◎偽造證書ニ何號ト朱書シ登記官吏ノ附記シタル如ク假裝スルモ元來登記官吏カ番號ヲ附記シ認印シテ下付スルハ登記結了ヲ示シ他日照合ノ便ニ外ナラス別ニ官印ヲ押用シタルニ非サレハ私文書偽造中ノ部分ニ屬ス（二十五年七三〇號同年十月十三日）

◎凡ソ證書ノ行使トハ其證書ヲ義務者ニ對シテ行用スルノミニ限ラス不動産抵當證書ノ如キハ其權利ノ公證ヲ受ケ第三者ニ向テ公示スル所爲ヲモ包含スルモノトス故ニ地所

抵當借用金證書ヲ偽造シ之ヲ裁判所ニ提出シ登記官ヲ欺キ登記ヲ受ケタル時ハ其登記ハ被告カ該地所ノ上ニ抵當權ヲ有スルコトヲ公證シ第三者ニ公示スルモノナルヲ以テ其偽造證書ヲ行使シタルモノトス（二十五年一〇二八號二十六年一月十六日）

◎證書偽造罪ハ信用ニ關スル罪ナルヲ以テ他人ノ名義ヲ以テ證書ヲ作リ之ヲ行使シタル以上ハ社會ノ信用ヲ害シタルモノナレハ之ニ依リ證書偽造罪ヲ成立シ他人ノ權利ヲ害シタルト又證書ニ押捺シタル印形ノ有合印タルトヲ問ハサルナリ（二十五年一一三二號二十六年一月二十六日）

◎偽造證書ノ謄本ハ偽造證書ヲ謄寫シタル副本ナルヲ以テ別ニ一罪ヲ構成スヘキモノニ非ス（二十六年七〇號同年三月六日）

◎虚無ノ人名ヲ假設シ連借人ト偽リ金圓ヲ詐取セシハ即チ負債主ノ資格ヲ偽リ眞實ノ借用ニ非ス債主ニ對シテハ直接ノ損害社會ニ對シテハ間接ノ信用ヲ害シタルモノナレハ刑法二百十條一項ニ問擬シタルハ相當ナリ因テ金員ヲ詐取シタルハ詐欺取財罪ヲ構成ス（二十六年三九六號二十六年五月四日）

◎罪ニ非スシテ私印盜捺及私書偽造罪ナリ（三十一年一〇五號同年二月十八日）

◎出來合印ヲ盜捺使用シタルモ其印ヲ偽造シ若クハ偽印タルノ情ヲ知テ之レヲ押捺シ使用シタル事實アラサルヲ以テ法律上罪トナラス（三十年四八五號同年六月十四日）

◎被害者ヲ欺キ其承諾以外ニ係ル證書ニ捺印セシメタル所爲ハ印影盜用罪ヲ構成ス（三十年五九二號同年七月二日）

◎印影盜用罪ハ其影跡ヲ行使スルニ因テ成立ス從テ他人ニ於テ盜捺シタル印影ナリト雖モ之ヲ行使シタル者アルトキハ其行使者ハ印影盜用罪ヲ犯シタルモノトス（三十年九三八號同年十一月九日）

◎藥品ヲ使用シテ廣紙ニ押捺シタル印影ヲ白紙ニ寫取リ之ヲ他ノ證書ニ轉寫シタル所爲ハ私印盜用罪ニシテ私印偽造罪ニ非ス（三十年九三六號同年十一月十六日）

◎偽造ノ印顆タルコトヲ知テ之ヲ使用シタル時ハ私印偽造行使罪ヲ構成ス（三十年九九八號同年十二月七日）

◎自己ノ職務ヲ以テ占有スル銀行印ト雖モ職務執行以外ニ擅用セハ私印盜用罪ヲ成立ス（三十一年七〇號同年二月二十二日）

◎苟モ他人ノ權利義務ニ關スル證書ヲ偽造行使スレハ其代人ノ名義ナリト本人ノ名義ナルトヲ問ハス文書偽造罪ヲ成立ス（二十四年一部三四號同年一月三十一日）

◎證書ニ記載スル事件カ事實ト相違スルアルモ直ニ證書偽造ト云ヲ得ス故ニ村役場ノ届出ニ相違アリトテ之ヲ罪トシ論スヘカラス（二十三年一六一〇號二十四年三月十日）

◎私印私書偽造罪ハ他人ニ害ヲ加ヘ自ラ利シ又ハ他人ヲ利セントスル意思アルニアラサレハ之ヲ組成セス（二十四年二二號同年七月九日）

◎印章偽造ハ眞印ニ模スルヲ要セス三者ヲシテ眞印ト信セシムレハ足レリ（二十六年六九三號同年六月十日）

◎白紙ニ押捺シアル印影ハ何人ノ盜捺ニ係ルヲ知ラサルモ之ヲ利用セハ私印盜用罪ヲ成立ス（二十七年一一一〇號同年十二月二十日）

◎人ヲ欺キ白紙ニ押印セシメ押印者ノ目的以外ニ使用セハ私印盜用罪ヲ組成ス（二十七年一三五六號同年十二月二十五日）

◎改印前ノ印影アル證書ヲ以テ其儘之ヲ改印後ノ證書ニ變造スルカ如キ之カ爲メ必スシ

モ實害ヲ生セサルモノト謂フヲ得ス故ニ變造行使ノ事實アレハ其罪ヲ成立ス（二十八年五九二號同年五月二十四日）

◎私印僞造行使罪ヲ斷スルニ刑法二百十條ヲ適用シ同法二百八條ヲ適用セサル判決ハ擬律錯誤ナリ（二十八年九八四號同年十月三日）

◎私印僞造罪ハ行使ニ依リテ成立ス從テ情ヲ知テ之ヲ行使シタル事實アル時ハ他人ノ僞造ニ係ル時ト雖モ刑責ヲ免ルヽヲ得ス（二十九年二七一號同年三月二十四日）

◎私印盜用罪ハ之ヲ行使スルニ依リテ成立ス故ニ僞造ノ私書ニ盜捺シタルモ只其寫ヲ訴訟準備書面ニ載セテ呈示シタルハ行使ト云ヲ得ス（二十九年二九〇號同年四月十日）

◎捺印ハ印者自カラ正當ニ押印シ證書文ハ乙者ニ記載スヘキノ權ヲ與ヘタルニ乙者ハ甲者ノ承諾セサル事項ヲ記載シ證書ノ全部其承諾ニ出タル如ク作成シタル所爲ハ記錄者ノ資格ヲ僞リタルモノニシテ刑法三百九十條二項ヲ以テ處斷シタルハ正當ナリ（二十九年八三八號同年十月二日）

◎證書中ノ或文字ヲ存シ或文字ヲ洗除シ更ニ或文字ヲ記入シタル所爲ハ證書僞造ニシテ變造ニ非ス（二十六年六七八號二十六年七月六日）

◎甲者曾テ地所ヲ乙者ニ賣渡シ乙者ヨリ賣戻シ證書ヲ受取リ已ニ其期限ハ過去タルヲ證書ノ年限ヲ有効ニ變造シ兩者ヲシテ買戻ノ權アル如ク乙者ニ言ハシメ途ニ金圓ヲ騙取シタル後其變造證書ヲ乙者ニ返戻シタル所爲ハ騙取後ノ使用ニシテ罪トナラストシタルハ擬律錯誤ナリ假令騙取前ニ乙者ニ對シ證書ヲ示使セサルモ有効ノ證書トシテ行使シタルモノナレハ證書僞造罪成立ス（二十六年一二七〇號同年十二月十八日）

◎凡ソ文書僞造行使罪ハ必シモ眞實ノ人名ヲ文書スルコトヲ要セス假設ノ人名ヲ掲クルト雖モ人ヲシテ眞實ノ文書ト誤信セシムルニ足レハ該罪ヲ構成ス（二十七年三一五號同年五月十一日）

◎私書僞造行使罪ハ其用法如何ヲ問ハス眞正トシテ供用スルニ依テ成立ス故ニ僞造證書ヲ公證人役場ニ提出シ之ニ據テ公正證書ヲ作成セシメタル所爲ハ私書僞造罪ヲ成立ス（二十九年四八八號同年五月十五日）

◎僞造ノ預リ證書ヲ被害者ノ面前ニ提出シテ返濟ヲ迫リタル所爲ハ僞造證書ノ行使ナリトス　二十九年四九七號同年五月二十八日）

◎證書ヲ僞造シタルノミニテ其行使ニ關與セルモ共謀ノ事實アル以上ハ共ニ正犯タル責任ヲ免ルヽヲ得ス（廿九年五九五號同年六月十六日）

◎被害者ノ酩酊且文盲ナルニ乘シ眞實ニ背キタル證書ヲ作成シ以テ被害者ヲ欺キ其實印ヲ押捺シ又ハ之ヲ押捺セシメタル所爲ハ僞造ノ文書ヲ完成スルノ手段ニ外ナラサレハ私書僞造行使罪ヲ成立ス故ニ此所爲ヲ以テ證書騙取罪トナシタル判決ハ擬律錯誤ナリ（二十九年六八四號同年七月十日）

◎借用證書中ヨリ債權者ノ氏名ヲ切取リ更ニ他人ノ名義ヲ記入セシ所爲ハ證書一部ノ變更ニ非スシテ原證書ヲ材料トシテ別個ノ證書ヲ作成セシト同一ナリ從テ證書ノ變造ニ非スシテ僞造ナリトス（二十九年七二四號同年八月七日）

◎自己ノ帳簿ニ擅ニ他人ノ氏名及不實ノ事項ヲ記入シ而シテ其名下ニ僞造印又ハ有合印ヲ押捺シ以テ其署名ノ眞正ヲ假裝シタル所爲ハ私書僞造罪ヲ構成ス（二十九年八四號同年十月十二日）

◎變造證書ノ印紙不足ヲ自首セハ其證書ヲ完全ニ使用スルノ豫備トス（二十七年三五五號同

年六月四日

◎受取證ヲ作ルニ當リ他日騙取ノ用ニ供センカ爲メ故ラニ金圓記載ノ場所其他ノ要部ニ餘地ヲ存シ受取人ヲシテ記名押印セシメ其後ニ至リ該受取證ノ一部ヲ截斷シ未タ渡サヽル金員等ノ數字ヲ記入シタルハ僞造證書ニ非スシテ變造證書ナリ（廿七年一一二三號同年十一月二日）

◎證券印稅規則ニ違背シタル證書ハ裁判上無効ニモセヨ當事者双方ニ在テハ全ク無効ニ非ス之ヲ刑事裁判所ニ提出シタル以上ハ證書僞造罪ヲ構成ス（二十七年八八一號同年十一月二十六日）

◎變造ハ有効ノ證書ヲ增減變更スルヲ云フ既ニ不用ニ歸シタル證書即チ反古紙ヲ材料トシテ作成シタルモノハ證書變造ニ非スシテ僞造ナリ（同上）

◎幼者ノ契約ト雖モ民法上取消シ得ヘキモノニ止マリ無効ナルモノニ非ス故ニ幼者カ貸主タル名義ノ證書ヲ僞造行使セハ僞造罪ヲ構成ス（二十七年一〇〇〇號同年十一月二十九日）

◎拾ヒ得タル預リ證書ヘ甲者ノ氏名ヲ記入シ同人ヨリ借來リタル体ニ仕做シ乙者ニ對シ他日迷惑ヲ掛ケサル擔保トシテ之ヲ同人ニ交付シテ信用セシメ丙者ニ差入レタル借用證書ニ證人タルノ承諾ヲ得タルハ即チ變造證書ヲ他人ニ交付シ其効用アラシメタルモノナレハ行使已遂ノ所爲ナリトス（二十七年一三七一號二十八年一月十八日）

◎遺失物隱匿罪ト證書變造罪トハ全ク其罪質ヲ異ニスルモノナルヲ以テ拾得シタル證書ニ入墨シ之ヲ變造シタル上ハ別ニ一罪即チ證書變造罪モ成立ス（同上）

◎眞正ニ成立シアリタル證書ヲ變換シタルニ非スシテ始ヨリ僞造ノ目的ヲ以テ金高及借主名義ノ部ニ貼紙ヲ爲シ少額ノ金ヲ記シ請人ニ立タシメ調印セシメタル後其貼紙ヲ剝

キ取リ金高ヲ增加シ氏名ノ部ニハ借主ヲ改メ記入シタル所爲ハ變造ニ非スシテ僞造ナリ（二十七年一三五九號廿八年一月廿一日）

◎既ニ使用ヲ終ヘタル舊受取證書ヲ窃取シ單ニ其年月ノミヲ變換行使シタルハ變造ニシテ僞造ニ非ス（廿八年三七一號同年四月十六日）

◎債務ノ催促ヲ受クルニ當リ之ヲ免ルル爲メ變造證書ヲ示シタルハ所謂變造證書ヲ行使シタルモノニシテ其催促ヲ爲シタル者ノ本人ナルト否トハ毫モ犯罪構成ニ影響ナシ（廿八年五九二號同年五月廿四日）

◎改印前ノ印影アル證書ヲ以テ其虛之ヲ改印後ノ證書ニ變造スルカ如キモ之カ爲メ必シモ實害ヲ生セサルモノト謂フヲ得ス故ニ變造行使ノ事實アレハ其罪成立ス（同上）

◎變造文書ハ必シモ其義務者ニ對シテ行使スルヲ要セス裁判所ヲ利用シテ行使スルモ其罪ヲ構成ス（廿八年八一八號同年九月九日）

◎僞造證書ヲ裁判所ニ提出シテ義務ノ辨濟ヲ免レントシタル時ハ其結果ノ如何ヲ問ハス行使ノ既遂犯トス（廿八年一〇六二號同年九月十七日）

◎僞造證書ヲ登記所ニ提出シテ登記ヲ受ケントシタル所爲ハ行使ノ既遂犯トス而シテ其登記所ニ於テ之ヲ受理シタルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス（二十八年九四九號同年九月二十四日）

◎白紙委任狀ニ濟口權限ノ委任アルモノノ如ク記載シ之ヲ他人ニ交付シテ裁判所ニ提出セシメ濟口ノ事實ヲ主張セシメタル所爲ハ文書僞造行使罪ヲ構成ス（二十八年一一三六號同年九月三十日）

◎詐欺取財ヲ犯スニ依リ文書ヲ僞造シタル者ニシテ親屬ノ關係ヲ有スル時ハ詐欺取財ノ所爲ハ刑法三百九十八條ニ依リ不論罪トナルヘキモ文書僞造ノ所爲ハ各本條ニ照シテ

處斷ス（二十八年一〇六〇號同年十月十四日）

◎證書ノ本文ニ變更ナク又被害者ノ筆跡ニ異狀ナキモ證書ノ實體ヲ變更シタル所爲ハ私書變造ヲ構成ス即チ證書ノ餘白ニ保證人ヲ書加ヘタル所爲ハ證書ノ實體ヲ變更シタルモノトス（二十八年一一九九號同年十月十八日）

◎他人ノ名義ヲ以テ電報文ヲ偽造シ郵便電信局ヲシテ發信セシメタル後之ヲ他人ニ行使シタル所爲ハ私書偽造行使罪ヲ構成ス（二十八年一一〇〇號同年十月二十八日）

◎死者名義ノ證書偽造ハ其作成ノ日付生存中ニ係ルヲ要ス從テ作成當時ニ於ケル死者生存ノ事實ヲ詳ニセサル判決ハ事實理由ニ不備アル失當ノ裁判ナリ（二十八年一四六〇號二十九年一月十四日）

◎私書偽造行使罪ハ偽造證書自体ヲ行使シタルニ非サレハ成立セス從テ其謄本ヲ裁判所ニ提スルモ罪トナラス（二十九年九一號同年三月六日）

◎私書偽造罪ハ行使ニ依リテ成立ス從テ知情行使ノ事實アル時ハ偽造ノ所爲ニ加効セサルモ犯罪實行ノ正犯ヲ以テ論ス（二十九年二五七號同年四月十四日）

◎委任條件ヲ記入セサル委任狀用紙ニ署名者本人ノ意思ニ反スル條件ヲ記入シタル所爲ハ證書ノ變更ニ非スシテ偽造ナリ（二十九年一一四四號同年十二月一日）

◎地所賣渡證書ヲ作成シ詭辯ヲ以テ被害者ヲ瞞着シ依テ調印セシメタル所爲ハ證書騙取罪ニ非スシテ私印盜捺及私書偽造罪ナリ（三十年一〇五號同年二月十八日）

◎偽造又ハ變造ニ係ル文書ヲ眞正ノ文書トシテ他人ニ示シタル以上ハ證書偽造行使罪ヲ構成ス而シテ其之ヲ證據トシテ示スヘキ場合ニ行用シタルト否トハ固ヨリ問フ所ニ非ス（三十年一五八號同年三月十五日）

◎偽造ノ預ヲ金證書ニシテ印紙ノ貼用ヲ欠ク時ハ裁判上直チニ採テ證據ト爲スコトヲ得スト雖モ之ヲ受取ル者ヲシテ其記名人カ義務ヲ負擔スル眞正ノ證書ト信認セシメタル時ハ書證偽造行使罪ヲ構成ス（三十年四三三號同年五月十四日）

◎偽造證書ヲ提出シ裁判所ヲシテ支拂命令ヲ發セシメタル所爲ハ其證書ノ提出ヲ要スル場合ナルト否トニ拘ラス證書偽造行使罪ヲ構成ス（三十年四〇六號同年五月二十四日）

◎民事訴訟ヲ提起スルニ當リ利益ノ證據ニ供スル爲メ偽造證書ヲ辯護士ニ交付シタル所爲ハ私書偽造行使罪ヲ構成ス（三十年五〇八號同年六月二十四日）

◎文書ノ正本副本若クハ原本謄本各通ヲ偽造行使シタル所爲ハ一罪ナリ（三十年八七二號同年十月二十八日）

◎郵便貯金所備付ノ帳簿ヲ變造シテ之ヲ備付ケ置ク時ハ直チニ變造行使罪ヲ構成ス（三十年八六一號同年十月二十九日）

◎死者名義ノ偽造證書ト雖モ生存中ノ日付ヲ以テ其相續人ニ對シ行使シタル時ハ私書偽造行使罪ヲ構成ス（三十年一〇六〇號同年二月二十一日）

◎偽造文書ノ行使ハ文書自体ニ記載アル趣旨ニ基キ之ヲ行使セシノミニ制限セラルヘキニ非ス苟モ或ル目的ヲ達センカ爲メ之ヲ行使セハ卽チ犯罪成立ス（三十一年一六一號同年二月二十二日）

◎私印盜用罪ハ盜捺ノミヲ以テ構成スルニアラス其印影ヲ使用スルニ因リ始メテ構成ス故ニ印主自ラ押捺シタル印影ト雖モ他人カ擅ニ之ヲ使用シタルトキハ盜用罪ヲ構成スヘキモノトス（三十二年四三四號同年五月一日）

◎印影ノ盜用ヲ共謀シタル上ハ他ノ共謀者ニ於テ之ヲ盜捺シタル以上ハ自ラ手ヲ下サス

ト雖モ犯罪實行ニ干與シタルモノトス（三十二年九九二號同年十月十三日）

◎甲者アリ乙者カ他人ノ印影ヲ盗捺セシ罫紙ヲ所持スルノ情ヲ知リナカラ共謀シテ證書ヲ偽造行使シタルトキハ甲者モ亦印影盗用罪ノ刑責ヲ免カレス（三十二年第一一〇號同年二月二十三日）

◎偽造變造ノ文書ハ其目的ニ從テ行使スルト否トヲ問ハス均シク犯罪ヲ構成スルモノトス故ニ印紙ヲ貼用セシメ其證書ノ効用ヲ完全ナラシムル目的ニ出テタル行使タリトモ文書行使罪ヲ成スモノトス（三十一年二八五號三十二年一月十九日）

◎他人ノ認印ヲ偽造シ虚偽ノ事實ヲ記入シタル文書ヲ作成シタル上該偽造ノ認印ヲ押捺シ之ヲ行使シテ虚偽ノ事實ヲ信用セシムルノ用ニ供シ之ヲ行使シタル所爲ハ其原因ノ如何ヲ問ハス偽造私印ノ使用罪及ヒ偽造文書ノ行使罪ヲ構成スルモノトス（三十二年二九四號同年三月二十三日）

◎私印盗用罪ハ盗捺ノミヲ以テ構成スルモノニアラス其印影ヲ使用スルニ因リテ始メテ犯罪ヲ構成ス即チ他人ノ押捺シタル印影ヲ擅ニ使用セハ盗用罪ヲ構成スルモノトス故ニ署名捺印セル白紙委任狀ヲ委任外ニ行用シタル所爲ハ印影盗用ヲ成スモノナリ（三十一年十二月二七五號三十二年一月十七日）

◎郵便爲替券在中ノ信書ヲ竊取シ擅ニ受取人ノ氏名ヲ記入シ有合印ヲ押捺シテ郵便局ニ差出シ金員ヲ騙取シタル所爲ハ竊盗罪ニシテ受領者ノ氏名ヲ記入シ之ヲ該局ニ差出シタルハ私書偽造行使ニシテ二罪ヲ構成ス

◎犯罪成立ニハ故意ヲ以テ足リトス犯意アルヲ必要トセス（三十二年四九二號同年五月八日）

◎敎務本部ノ印章並ニ其文章ヲ偽造行使シタル所爲ハ敎務本所ノ事務ニ付權義ヲ有スル者ノ私印私書ヲ偽造行使シタルモノトス（三十三年れ四七三號同五月四日）

◎有合印ヲ押捺使用シタル所爲ハ犯罪ヲ構成セス（三十五年れ一六三號）

◎私印偽造行使罪ノ成立ニハ其偽造ニ係ル印章カ人ヲシテ眞印ナルコトヲ信セシムル程度ニ偽造セラレタルノミヲ以テ充分ナリ其印章ノ眞章ニ酷似スルト否トハ之ヲ問フノ必要ナシ故ニ私印偽造罪ヲ所斷スルニハ偽造印章ト眞印章トヲ比較對照シテ其類似ノ程度ヲ調査スルノ必要ナク其偽造印章ハ果シテ人ヲシテ眞印ナルコトヲ信セシムヘキ性質ヲ有スルヤ否ヤヲ判斷スルノミヲ以テ足レリトス（三十五年六月二日）

◎印影ニハ必ス氏名ヲ表示スルノ必要ナシ故ニ相濟ト彫刻シタル印顆ト雖モ押捺者ノ承諾ヲ證明スル爲メニ其名下ニ捺スルニ於テハ法律上有効ノ調印ニ外ナラス（三十五年六月二十日）

第二百九條　爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

◎手形偽造罪ハ信用ヲ害スル罪ナレハ實害ナキヲ以テ罪トナラスト云フヲ得ス（二十六年二七八號同年四月二十七日）

◎偽造手形ハ其形式上約束手形トシテハ多少缺クル處アルモ其手形ハ現ニ約束手形トシテ他人ヲ欺クニ足ルモノハ即チ偽造ノ約束手形ナリ而シテ其人ヲ欺クニ足ルヤ否ノ程度ヲ判定スルハ承審官ノ職權ニ屬シ他ヨリ論難スルヲ得ス（二十七年七三四號同年十月九日）

◎正當ニ發行セラレタル切符ニ虚偽ノ金額ヲ記入スルハ即チ文書ノ增減變換ニシテ偽造ニ非ス（二十八年三七一號同年四月十四日）

◎廢紙ニ關シタル手形ト雖モ之ヲ有効ノモノヽ如ク假裝スルトキハ尙ホ手形僞造罪ヲ以テ論ス（二十八年五七三號同年七月八日）

◎手形裏書ノ部ニ仕切判ヲ押捺シタルニ止マルモノナレハ裏書ト認メ難シ假令裏書ヲ爲シタリトスルモ約束手形ハ被告ノ僞造ニ係ルモノナレハ之ニ詐僞ノ裏書ヲ爲スハ即チ別個ノ所爲ニアラスシテ手形僞造中ニ包含スルヲ以テ刑法二百九條二項ニ該當セス（二十八年七三五號同七月二十三日）

◎僞造ニ係ル小切手ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリ（同上）

◎手形僞造ヲ加功セサルモ其僞造ヲ熟知シテ之ヲ行使セハ僞造行使ノ罪ヲ組成ス（二十九年一四四號同年二月二十八日）

◎新聞社ノ會計主任ハ單ニ金錢ノ出納ヲ掌理スルニ止リ金錢ヲ處分スルノ權能ヲ有セス從テ擅ニ新聞社ノ名義ヲ利用シ約束手形ヲ發行シタル所爲ハ手形僞造罪ヲ構成ス（二十九年九一一號同年十月十五日）

◎手形保證人ヲシテ其債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔セシムルノ規定即チ商法七百五十一條ハ單ニ債務者ニ對シ連帶責任ヲ負ハシメタルニ止マリ主タル債務者ト保證人トノ權利關係ハ毫モ變更ヲ來サス故ニ保證人名義ヲ純然タル連帶債務者ノ如ク變更シタル所爲ハ手形變換行使罪ヲ構成ス（三十年七三四號同年九月二十日）

◎送金手形ハ名宛人若クハ所持人ニ手形ト引替ニ金額ヲ拂ヒ渡スヘキモノナルニ付普通ノ證書ト同一視スヘキモノニ非ス即チ刑法二百九條ノ約束手形ニ包含ス（三十年六九〇號同年十一月十五日）

◎實父名義ノ小切手ヲ僞造シ銀行ヨリ金圓ヲ騙取シタル所爲アルコトヲ認定シナカラ實父ヲ以テ被害者ト爲シ不倫罪ト判決セシハ擬律錯誤ナリ（三十年九六二號同年十一月十九日）

◎刑法二百九條ニ規定スル手形類ハ單ニ商法ニ規定アル者ニ限ラス其他ノ證券ト雖モ其性質効用相類スルモノモ亦包含ス故ニ裏書ヲ以テ賣買讓渡ヲ爲シ得ヘシト認ムルハ本條ニ據リ處斷ス（三十年一一一六號三十一年一月十八日）

◎裏書人ノ署名ノミヲ以テ讓渡ヲ爲ス場合ノ外手形ノ日附ヲ記載シタル所爲ハ刑法第二百九條第二項ノ犯罪ヲ構成ス（三十二年一二二四號同年十一月十三日）

◎刑法第二百九條ノ裏書ヲ以テ賣買スヘキ證書若クハ金額ト交換スヘキ約束手形トハ裏書者若クハ交付ニ依リ讓渡スヘクシテ其ノ價格證券ニ存スル流通證券ノ謂ニシテ爲替手形約束手形ノ如キ或ル有價證券ニ特有ノ名稱ニ非ズシテ小切手等ノ如キモ之ニ包含ス（明治三十一年九一三號同年二月十六日）

◎反古紙ヨリ郡長ノ印影ヲ切取リ引出切符用紙ノ要所ニ貼附シタルハ印影及引出切符用紙ヲ僞造ノ材料ニ供シタル者ニシテ之ヲ行使シタル所爲ハ引出切符ノ僞造ナリ（三十一年一一三〇號同年十二月十二日）

◎約束手形ハ無形人ト雖モ其名ヲ以テ之ヲ振出スコトヲ得約束手形ノ成立ニ押印ヲ要件トスルノ故ヲ以テ手形僞造行使罪ヲ成立スル以上ハ其手形ニ僞造印ヲ使用シタル所爲ハ別ニ私印僞造行使罪ヲ成サスト云フヲ得ス（三十二年一九六號同年三月七日）

◎送金手形ヲ窃取シテ現金ニ引換フルハ窃盜罪ノ結果ナリ然レトモ現金ノ引換ニ際シ手形ニ記載ナキ金圓受領ニ關スル必要ノ事項ヲ記入シタル所爲ハ別ニ手形僞造罪ヲ構成スヘシ（三十一年四六七號同年六月十七日）

◎滿期日ヲ記載セサル手形ニ擅ニ滿期日ヲ記入シタル所爲ハ手形僞造罪ヲ構成ス（三十

（三年七〇一號同七月九日）

◎刑法第二百九條第二項ハ一旦有効ニ成立シタル手形證書ニ詐欺ノ裏書ヲ爲シタル場合ニ適用スヘキモノトス從テ手形作成ノ當初ヨリ金圓ヲ騙取スルノ目的ヲ以テ假裝ノ受取人ヲ記載シ裏書ヲ僞造シタル場合ニハ同條項ヲ適用セス同條第一項ヲ適用スヘキモノトス（三十四年れ五三四號同四月二十二日）

◎約束手形ヲ僞造シ併セテ其裏書ヲ僞造シタル所爲ハ約束手形僞造行使ノ一罪ニシテ裏書僞造ノ爲メニ別罪ヲ構成セス（三十四年）

◎有効ニ成立シタル約束手形ヲ收受シ其記載ノ金額ヲ變更シタル所爲ハ約束手形ノ變造罪ニシテ僞造罪ヲ以テ論スヘキモノニアラス（三十四年）

◎虛無ノ人名ヲ以テ約束手形ノ振出人トナシ之ヲ行使シタル所爲ハ記錄者ノ資格ヲ詐稱シタル事實ナキトキハ約束手形僞造行使罪ヲ構成セサルモノトス（三十五年五月一日）

◎刑法第二百九條及第二百十條ノ所謂文書僞造行使罪トハ自己ノ僞造シタル文書ヲ行使シタルモノハ勿論自己ノ僞造若クハ變造シタルニアラサルモ僞造若クハ變造ニ係ル文書ナルコトヲ知リテ之ヲ行使シタル者ハ文書僞造行使罪ヲ完全ニ構成スルモノトス（明治三十五年れ一九二七號）

第二百十條　賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其餘ノ私書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

◎登記官カ登記番號ヲ附記シ認印シテ下附シタル不動產賣買證書ヲ變換行使シタルハ刑法第二百十條第一項ノ犯罪ニシテ二百四條ノ犯罪ヲ構成セス（二十四年一一〇號同年七月九日）

◎登記官ヲ欺キ不實ノ登記ヲ爲サシムルモ申告不實ニ止リ官文書僞造行使ノ罪ヲ構成セス（二十四年一七七號同年十一月十二日）

◎文書トハ符號又ハ暗號ノ如キモノニ非ス故ニ電機ヲ使用シ現字紙ニ虛僞ノ電報符號ヲ現出セシムルモ官文書僞造ニ非ス（二十五年四六二號同年六月六日）

◎郵便電信局ニ屆ハレ中爲替振出簿等ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル所爲ハ刑法二百八十九條二項ニ所謂官ノ簿冊ヲ增減シタルモノトス而シテ該簿冊ハ常ニ官衙ニ備ヘアルモノナレハ其記載ヲ爲スト同時ニ僞造行使罪ヲ構成ス（廿八年一三七一號二十九年一月十六日）

◎地所登記願書ヲ僞造行使シタル所爲ハ刑法二百十條二項同二百十二條ニ該當ス（二十六年七五一號同年七月十日）

◎刑法二百十條一項賣買貸借贈遺交換云々トハ權義アル文書ノ重モナルモノヲ列記セシ文意ナルカ故ニ賣買證書ハ勿論委任狀ノ如キモ亦令理ノ權限ヲ證スル文書ナレハ同條項ノ制裁ヲ受クヘキモノナリ（二十五年六八二號同年七月十日）

◎舊村總代ノ證明書ハ官吏若クハ公吏ノ如キ公正證書ヲ作ルヘキ資格アル者ノ作リタル證書ニ非サレハ之ヲ以テ公正證書ナリト云フヲ得ス（二十六年六二二號同年八月十七日）

◎國立銀行ノ雇員其被雇中ニ於ケル窃盜ノ所爲ヲ掩ハンカ爲メ出納簿ニ詐欺ノ記入ヲ爲シタル所爲ハ刑法二百十條一項ニ所謂私書僞造行使罪ナリトス（二十八年五五一號同年六月十五日）

◎抵當登記ノ爲メニ要スル證書ノ謄本ハ其効力本證書ト同一ナリトス故ニ刑法二百十條一項ヲ適用シタルハ相當ナリ（二十九年一二四五號同年十二月二十一日）

◎英人某ノ英文覺書ヲ本邦人カ變造使行シタルヲ認メ刑法二百十條ヲ適用セシハ當然ニシテ法律ハ內外人ノ文書ヲ以テ區別セス（三十一年三九號同年二月二十二日）

◎保險證書ハ被保險人カ死亡シタル場合ニ於テ金員ヲ授受スヘキ契約證書ナレハ其證書ノ成立スルト同時ニ其ノ効力アルモノナレハ其ノ證書ヲ騙取スルトキハ直チニ其罪ヲ構成ス

金圓ヲ詐取スル手段タルト否トヲ問ハス苟モ權利義務ニ關スル證書ヲ騙取セハ直チニ其罪ヲ構成ス（三十二年四一五號同年四月二十一日）

◎虛無ノ名義ヲ以テ小切手ヲ振出シタル場合ト雖モ名宛人タル銀行ニシテ現在スルトキハ小切手偽造行使罪ヲ構成ス小切手取組ノ報告書ハ權利義務ニ關スル證書ナリ（三十二年三七三號同年四月十三日）

◎電報賴信紙ニ他人ノ氏名ヲ詐冒シ之ヲ行使シタル所爲ハ則チ權利義務ニ關スル以外ノ私書ヲ偽造シ之ヲ行使シタルモノニシテ文書偽造行使罪ヲ構成ス（三十二年一一八八號同年十一月十四日）

◎商業帳簿ハ會社營業上ノ基本タルモノナレハ刑法第二百十條ニ所謂權利義務ニ關スル證書ナリ（三十一年六五八號三十二年二月六日）

◎鐵道ノ乘車券ハ權義ニ關スル證書ナリ（三十三年一〇二一號同十月四日）

◎有効期限ヲ經過シタル鐵道乘車切符ノ日付ヲ改竄シテ行使シタルハ證書偽造行使罪ヲ構成ス（三十三年れ一六二三號三十四年一月二十九日

◎偽造證書ニ確定日付ヲ受ケタル所爲ハ偽造證書行使ノ結果ニ外ナラスシテ別ニ一罪構成スヘキモノニアラス（三十四年れ四〇號同二月五日）

◎地所建物ノ賣買ニ關スル登記申請書ハ權義ニ關スル證書ナリ（三十四年れ七九號同二月八日）

◎電報賴信紙ヲ偽造シテ受付掛員ニ交付シタル以上ハ其電信文ハ未タ受信人ニ發送セラサルモ偽造文書行使罪ヲ構成ス（三十四年一三二號れ同二月十九日）

◎或特定人ノ文書ヲ偽造スル意思ヲ以テ故ラニ本名ヲ避ケ類似ノ氏名ヲ記載スルモ其實特定人ヲ意味シタルモノトス（三十四年れ二〇四號同四月十一日）

◎或一定人ノ文書ヲ偽造スルニ方リ偽造者ノ誤信ノ爲メ其姓ヲ誤記シタル場合ニ於テモ其意ハ特定人ノ文書ヲ偽造スルニ在リタルモノトス（三十四年れ四一八號同四月十五日）

◎村役場ニ於テ所有地所ノ反別調査ヲ委任スル委任狀ハ權義ニ關スル證書ナリ（三十三年れ六八四、六八五號同六月二十九日）

◎債務證書ノ附箋及附記ヲ切斷シ債務ノ体樣ヲ變更セシメ單純ナル預リ證書ノ如ク作爲シタル所爲ハ證書毀棄罪ニアラスシテ證書變造罪ヲ構成スルモノトス（三十四年れ八三七號同六月十一日）

◎銀行ノ損失ヲ隱蔽センカ爲メ銀行備付ノ帳簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル所爲ハ國立銀行條例第八十五條ニ該リ刑法第二百十條第一項ノ權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シタルモノトス（三十四年れ一一四四號同十月八日）

◎米一俵ノ借用證書ヲ作成スルニ當リ米額ノ個所及ヒ保證人ノ個所ニ貼紙ヲ爲シ置キ後ニ至リ其貼紙ヲ剝取リ米額ヲ增加シ保證人ノ個所ニ借用主ト記入シタル連帶借用證書ヲ作成シ之ヲ行使シタル所爲ハ私書變造行使罪ニアラスシテ私書偽造行使罪ヲ構成ス

ルモノトス（三十五年二月十八日）

◎文書偽造行使罪ヲ構成スルニハ其文書ヲ偽造行使シタルニ因リ他人ニ害ヲ生シ又ハ害ヲ生スヘキコトヲ要ス故ニ他人ノ文書ヲ偽造行使スルモ其者ノ爲メニ必ス利益ヲ生シ損害ヲ發生セサルトキハ犯罪ヲ構成セス因テ他人名義ノ文書ヲ偽造シタルノミノ所爲ハ以テ常ニ犯罪ヲ構成スルモノト云フ可カラス（三十五年四月二十四日）

◎他人ニ投票ヲ得セシムル目的ヲ以テ詐偽ノ手段ニ因リ偽造文書ヲ行使シタルハ選擧權ノ施行ヲ妨害シタルモノニシテ市町村會議員選擧制則第七條第二條ニ該當シ第六條ヲ以テ罰スヘキモノトス亦他人ノ各義ヲ以テ郵便端書ヲ有權者ヲ發シタルハ私書偽造行使罪ヲ構成ス

◎偽造證書ヲ支拂命令申請ノ爲メ區裁判所ヘ提出シタルハ即チ偽造文書ヲ行使シタルモノトス（三十五年十月三十日）

◎文書ノ要部ヲ切斷スルニ於テハ文書ノ効力ハ全部喪失シ廢紙ニ歸スルモノトス從テ其廢紙ヲ利用シ更ラニ文書ヲ詐偽行使シタル所爲ハ文書ノ變造行使罪ニアラスシテ文書偽造行使罪ヲ構成ス（三十五年れ第一八〇九號）

第二百十一條　此節ニ記載シル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百十二條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第五節　免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第二百十三條　官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第二百十四條　屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

◎詐偽ノ手段ヲ以テ他人ヲシテ免許鑑札ヲ受ケタル所爲ハ刑法第二百十四條第一項ノ犯罪ヲ構成ス（三十三年れ第一五二號同二月二十七日）

◎刑法第二百十四條ノ所謂免狀ナルモノハ之ヲ受クルト同時ニ或特殊ノ行爲ヲ實行シ得ヘキ權利ヲ享有スルモノナリ故ニ書記試驗及第證書ハ單ニ其ノ及第シタルコトヲ證スルニ過キサルヲ以テ本條ノ所謂免狀中ニハ包含セス從テ氏名ヲ詐リ之ヲ得ルモ同條ノ犯罪ヲ構成セサルモノトス（三十五年五月十六日）

第二百十五條　公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

◎疾病證書歸省願書等ニ掲クル所ノ醫師及親族ノ氏名ハ假令虛無想像ニ係ルモ眞實ニ其人アル如ク構成シ有合印ヲ押捺シ以テ證書ヲ偽造シタル所爲ハ偽造罪ヲ構成ス（二十

五年四六一號同年六月十六日三十年十月十五日八一一九號ニ反對ノ判例アリ）

◎裁判所ヨリ召喚セラレタル當事者カ出廷ヲ免レン爲メ疾病證書ヲ僞造スルモ刑法二百十五條ニ該當セス（二十六年一〇三〇號同年十月九日）

◎刑法第二百十五條ニ所謂公務ニハ總テノ公務ヲ包含スルヲ以テ軍人カ成規ニ從テ兵營ニ居ルハ公務ニ服スルモノニシテ一時タルト永久ナルトヲ論セス故ニ醫師ニシテ軍人ノ休暇ノ爲メ囑託ヲ受ケ詐欺ノ疾病證書ヲ作成シ之ヲ行使シタル所爲ハ刑法第二百十五條第二項ノ犯罪ヲ構成ス（三十二年一一〇〇號同年十一月七日）

第二百十六條　陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ僞造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シテ各一等ヲ加フ

第二百十七條　免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ增減變換シテ行使シタル者ハ亦僞造ノ刑ニ同シ

第六節　僞證ノ罪

第二百十八條　刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ其實ヲ掩蔽シテ僞證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一　重罪ヲ曲庇スル爲メ僞證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二　輕罪ヲ曲庇スル爲メ僞證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三　違警罪ヲ曲庇スル爲メ僞證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

◎僞證罪ハ證人トシテ宣誓ヲ爲シ公廷ニ於テ不實ノ陳述ヲ爲シタル者ハ卽チ僞證罪構成ス僞證ノ目的タル効果ヲ生シタルト否トニ關セサルモノトス（二十三年一一九號同年十二月十二日）

◎僞證罪ハ僞證シタル本罪ノ種類如何ニ依テ輕重ノ別アルモノナレハ判文ニ於テ其重罪輕罪若クハ警違罪中何レノ罪ニ屬スルカヲ明示セサルヘカラス然ルニ僞證罪ニ對シ漫然刑法二百十八條二項ヲ適用シタルハ理由不備トス（二十六年一一八三號二十七年二月五日）

◎僞證罪ハ其證人ニ對スル訊問ヲ終リタルトキ初メテ成立ス故ニ最初虛欺ノ陳述ヲ爲スモ其訊問中ニ取消ヲ爲シテ眞實ヲ陳述スル時ハ僞證罪トナラス（廿七年一〇四七號同年十月二十六日）

◎僞證ノ自首モ一般自首ノ總則ニ依ル（二十七年八四四號同年十二月十二日）

◎刑法二百十八條ノ一項乃至三項ハ其本文ニ被告人ヲ曲庇スル爲メ云々トアルノ細區分ヲ定示シタルモノニシテ其被告人カ眞ニ重罪輕罪又ハ違警罪ヲ犯シタル者ナルコトヲ必要條件ト爲スノ法意ニ非ス故ニ判文ニ被告カ僞證ヲ爲シタル事件ノ輕罪タルコトヲ明示スル上ハ其被告人某カ果シテ有罪タルコトヲ認定スルヲ要セス（二十八年六三〇號同年六年二十四日）

◎證人タル資格ノ有無如何ニ拘ラス證人トシテ宣誓ノ上虛僞ノ陳述ヲ爲シタル以上ハ僞證罪成立ス

◎重罪ヲ曲庇セントスルモノナルヤ將タ輕罪若クハ違警罪ヲ曲庇セントスル者ナルヤ否ヤハ僞證者ノ意思ニ因テ甄別スヘキモノトス（三十二年七六九號同年六月三十日）

◎被告人ヲ曲庇スル爲メ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル以上ハ其結果如何ニ拘ラス僞證罪ヲ構成

ス（三十二年六八五號同年六月十六日

◎事實ノ存在ヲ知ラストノ陳述モ亦事實上ノ陳述ナリ其ノ陳述虚僞ニシテ他人ノ犯罪ヲ曲庇スルノ意ニ出テタルトキハ僞證罪ヲ構成ス（三十一年八九三號同年十二月二日）

◎證人ノ資格ナキモノト雖モ證人トシテ宣誓ノ上虚僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ僞證罪ヲ構成ス

間稅官吏カ犯罪者本人其他ノモノヲ訊問スルニハ刑事訴訟法ニ據ルヘキモノニアラス從テ立會人ヲ要セス（三十二年一〇五五號同年十月二十四日）

◎刑事裁判事件ニ關シ宣誓ノ上被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ僞證シタル以上ハ僞證罪直チニ成立スルモノニシテ被告人ノ有罪無罪ハ僞證罪ノ構成ニ關係スルモノニアラス（三十三年）

◎自ラ證人タルノ資格ナキモノト雖トモ證人カ僞證ヲ爲スノ情ヲ知リナカラ豫備ノ所爲ヲ以テ之ヲ幫助シタルトキハ僞證罪ノ從犯ナリトス（三十四年れ一七二五號仝年十二月二十日）

◎起訴ノ無効ニ歸スル以上ハ之ニ基キタル豫審處分モ亦從テ効ナキモノトス因テ證人ニシテ豫審判事ノ訊問ニ對シ虚僞ノ陳述ヲ爲シタリトスルモ僞證ノ罪ヲ構成セス（三十四年）

◎僞證罪ノ成立時期ハ證人ニ對シテ訊問ヲ終了シタルトキニ成立ス訊問ノ終了シタルトキハ豫審ニ在テハ豫審判事カ訊問ヲ止メ調書ヲ讀ミ上ケタル上證人ニ於テ其供述ヲ增減變更セサル意思ヲ表示シタル時ヲ云フモノトス（三十五年十月二十日）

第二百十九條　僞證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ僞證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百二十條　被告人ヲ陷害スル爲メ僞證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一　重罪ニ陷ラシムル爲メ僞證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二　輕罪ニ陷ラシムル爲メ僞證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三　違警罪ニ陷ラシムル爲メ僞證シタル者ハ一月以上三月以上ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條　僞證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ僞證ノ罪發覺シタル時ハ僞證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル僞證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑期限內ニ於テ僞證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得但減シテ前條僞證ノ刑ヨリ降スコトヲ得ス

第二百二十二條　僞證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

若シ被告人ヲ死ニ陷ルルノ目的ヲ以テ僞證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第二百二十三條　民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ僞證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以上ノ

重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

◎民事ニ關スル僞證罪ニ付テハ其目的ニ付何等ノ制限ナシ從テ當事者ニ對シ不正ノ利ヲ與ヘ若ハ損害ヲ加フノ目的ニ出ツルコトヲ要セス（三十四年れ一七三號同年十二月十六日）

第二百二十四條　鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シテル時ハ前數條ニ記載シタル僞證ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十五條　賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ僞證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦僞證ノ例ニ同シ

◎僞證囑託罪ハ刑法第二百二十五條ニ規定セラレタル特種ノ犯罪ナルヲ以テ自ラ證人タルノ資格ナキ場合ト雖モ他人ニ僞證ヲ囑託シタルトキハ當然僞證罪ヲ構成ス（三十四年五九八號同五月二十三日）

◎詐言ハ刑法二百二十五條ニ所謂其他ノ方法ニ包含ス故ニ詐言ヲ信シ意ヲ決シ僞證ヲ爲サシメタルハ本條ノ制裁ヲ免レス（三十八年一二四八號同年十一月二十八日）

◎苟モ僞證ヲ爲シタル上ハ其罪直ニ成立ス之カ爲メ實害ヲ生シタルト否ハ此罪ノ成立ニ關セス（二十八年一四七四號二十九年一月十七日）

◎證人ノ資格ナキ者ト雖モ其事實ヲ隱蔽シ宣誓ノ上詐欺ノ供述ヲ爲シタル時ハ僞證罪ヲ構成ス而シテ訊問中其事實發覺シタル場合ニ於テ證人ノ資格ナキ旨ヲ申立ルモ之カ爲メ一旦成立シタル僞證罪ハ消滅スヘキモノニ非ス（二十九年七七六號同年九月十八日）

◎刑法第二百二十六條ハ僞證罪ノ發覺セサル前其事件ノ裁判ニ至ラサル前ニ適用ス既ニ公訴提起後ニ自首シタル場合ニ適用セス（三十年九八九號同年十一月五日）

◎不正ノ方法ヲ用ヒス單ニ過去ニ屬スル恩誼上ノ關係ヲ說テ罪證ヲ囑託シタル所爲ハ法律上證トナラス

◎刑法第二百二十五條ニ所謂其他ノ方法トハ脅迫詐欺威權約束等總テ不正ニ涉ル手段ヲ指シタルモノトス（三十一年第四〇八號三十一年五月六日）

◎賄賂其他ノ方法ニ依ラス單ニ人ニ囑託シテ僞證ヲナサシムルモ刑法第二百二十五條ノ犯罪ヲ構成セス（三十一年第三〇〇八號三十一年十月三十一日）

◎自首ハ事未タ發覺セサル前ニ爲スニ非ラサレハ其効ナシ從テ僞證罪ノ自首ニ依リ本刑ヲ免スル場合ハ證言ヲ爲シタル事件ノ裁判宣告前ニ於テ自首シタルコトヲ要ス（三十四年れ第一四四四號仝年十一月八日）

第二百二十六條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第七節　度量衡ヲ僞造スル罪

第二百二十七條　度量衡ヲ僞造シ又ハ變造シテ販賣シテシタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ僞造シ又ハ盜用シタル時ハ僞造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條　僞造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス

第二百二十九條　商賈農工定規ヲ增減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第二百三十條　人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

◉雜貨商カ故ラニ緣金ヲ取外シタル桝ヲ所持セハ其營業上使用センカ爲メ所持シタルヤ否ヤヲ問ハス刑法二百二十九條初項ノ犯罪ヲ構成ス而シテ同條項ハ定規ヲ增減シタル度量衡ヲ所持スル者ヲ制裁スル法條ニシテ度量衡法十五條末項ハ自然ニ狂ヒヲ生シタル度量衡ナルヿヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用シタル者ヲ罰スルノ規定ニシテ彼是其精神ヲ異ニス（三十六年一四一八號二十七年三月二十六日）

◉定規ノ容量ヲ減シタル桝ヲ利ヲ得ルノ目的ヲ以テ數月間繼續シテ商業上ニ使用シタルモ商ハ刑法二百二十九條二項ヲ以テ論ス而シテ被告ハ桝ノ四隅ニ「コクス」ヲ附着セシメテノ業上使用シ買主ヲシテ定規ノ桝ナリト信セシメ利得シタルコト明白ナレハ欺罔騙取ノ二條件ヲ具備スルカ故ニ詐欺取財罪ヲ構成ス（二十七年四八五號同年五月二十五日）

◉苟モ量器ノ定量ヲ增減シタル者ハ其所爲ノ如何ヲ問ハス定規ヲ增減シタルヲ以テ詐欺取財罪成立ス（三十年一一四五號同年十二月十六日）

◉刑法第二百二十九條第二項ノ定規ノ度量衡ヲ增減シテ使用シタルト云フハ其度量衡ハ定規ノモノニシテ增減セラレタル后チ之ヲ使用シタル事實ナカル可カラス故ニ隨意ニ屬シタルモノヲ使用シタルモノニシテ欺罔若クハ恐喝ノ事實ナキトキハ第三百九十條ノ罪ヲ構成セス（三十二年三九七號同年四月二十一日）

◉隨意ニ屬シタル度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル所爲ハ法律上罪トシテ論スヘキモノニアラス（三十二年）

第八節　身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條　官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其戸籍身分氏名年齡職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

◉警察署ニ於テ違警罪被告人トシテ取調ヲ受クル際氏名ヲ詐稱スルコトアルモ自己ノ辨護權內ニ屬スルヲ以テ氏名詐稱罪ヲ構成セス（三十三年れ三三九號同年四月十日）

◉他人名義ノ轉籍屆ヲ戸籍吏ニ提出シテ氏名ヲ詐稱シタル事實ヲ認メナカラ何等ノ裁判ヲ爲サヽル判決ハ不法ナリトス（三十三年五三八號同五月二十一日）

第二百三十二條　官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ內外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

◉菊ノ御紋ハ皇族以上ニ非サレハ之ヲ使用スルヲ得サル徽章ナルコトハ明治四年三十八號布告ニ規定スル所タリ故ニ漫ニ之ヲ使用スル時ハ刑法二百三十二條ノ罪ヲ構成ス（二十三年二三三六號同年十一月二十七日）

◉苟モ人ヲ欺瞞スルノ目的ヲ以テ官職ヲ詐稱スル者ハ假令官吏ニ屬スル行爲ヲ爲スノ意思ナキ時即チ詐欺取財ノ手段ト爲スモ刑法二百三十二條ノ制裁ヲ免レス（二十七年七三八號同年十月五日）

◉官名詐稱ハ詐欺取財犯ニ必要ナル行爲ニ非ス故ニ二個各別ノ犯罪ヲ構成スルヲ以テ二罪トシテ處斷シタルハ相當ナリ（二十九年二五九號同年三月十六日）

第九節　公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ增減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁

錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條　賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條　投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ僞造シ又ハ增減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條　調書ヲ作リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ增減シ其他詐僞ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

◎町村制ノ規定ニ基キ組織シタル組合會議員ノ選擧ハ公ノ選擧ナリ從テ其投票ヲ僞造シタル所爲ハ公選投票ヲ僞造シタル所書ハ公選投票僞造罪ヲ構成ス　（三十年七七一號同年十月十八日）

◎公選投票詐僞報告罪ハ調書ヲ作成シ投票ノ結局ヲ報告スル身分ヲ有スル者ニ非サレハ實行正犯者ニ非ス而シテ其身分ヲ有セサル者ト雖モ教唆又ハ幇助ノ所爲アル時教唆者又ハ從犯者トシテ其犯罪ヲ構成ス　（三十年八五〇號同年十月二十二日）

第五章　健康ヲ害スル罪

第一節　阿片烟ニ關スル罪

第二百三十七條　阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第二百三十八條　阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ之ヲ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百三十九條　稅關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前第二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百四十條　阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

第二百四十一條　阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ノ處ス

第二百四十二條　阿片烟及吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

◎刑法第二百四十二條ノ法意ハ犯人ノ意思如何ヲ問ハス阿片烟ナルコトヲ知リテ阿片烟ヲ所有スルノ行爲アレハ之ヲ責罰スルニアリ　（三十三年）

第二節　飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條　人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條　人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十五條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節　傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條　傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條　船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條　傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出テタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條　獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節　危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

第二百五十條　官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十一條　官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節　健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

第二百五十三條　人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條　規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六節　私ニ醫業ヲ爲ス罪

第二百五十六條　官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條　前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六章　風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條　公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十九條　風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十條　賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

◎金錢ヲ賭シ米穀取引所ノ相場昂低ヲ標準トシテ勝敗ヲ決シタル所爲賭博罪ヲ構成シ其勝敗ヲ決スル博奕ヲ爲スノ賭場ヲ開張シ利ヲ圖リタル所爲ハ現行犯ニ非スト雖モ固ヨリ其責罰ヲ免ルヽコトヲ得ス（三十二年一一三九號同年十一月二十一日）

◎賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招集シタル所爲ハ其行爲カ一回タルト常行タルトニ因リ差異ヲ生スヘキモノニ非ス（三十三年れ一五三〇號同年十一月二十四日）

◎賭博ヲ擧行シテ利ヲ圖ルノ目的ヲ以テ賭博人ヲ募集シ金錢ヲ賭セシメタル以上ハ未タ賭博ノ勝敗ヲ決スルニ至ラサルモ賭場開張罪ヲ構成ス（三十四年れ四四號同年二月一日）

◎多數人ヲ集メ秘密ニ作リ置キタル賭場開張罪ヲ構成ス（三十四年れ四九九號同年四月十九日）

賭錢博奕ヲ爲サシメタル所爲ハ賭場開張罪ヲ構成ス（三十四年れ四九九號同年四月十九日）

第二百六十一條　財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス、賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス

◎博奕ノ所爲ハ現行ナルヲ要スルモ其賭スル所ノ財物ハ現ニ授受スルコトヲ必要トセス苟モ財物授受ノ目的ニ出ツレハ其罪成立ス（三十五年八四一號同年十月二十日）

◎現ニ賭博ヲ爲シタルコト明カナレハ犯人不明ナルモ情ヲ知テ房屋ヲ給與セハ其罪成立ス（二十七年三二九號同年四月十二日）

◎金錢トハ通貨ノ總稱ニシテ紙幣モ亦其内ニ包含ス（廿九年五二八號同年五月廿一日）

◎賭場ニ現存スル博具ハ所有者ノ自他ヲ論セス總テ之ヲ沒收ス而シテ其沒收ノ言渡ヲ爲スニハ刑法二百六十一條二項ニ依ルヘキモノニシテ同法四十四條ヲ適用スヘキモノニ非ス（三十年八號同年一月廿五日）

◎賭場ニ於テ金錢ニ代用シタル碁石ハ賭用ノ器具ナリ（三十年一二四號同年二月廿六日）

◎賭博ノ現場ヲ巡査ニ嗅見セラレタル以上ハ犯人ノ現場ニ在ルト逃走シタルトヲ問ハス凡テ現行犯ナリ（三十年三五八號同年五月三日）

◎米穀取引ノ体ヲ假裝シ米穀取引所ノ相場ノ昂低ニ依リ金錢ヲ賭シタル所爲ハ賣買取引ヲ爲シタルモノニアラス從テ取引所法違犯ニ非スシテ賭博罪ナリトス（三一四年れ九二三號仝六月二十五日）

◎富籤トハ財物ヲ醵集シ抽籤ニ依リ當籤者ニ利益ヲ與フヘキ犯罪ヲ謂フ故ニ抽籤ノ事實ナク偶然ノ利益ヲ僥倖スル所爲ハ普通ノ賭博ナリ（三十三年れ一四八號仝年一月二十五日）

◎米相場ノ高低ニ依リ勝敗ヲ決スルカ如キハ必シモ博奕ニ限ル者ニ非ス從テ米相場ノ高低ニ依リ勝敗ヲ決スル事實ヲ以テ賭博罪ニ問擬スルニハ其手段方法ヲ明示セサルヘカラス（三十三年れ四〇二號仝年四月十九日）

第二百六十二條　財物ヲ醵集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

◎商店カ開業一週年祝賀トシテ顧客ノ爲メニ無價ニテ景物券ヲ贈與シタルモノニ係リ買主カ其景物ヲ目的トシテ損害ヲ賭シタルモノニ非サレハ刑法二百六十二條ノ富籤ヲ以テ論セス（二十五年六二五號同年七月十八日）

◎富籤ハ豫メ籤札ヲ衆人ニ賣却シ抽籤ノ上其番號ノ符合スル籤札所持人ニ利益ヲ與フル方法ノミニアラス（三十三年れ一二八三號仝年十一月二十二日）

◎富籤興行ハ時々公衆ヲ招集スル場合ノミニアラス（三十三年れ一二八三號仝年十一月二十二日）

◎表面上相互ノ利益ヲ圖ル爲メ設ケタル講會ノ如ク假裝シ其實抽籤者ノ方法ヲ以テ當籤

者ニ僥倖ヲ得セシメタル所爲ハ富籤興業罪ヲ構成ス（三十三年れ一二三二號仝十一月五日）

第二百六十三條　神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ說教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章　死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條　埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條　墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ハ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十六條　此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未遂ケサル者ハ未タ遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

◎人ノ遺骨ハ金錢ニ換ヘ得サル物件ニ非ス亦一種ノ有價物ナリ既ニ之ヲ有價物トシテ盜取スルニ於テハ窃盜罪ニ問フヘキモノトス其墳墓ヲ發掘スル如キハ埋骨ヲ得ンカ爲メノ手段ナルニ過キサルヲ以テ特ニ刑法上ノ制裁ヲ加フヘキモノニ非ス然ルニ死屍ハ窃盜ノ目的物トナラサルモノトシテ其窃盜罪ヲ無罪ト爲シ墳墓發掘罪ニ處シタルハ擬律錯誤ナリ（二十六年一〇〇九號同年九月二十八日）

◎土葬火葬ニ除ナク現ニ在ル遺骸ヲ死屍トスルハ相當ナリ（二十七年六五〇號同年九月二十五日）

◎何人ト雖モ墳墓ハ尊敬スヘキモノナリ故ニ改葬ノ如キハ固ヨリ其尊敬ヲ失ハサルヲ以テ其罪ヲ構成セスト雖モ其他墳墓ヲ發掘スルカ如キハ法律上止ムヲ得サル場合ノ外死屍ノ實兄並ニ妻及相續人一同ノ承諾ヲ得タリトスルモ刑法二百六十五條ノ犯罪ヲ構成ス（廿七年一〇二〇號同年十月八日）

◎死者ノ遺骸ハ墳墓ト共ニ其相續人又ハ承繼人ノ保有ニ屬ス其遺骨ヲ金錢ニ見積リ得サルモノニ非ス故ニ其窃取ノ所爲ニ對シ遺骨ノ價格ヲ判定シ窃盜罪ヲ擬シタルハ相當ノ裁判ナリ（廿九年七五七號同年十一月九日）

第八章　商業及ヒ農工業ヲ防害スル罪

第二百六十七條　僞計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百六十八條　僞計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十九條　僞計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十條　農工ノ雇人其雇賃ヲ增サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ僞計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三

圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條　雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ僞計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條　虛僞ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ價値ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章　官吏瀆職ノ罪

第一節　官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條　官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

◉村役場ノ時記カ村長ノ命令ニ戻リ其職務ヲ盡サヽレハトテ村長ニ命シタル行旅病人取扱手續ニ違背シタル廉アリト爲シ村長ニ屬スル責任ヲシテ直チニ之ヲ書記ニ負ハシムルヲ得ス（廿八年一二五七號同年十一月八日）

第二百七十四條　兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲ササル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條　官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二節　官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條　官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條　人ノ身體財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢事警察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲ササル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十八條　逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

◉刑法第二百七十八條ノ逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則云々トアルハ逮捕スヘキ職ニ在ル官吏カ其職務ヲ執行スルニ當リテ爲シタル場合ヲ示スモノトス從テ巡査カ犯罪アリタルヲ知リ犯人ト認メタル住所ニ出張シ非現行犯タルニモ拘ラス令狀ヲ待タスシテ逮捕シタル所爲ハ同條ニ該當スルモノトス（三十四年）

第二百七十九條　司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十條　前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻

ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本反ニ照シテ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

◎刑法第二百八十條ニ前二條ニ記載シタル官吏云々囚人ニ對シトアルハ同法第二百七十八條ノ官吏カ囚人ニ對スル場合ヲ規定シタルモノナルヲ以テ此場合ノ囚人中ニハ同法ニ該當スル被逮捕者若ハ被監禁者ヲモ包含スルモノトス

第二百八十一條　水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

第二百八十二條　裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十三條　裁判官警察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

第二百八十四條　官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十五條　裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十六條　裁判官檢事警察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓度上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

◎賄賂罪ニ就テノ賄賂物品ハ犯罪ヲ構成スル物体ニシテ犯罪ニ依リテ得タルモノ又ハ犯罪ノ用ニ供シタルモノト爲スヲ得サレハ之ヲ沒收シタルハ不法ナリ（二十三年一七一七號同年十二月二十三日）

◎準官吏ニシテ官衙ニ屬スル藥餌開業試驗委員ノ職務ニ服シ賄賂收受等ノ所爲アル上ハ刑法二百八十四條ノ制裁ヲ免レス（二十三年二八七號二十四年一月二十三日）

◎刑法二百八十七條ニ所謂曲庇陷害トハ刑事ノ裁判ニ關シテ被告人ヲ曲庇陷害シタル場合ヲ規定シタルモノトス（二十五年一二一五號同年十一月二十四日）

◎押丁ト雖モ明治二十二年內務省訓令二十九號ニ依リ監房警守ノ職ニ當リ相當官ノ代理ヲ爲ス場合ニ於テハ其職務上責任ヲ有スル官吏ナリトス而シテ右押丁カ收監人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シタル時ハ刑法二百八十四條ニ該當スル犯罪ナリトス（二十六年一二六七號同年十一月三十日）

◎賄賂約束ノ當時ニ金額確定セサルモ履行ノ時ニ至リ定ルヲ得ルモノナレハ當事者間ニ確定セサルモ約束ナシトスルヲ得ス（二十七年八七〇號同年十一月六日）

◎受負工事ハ營利的事業ナルカ故ニ村タル公法人ノ事業ト爲スヲ得スト論スレトモ其所謂營利的事業トハ地元村公共ノ利益ハ勿論村民各自ノ利益ヲ指稱スルニ過キス又受負工事ハ營利的事業ナリトスルモ何ニカ故ニ營利的事業ハ村ノ公共的事業トナルヘカラサル乎只營利的ニ非サルモノヲ以テ常トスト云フニ過キス町村制ノ明文ニ依リテ其精神ニ照シ觀レハ村ハ行政機關ノ一法人ナルカ故ニ其弊ナカラシメンカ爲メ行政官廳ノ監督ヲ受ケシムルノミ故ニ本條ニ受負工事ハ事實村ノ公共事務ニシテ村長モ亦其資格ヲ以テ事務執行ニ當ルヘキヲ當然トス故ニ村民總代ノ資格ニ於テ受負タルモノナレハ賄賂ヲ收受シタリトスルモ法律上官吏ノ收賄ニ非ストセシハ不法ナリ（二十八年一六四五號同年三月十八日）

◎官吏收賄罪ハ官吏カ人ノ囑託ヲ受ケ之ニ應スル報酬トシテ金品ヲ收受シ若クハ其契約ヲ爲スニ因テ成立ス故ニ其囑託ヲ受クルニ當リ收受若クハ契約ヲ爲サヽルモノハ事後ニ至リ金品贈與ヲ受クルコトアルモ刑法上罪トシテ論スヘキモノニ非ス（二十八年一三六三號同年十二月二日）

◎刑法二百八十五條ハ民事ノ裁判ニ關シ其裁判ノ前後ニ論ナク賂賄ヲ收受シタル者ハ勿論未タ之ヲ收受セサルモ聽許ノ事實アルモノハ皆之ヲ罰スルノ法意ナリ（二十八年四二五號二十九年一月十七日）

◎刑法二百八十五條ニ所謂民事ノ裁判ニハ商事ノ裁判ヲモ包含ス（同上）

◎民事裁判官ニシテ自己ノ擔當スヘキ訴訟ヲ目的トシ當事者ノ囑託ヲ受ル金品ヲ收受シ又ハ之ヲ收受スル事ヲ聽許シタル所爲ハ收賄罪ナリトス而シテ其訴訟ノ繫屬中ナルト否トハ固ヨリ問フ所ニ非ス（二十九年一二一〇號同年十二月二十一日）

◎市參事會ヨリ市ノ水道事務員又ハ本道工手ニ任用セラレ其職務ニ從事スル者ハ市ノ附屬吏員ナリ（三十年七七號同年二月十五日）

◎從テ其執務上ノ行爲ハ市吏員ノ行爲トシテ職責ヲ負フヘキハ當然ナレハ職務ニ關シ囑託ニ應シ報酬ヲ受ケ又ハ約シタル所爲ハ刑法二百八十四條第一項ノ制裁ハ免カレス（同上）

◎官吏其職務ニ關スル事項ノ囑託ニ應シ曾テ自ラ差入置タル債務證書ノ返付ヲ受タル所爲ハ賄賂收受罪ヲ構成ス而シテ證書面ノ金額ハ之ヲ追徵スヘキモノトス（三十年一〇大三號同年十二月二十一日）

◎刑法二百八十四條ニ官吏人ノ囑託ヲ受ケ云々トアルハ純然タル官吏ヲ指シタルモノニシテ高等小學校長等ノ如キ官吏ト同一ノ待遇ヲ受クル者ハ包含セス（三十一年一六號同年三月三日）

◎官吏ハ其職務ニ關スルト特ニ命セラレタル事務ニ關スルトニ論ナク人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ聽許シタルハ即チ刑法二百八十四條ノ犯罪ヲ構成ス（同上）

◎尋常師範學校教諭兼舍監ニシテ小學校教科書審査會委員カ囑託ヲ受ケ金圓ヲ收受セハ

收賄罪構成ス（同上）

◎刑事訴訟法第四十七條ノ規定ニ依リ司法警察ノ職務ヲ執ルモノト雖トモ其職務執行中ハ刑法第二百八十六條ニ所謂警察官吏ナリトス從テ其職務執行ニ際シ賄賂ヲ聽許シタルトキハ同條ノ收賄罪ヲ構成ス（三十四年れ四七六號同四月十六日）

◎刑法第二百八十六條ノ所謂刑事裁判ニ關シ云々トハ裁判官檢事又ハ司法警察官ニシテ刑事被告人ノ犯罪ノ有無ヲ斷定スル公判ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタルモノヽミニ限ルニアラス刑事被告事件ヲ終局スル公判ノ裁判ハ勿論犯罪ノ搜査逮捕起訴豫審等刑事被告事件ニ關スル司法事務ハ犯罪ノ訴追處罰ヲ目的トシ刑事被告事件ノ裁判ノ準備ナレハ之ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ聽許シタル所爲モ亦タ本條ニ包含スルモノトス（三十五年七月十五日）

第二百八十七條　裁判官檢事警察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十八條　前數條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費消シタル者ハ其價ヲ追徵ス

第三節　官吏財產ニ對スル罪

第二百八十九條　官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ增減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

◎町村制中收入役事故アリテ欠勤シタル場合ニハ書記ヲシテ臨時代理セシムルコトヲ得ルノ明文ナシト雖モ收入役欠勤スル場合ニハ之カ代理ヲ爲スコトヲ法律上禁セサル限リハ町村ノ慣行ニ依リ町村長ハ其書記ヲシテ代理セシメ書記亦公然收入役ノ職務ヲ執行スル以上ハ公金ヲ窃取ノ責ハ收入役ノ資格ヲ以テ論スヘキモノトス故ニ監守盜ノ責ハ免レス（二十五年七七二號同年十月二十日）

◎町村制七十一條ハ收入役ハ町村ノ收入支拂ヲ掌ルニ止マリ町村有ノ財產ヲ管理スルハ町村長ノ職ニ屬ス故ニ監守ノ責アリトシテ之ヲ罰スルニハ特ニ其理由ヲ示ササルヘカラス（二十五年一〇一二號同年十二月一日）

◎監守盜ハ普通ノ窃盜ノ如ク他人ノ金品ヲ盜取シテ組成スルモノトハ異ナリテ官吏職務上ニ付テノ窃盜ヲ特定シタルモノナリ故ニ官吏カ其職務上占有スル金品ヲ窃取スルモ尙刑法二百八十九條ノ制裁ヲ免レス（二十六年五一二號同年五月二十二日）

◎刑法二百八十九條ノ犯罪ハ官吏不正ノ所爲ヲ以テ擅ニ自ラ監守スル所ノ物件ヲ他人ノ占有ニ歸セシメタル時ハ自ラ窃取セスト雖モ成立スヘキモノトス（廿六年七五〇號同年六月廿二日）

◎通常人カ官吏ト通牒シテ其官吏ノ監守スル處ノ金ヲ窃取スルモ通常窃盜ヲ以テ之ヲ論ス（廿六年一二六〇號同年十一月廿七日）

◎執達吏ハ官吏ニシテ其代理者モ亦執達吏ノ事務取扱中ニ於テハ官吏ト同一ノ資格ヲ有スト雖モ事務取扱中罰金科料ヲ徵料シ保管中之ヲ窃取シタル時ハ刑法二百八十九條一項ニ該當ス（廿七年一三二一號同年三月十二日）

◎職務上監守スル金圓ヲ窃ニ取出シ其債務ノ辨償ニ消費シタル上ハ他日該金辯償ノ意思ノ所爲ハ刑法二百八十九條一項ニ該當ス（廿七年一三二一號同年三月十二日）

◎職務上監守スル金圓ヲ窃ニ取出シタル方法アリトスルモ監守盜罪タルヲ妨ケス故ニ被告カ職務上監守スル金圓ヲ取出シタル

上ハ既ニ犯罪成立后ニ付爾后辯償スルモ犯罪構成ニ毫モ關係ヲ及サス（廿七年二八四號同年三月廿九日）

◎教唆ニ因テ被教唆者カ官林ヲ盜伐シ通常ノ窃盜罪ヲ以テ處斷セラレタルハ只其監守者タル身分ナキカ爲メナリ其身分アル教唆者ニシテ其監守物件ヲ窃取スルノ教唆ヲ爲シタル罪質ヲ變スヘキモノニ非ス故ニ刑法百五條二百八十九條ヲ適用シテ教唆者ヲ處斷シタルハ相當ナリ（二十八年一九一號同年二十六日）

◎法律命令ニ依リ町村長ノ處理ニ屬スヘキ金圓ト雖モ凡ソ町村ノ收支ニ依ルモノハ總テ收入役ニ於テ監守ノ責任ヲ有スヘキモノナレハ之ヲ窃取シタル所爲ハ監守盜ヲ以テ論ス而シテ貧民救助金ノ如キハ當然收入役ノ職務上監守スヘキモノナレハ之ヲ窃取シタル所爲ハ監守盜ヲ以テ論ス（廿八年七五七號同年十月三日）

◎村役場ノ書記ハ收入役ヲ代理スルノ資格ヲ有ス從テ其代理トシテ徴收シタル組稅金ヲ窃取シタル所爲ハ監守盜ヲ以テ之ヲ論ス（廿八年一〇三五號同年十月十五日）

◎巡査駐在所ヘ遺失物拾得ノ屆出ヲ爲シタルモノアル時ハ之ヲ領收シテ警察署等ヘ廻送スヘキモノトス而シテ其未タ廻送ニ至ラサル間ハ當然巡査ノ保管スヘキモノトス從テ之ヲ窃取シタル所爲ハ監守盜ヲ以テ論ス（廿八年一一七一號同年十一月七日）

◎村長及收入役カ臨時寄託ヲ受ケタル金員ハ其性質ヲ明カニセスシテ直チニ法律上監守ノ責任アリト斷定スルヲ得ス故ニ村長及收入役ノ監守盜罪ヲ斷スルニ當リ其金員ノ法律上監守ノ責任ヲ有スルヤ否ノ事實ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アルモノトス（廿八年一四七九號廿九年一月十四日）

◎郵便電信局ノ雇員局長代理トシテ執務中爲替金ヲ窃取シタル所爲ハ監守盜ヲ以テ論ス（廿八年一三七一號廿九年一月十六日）

◎官吏其管掌ニ係ル簿冊ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタル所爲ハ刑法二百八十九條二項ニ所謂官ノ簿冊ヲ增減シタルモノトス而シテ該簿冊ハ常ニ官衙ニ備ヘアルモノナレハ其記載ヲ爲スト同時ニ僞造行使罪ヲ構成ス（同上）

◎森林官吏其監守ニ係ル官林ノ樹木ヲ伐採シタル所爲ハ監守盜ヲ以テ論ス（廿八年一四四七號廿九年一月廿日）

◎檢事局書記領置品ニ關スル事務ヲ擔任シ其領置ニ係ル金圓ヲ所有主ニ還シ又ハ之ヲ他ノ法廷ニ屬託スル爲メ例規ニ從ヒ會計部ヨリ引出シ自己ノ手裡ニ保管シナカラ費消シタル所爲ハ監守盜罪ヲ成立ス而シテ其金圓モ會計部ヨリ引出シタル所爲ハ檢事ノ職務ヲ補佐シタルニ非スシテ書記トシテ獨立ノ職務ヲ執行シタルモノトス（二十九年四一八號同年五月四日）

◎監守盜罪ノ成立ニハ官吏又ハ公吏ニシテ法律上監守ノ責任アルヲ要ス而シテ町村長又ハ助役ハ郡長ノ許可ヲ經スシテ收入役ヲ兼掌スルヲ得ス而シテ收入役ノ欠員ニ際シ助役ニ於テ收入役ノ事務取扱中金錢ヲ窃取シタル所爲ニ對シ其果シテ適法ノ兼掌ナリシヤ否ヤノ事實ヲ判示セス輙ク監守盜罪ヲ以テ處斷シタルハ理由不備ノ方法アリ（廿九年七一一號同年八月四日）

◎刑法二百八十九條ニ所謂監守ナル語ニハ占有ニモ包含ス從テ執達吏ニシテ其職務上ノ占有ニ係ル金員ヲ窃取シタル所爲アルトキハ監守盜罪ヲ成立ス（廿九年八八五號同年十月十六日）

◎協議費ハ一村ノ公金ニシテ村稅ナリ收入役ニ於テ監守ノ責任ヲ負フ（廿九年一二一三號同年十二月十八日）

◎村役場收入役村稅追加賦加課ノ令狀ヲ僞造シ以テ金圓ヲ騙取シタル所爲ハ刑法二百九十條ノ犯罪ニ非スシテ同法三百九十條ノ犯罪トリトス（廿九年一三一一號三十年一月廿二日）

◎郡書記ハ郡長ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事スヘキモノニシテ金錢出納ノ事務ハ庶務ノ一部ニ屬ス從テ其擔當ヲ命セラレタル事務ニ對スル金錢ニ對シテハ法律上監守ノ責任ヲ有ス（三十年一七一號同年三月廿二日）

◎執達吏ノ旅費手數料ハ執達吏手數料規則ニ依リ執達吏自ラ收入スヘキモノニシテ職務上監守スヘキモノニ非ス（三十年二五一號同年四月五日）

◎郵便局雇員ニシテ小包郵便ニ關スル事務ヲ擔當シ金員ヲ封入セル小包郵便物ヲ受取リ其封包ヲ開披シ金員ヲ窃取シタル時ハ其所爲ハ監守盜ナリトス（三十年四四六號同年六月一日）

◎刑法二百八十九條其二項ニハ因テ官ノ文書簿冊ヲ增減變換シタルトキハ二百五條ノ例ニ照シ處斷ストアリ此法意ニ依ルトキハ監守盜罪ト官ノ文書簿冊ヲ增減變換シタル罪トハ別罪ナルコト明カナリ本件ノ如キ監守盜ヲ犯シ其犯跡ヲ蔽ハンカ爲メ簿冊ヲ變造シタレハトテ監守盜ノ官文書變造罪ニ吸收セラルヘキモノニ非ス故ニ二罪トシタルハ相當ナリ（三十年七六二號同年十月十四日）

◎町村組合ノ管理者ニシテ其監守ニ係ル金員有價證券等ヲ窃取シタルトキハ監守監罪ヲ構成ス（三十年七四五號同年十一月十六日）

◎登記官吏ニシテ登記名刺ニ貼附シタル印紙ニ消印ナキヲ奇貨トシテ之ヲ窃取シタル所爲ハ監守盜罪ヲ構成ス

◎官文毀棄ノ所爲ニシテ監守盜ノ所爲ト相關聯スルトキハ刑法第二百八十九條第二項ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス（三十二年五五一號同年五月二十二日）

◎水害豫防費ニ付テハ水利組合條例第三十條後段ニ依リ町村長管理者タル場合ニ於テ其收入役ハ監守ノ責任アリ（三十二年三九七號同年四月十四日）

◎金錢ヲ監守スヘキ法令上ノ職責ナキ官吏ニシテ官金ヲ費消スルモ監守盜ヲ構成セス（三十一年一〇四〇號三十二年一月三十一日）

◎村長ニシテ窮民ニ支給スル備荒儲蓄金ヲ保管スルハ其支給ノ施行權アル縣知事ヨリ郡長ニ指令シ村長ハ其上司タル郡長ノ指揮ニ依リ支給ノコトニ從事スルモノナレハ村長ハ即チ町村制第六十八條第九項ニ規定スル處ノ事務ヲ處理スルモノト謂ハサル可カラス故ニ保管ノ責アルヲ以テ救助金ヲ受領シ之ヲ消費セハ監守盜罪ヲ成ス

◎監守盜罪ハ官吏自ラ監守スヘキ責任アル金穀物件ヲ自己ノ用途ニ供スル爲メ之ヲ他ニ遷移シ若クハ之ヲ費消スルニ因テ構成ス

◎村長ニシテ郡長ノ指令ニ依リ徵兵慰勞金ノ保管中擅ニ之ヲ消費シタル所爲ハ監守盜罪ヲ構成ス

◎村長ニシテ徵收シタル縣稅ヲ竊取シタルトキハ村ハ之ヲ辨償スルノ義務アルモノトス（三十二年四一六號同年五月十五日）

◎村役場ノ雇ニシテ村長ノ命ヲ受ケ監守中ノ金圓ヲ盜取シタル所爲ハ監守盜罪ヲ構成ス（三十一年第八〇六號三十一年十二月五日）

◎監守者ニ非サレハ監守盜罪ヲ構成セス

◎官吏ニ非サル者カ官吏ト通謀シテ監守盜ノ所爲ニ加功スルコトアルモ監守盜ヲ以テ論スルコトヲ得ス（同上）

◎町村ノ收入役ハ府縣稅領收ノ職務ヲ有ス從テ其領收シタル稅金ヲ監守スル職責アルヲ以テ之ヲ窃取セハ監守盜罪ヲ構成ス（三十三年れ八三五號同九月十七日）

◎郵便物ニ關スル監守盜ハ刑法第二百八十九條ニ依リ處斷スヘキモノニシテ郵便法ヲ以テ處斷スヘキモノニ非ス（三十三年一六二九號三十四年二月七日）

◎監守盜ヲ遂行シタル者其犯跡掩藏セントシテ官文書ヲ毀棄シタル所爲ハ監守盜ヲ爲スニ因リ官文書ヲ毀棄シタルモノニ非ス（三十四年れ一一四五號同十月十一日）

◎官署ノ雇員ニシテ官吏ノ事務取扱中其監守スル金圓ヲ窃取シタルトキハ監守盜罪ヲ構成ス（三十三年一五五〇號同二月二十五日）

◎監守盜ヲ構成スルニ官吏ニシテ法令上監守ノ職責アルヲ必要トスルヲ以テ特ニ監守ノ職責アルコトヲ明示サセルヘカラス（三十三年れ八六四號同八月二十一日）

◎監守ニアラサレハ監守盜ヲ構成セサルカ故非官吏者カ官吏ト通謀シテ監守盜ヲ所爲ニ加功スルコトアルモ監守盜ヲ以テ論斷スルコトヲ得ス（三十二年一五二五號三十三年一月十八日）

◎犯罪遂行ノ手段ト雖トモ一箇ノ犯罪ヲ構成スル場合ニハ特別ノ規定ナキ限リハ別罪ヲ構成ス故ニ監守盜ヲ犯スニ因テ私書僞造罪行使シタル場合ニハ二罪ヲ構成スルモノトス（三十三年八三五號同九月十七日）

◎郵便條例第二百三十四條並ニ郵便法第五十一ハ郵便物ニ對シ刑法ニ於テ處斷スル監守盜ヲ包含セサルモノトス（三十四年）

◎監守盜ヲ處斷スルハ官吏其職務ノ本分ニ背キタルヲ重要ナル理由トス從テ被告カ其物件ヲ所持シ居ルヤ否ヤハ犯罪ノ構成ニ關係ナキモノトス（三十四年）

第二百九十條　租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百九十一條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三編　身體財產ニ對スル重罪輕罪

第一章　身體ニ對スル罪

第一節　謀殺故殺ノ罪

第二百九十二條　豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス

◎同時ニ數人ヲ謀殺スルモ一人毎ニ一罪ヲ組成ス（二十六年六七一號同年七月十七日）

◎凡ソ犯罪ノ既遂未遂ハ其目的ヲ達シタルト否トニ依リ區別スヘキモノニシテ其結果發生ノ時期ノ如キハ固ヨリ問フ所ニ非ス故ニ殺意ヲ以テ致死ノ原因ヲ與ヘ豫期シタル結果ヲ生スレハ謀殺既遂罪ナリ（同上）

◎二人共謀シテ一体トナリ犯行ニ着手シタル以上ハ其一人假令手ヲ下ササルモ二人同一ノ刑責ニ任セサルヘカラス（三十年三六四號同年五月六日）

◎偶然殺意ヲ生シタルニ非スシテ豫メ決意シテ實行スルトキハ謀殺罪ヲ構成スルモノニシテ其實行ノ手段方法並ニ場所ノ選定等ノ事實アルヲ必要トセス（三十三年れ四五八號同四月三十日）

◎人ヲ謀殺スルニ際シ毆打絕息ニ致シタル所爲ハ謀殺行爲ノ繼續スルヲ以テ毆打ノ所爲

ニ對シテハ別罪ヲ構成セス（三十四年れ一〇五四號同年十月十日）

第二百九十三條　毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

◎殺意ヲ以テ人ヲ殺スニ足ルヘキ劇藥ヲ服用セシメタルトキハ假令少量ノ爲メ死ニ至ラサルモ仍ホ刑法百十二條ノ所謂意外ノ升錯ニ因リ遂ケサリシモノニシテ毒殺未遂罪ヲ成立ス（三十年五一四號同年六月十八日）

◎數人共謀ノ上同一ノ決意ヲ以テ同時同所ニ於テ他ノ數人ニ對シ殺害ヲ加ヘタル時ハ各被害者ニ對シ各別ノ犯罪ヲ構成スヘキモノニシテ一罪トシテ處斷スヘキモノニ非ス（二十九年六四一號同年六月二十九日）

◎人ヲ毒殺スル爲メ毒藥ヲ服セシメタル上ハ其多寡若クハ効果ハ論スヘキニ非ス（廿四年四五五號二十五年二月一日）

◎毒藥ヲ服セシメタルモ煩悶痛苦ノ狀ヲ見ルニ忍ス良心發動シ解毒ノ効アリト信シ南天燭葉ヲ與ヘ漸々健康ニ復シタル所爲ハ毒殺未遂ニ非ス應ニ刑法三百七條三百二條三百一條ニ從テ處斷スヘシ（二十四年四五五號同五年二月一日）

第二百九十四條　故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

◎他ノ暴行ヲ受ケ危害既ニ去リタル後殺害ノ決心ヲ爲シ拔刀ヲ以テ之ニ斬付ケ即死セシメタル所爲ハ故殺ニシテ毆打致死若クハ正當防衛ニ非ス（廿六年七九五號同年十月十二日）

◎甲者カ乙者ト拳ヲ以テ互ニ打合ヒ乙者カ氣絕シ其場ニ倒レタルヲ甲者カ之ヲ古井中ニ投入シタルハ乙者既ニ絕命セシト誤信シタルモノト推知シ得ヘキニ止マルモノナレハ其所爲ヲ以テ直チニ故殺犯ト論スルヲ得ス又乙者ヲ助ケ置ク時ハ甲者自身ノ命ヲ全フスルコト能ハスト思慮シ寧ロ之ヲ殺害シ後難ヲ免レント決意シ直ニ其事ヲ行ヒタルハ故殺犯ニシテ其間多少ノ手段ヲ施シタルモ謀殺罪組成ノ要素タル熟慮計畫ノ豫謀アルニ非サレハ之ヲ以テ謀殺罪ト云フヲ得ス（廿六年八四五號十月廿六日）

◎懷胎中其產出兒ヲ害スルコトヲ豫謀シ分娩後直チニ之ヲ殺容シタル所爲ハ謀殺ニ非スシテ故殺ナリ從テ其豫謀ヲ敎唆シタル所爲ハ謀殺敎殺ノ罪ヲ構成ス（廿九年九八八號三十年三月五日）

◎謀殺罪ハ社會ニ現出シタル一人毎ニ對シテ豫謀殺害ノ行爲アリタルヲ要ス胎內ニアリテ社會ニ出生セサル子ノ如キハ完全ノ一個人ト稱スヘカラス故ニ出生前殺害センコトヲ謀ルモ豫謀ト爲シ難ク乃チ出產ノ當時殺意ヲ生シタルモノト看做サヽルヘカラス故ニ之ヲ殺スハ故殺罪ヲ組成ス（廿五年三五九號同年五月五日）

第二百九十五條　支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十六條　重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ已ニ犯シテ其罪ヲ覺カルル爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條　人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十八條　謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

◎甲者乙者ヲ殺サント謀リ毒藥ヲ酒中ニ投入シタルニ乙丙諸人誤テ之ヲ飲用シ中毒症ヲ發シタルモ飲量少キ爲メ死ニ至ラサリシ事實ハ刑法第二百九十八條ニ所謂謀殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル罪ノ未遂犯ナリトス而シテ其主タル被害者ナル乙ノ併セテ害ヲ蒙リタルト否トハ毫モ同條ノ適用ニ影響ヲ及サス（廿八年一二九八號十一月十五日）

◎甲ハ乙ヲ殺害スル意思ヲ以テ發砲シタルニ乙ハ微傷ヲ負ヒタルニ止マリ却テ乙ノ背後ニ在リシ丙ヲ銃殺シタル時ハ誤殺ヲ以テ論スヘキモノトス（三十年一〇一二號同年十二月三日）

第二節　毆打創傷ノ罪

第二百九十九條　人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

◎毆打創傷事件ニ付疾病休業ノ時間ヲ判定スルハ現ニ其ノ創傷ノ結果ニ依ルヘキモノニシテ豫斷スヘキモノ非ス（廿九年四二號同年五月十一日）

◎毆打ニ關スル犯罪ハ其結果ニ依テ刑責ヲ定ムヘキモノナレハ致死ノ場合ニアリテハ單ニ毆打ヲ敎唆シタル者ト雖モ仍ホ毆打致死ノ敎唆者タル責任ヲ免レス（廿九年四七五號同年五月十五日）

◎屍人ヲ懲戒スル目的ヲ以テ風力强ク且降雲ノ際裸体ト爲シ之ヲ屋外ニ立タシメ置キ遂ニ之ヲ凍死セシメタル所爲ハ暴行ヲ加ヘ因テ死ニ致シタルヲ以テ毆打致死罪ヲ構成ス（三十二年二八四號同年十一月十四日）

◎毆打致死罪ハ毆打創傷ノ當時直チニ成立ス然レトモ必シモ之ニ因テ直ニ人ヲ死ニ致スコトヲ要スルモノニアラスシテ創傷ト死亡トノ間若干日數ヲ經過スルコトアルモ犯罪ノ成否ニハ影響スルモノニアラス（三十三年れ一四一七號同年十一月二十九日）

第三百條　人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘廢シ癈疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

◎人ノ耳ヲ毆打シ其鼓膜ヲ損傷シ聽力ノ大部分ヲ失ハシメタル所爲ハ即チ人ヲ毆打創傷シ癈疾ニ至ラシメタルモノトス（三十四年れ五八七號五月二十四日）

第三百一條　人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

◎打擊擽歷及押伏セノ所爲ハ共ニ刑法ニ所謂毆打ナリ（三十年一一四號同年二月十八日）

◎判決書ニ兩腕ノ幾部及ヒ手指ハ其機能ヲ失フニ至リタルモノナリトアルハ兩腕及手指ヲ癈疾ニ致シタル事實ヲ明示シタルモノトス（三十年三八四號同年五月十三日）

◎二人以上共ニ人ヲ毆打スルモ其創傷ニシテ等シキ時ハ刑法三百五條ヲ適用セス（二十八年八二三號同年十一月一日）

◎人ヲ毆打スル時ハ死傷疾病等ノ結果ヲ生スルハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ故ニ毆打ヲ敎唆スルモ創傷ハ關スル所ニ非スト云ヲ得ス苟モ毆打ヲ敎唆シタル以上ハ其結果タル創傷ノ責ヲ免ルヽコトヲ得ス（二十五年三七八號同年五月十二日）

◎毆打創傷罪ハ假令同時ニ同一ノ意思ニ依リテ犯シタル時ト雖モ尙被害者ノ數ニ應シ毆罪ヲ構成スルモノトス（三十二年五九四號同年十月十九日）

◎刑法第三百一條第二項ニ所謂休業トハ被害者ノ職業ニ付テ之ヲ謂フモノニシテ普通日常ノ動作ニ付テ謂フモノニ非ス（三十三年れ一六五九號三十四年二月一日）

◎何人ト雖トモ創傷ヲ受ケ疾病ニ罹リタルトキハ相當ノ治療ヲ加フヘキハ當然ナリ從テ治療宜シキヲ失シ爲メニ重患ニ陷リタレハトテ其責任ヲ加害者ニ負ハシムルヲ得ス（三十四年れ一八五號同四月五日）

◎强盜犯ヲ毆打創傷シタル場合ト雖トモ尙ホ毆打創傷ノ犯罪ヲ構成スルハ妨ケナシ從テ强盜犯人ナリト誤信シテ他人ヲ毆打創傷シタル場合ハ罪トナルヘキ事實ヲ知ラサルモノトシテ其刑責ヲ免カル、コトヲ得ス（三十五年四月七日）

◎創傷ハ假令偶然ニ生スルニモセヨ其創傷ノ依テ生セシ毆打ニシテ故意ニ出テタルモノナル以上ハ毆打創傷罪構成ノ要素ニ欠クル所ナシ（三十五年十二月四日）

◎毆打創傷罪ハ結果ニ依テ刑責ヲ定ムルモノトス從テ一ノ繼續シタル意思ニ基キ其行爲ヲ繼續シタル場合ト雖モ仍ホ被害者ノ數ニ應シテ各罪ヲ構成スルモノトス（三十四年れ一〇六號同年九月十七日）

第三百二條　豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癒篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第三百三條　重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ罪シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條　毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ニ科ス

第三百五條　二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

◎共毆シテ傷ヲ爲スノ輕重ヲ知ル能ハストハ二人以上共毆シテ其負ハシメタル創傷ノ分明ナラサル場合ヲ總稱ス故ニ必スシモ共毆人ノ員數ニ相當スル創傷アル場合ノミヲ意味スルニ非ス（二十九年一〇三號同年十一月十二日）

◎氏名知レサル者ト共ニ毆打負傷セシメタル事實ニ刑法三百五條ヲ適用シタルハ相當ナリ（二十七年七七〇號同年十月二日）

◎毆打ノ場合ニ於テ一箇ノ創傷ナリト雖モ二人以上共毆シテ共犯中何人カ負傷セシメタルヤ否ヤヲ知ルコト能ハサルトキハ成傷ノ輕重知ルコト能ハサルモノトス（三十三年れ一五三五號同年十二月二十日）

第三百六條　二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幇助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百七條　健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

第三百八條　人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

第三節　殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第三百九條　自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

◎殺傷ニ關シ刑法第三百九條ヲ適用センニハ爲害者ガ怒ヲ發シタル原因ノ如何ハ其罪責

ヲ宥恕スルノ有無ニ關スル重要ナル事實ニシテ其原因ヲ明示セスシテ同條ヲ適用シタル判決ハ理由不備ノ裁判タルヲ免カレス（三十五年十月二十日）

第三百十條　毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルコト能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第三百十一條　本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十二條　晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入リ若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十三條　前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本條ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條　身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムコトヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

◎祖父母父母ニ對スル殺傷罪ハ假令正當防衛ノ所爲ナルモ刑法三百十四條ヲ適用スルヲ得ス（二十八年二六號同年一月二十二日）

第三百十五條　左ノ諸件ニ於テ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス

一　財產ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時

二　盜犯ヲ防止シ又ハ盜贓ヲ取還スルニ出タル時

三　夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入リ若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

◎身体財產ヲ防衛スル爲メ止ムコトヲ得スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘタル場合ニ於テ其止ムコトヲ得ルヤ否ヤハ被告人ノ意思ニ依テ決定スヘキモノニ非スシテ事實裁判所ノ職權ニ屬スル事項ナリトス（三十三年れ第一三七七號同年三月五日）

第三百十六條　身體財產ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムコトヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

◎刑法三百十六條ニ身體財產ヲ防衛スルニ出ツルト雖モ云々ト汎言シテ自己ト他人トヲ分別セサルハ同條ハ自己ノ爲メニスルハ勿論他人ノ爲メニ防衛スル場合ヲモ包含スル律意ト解釋スルヲ當然ナリトス三百十五條モ亦然リ三百十四條ニ自己ノ爲ニシ他人ノ爲メニスルヲ分タストアリテ三百十五條三百十六條ニ其文詞ナキニ依據シテ此二個條ハ自己ノミノ財產ヲ防衛スル等ハ場合ヲ規定シタルモノナリト爲スハ解釋其當ヲ得タルモノニ非ス三百十四條ニ自己ノ爲ニシ他人ノ爲ニスルヲ分タストアルハ法意ヲ分明ナラシムル爲メ此條ニ於テ特ニ注意ヲ加ヘタルモノニシテ以下ノ二條ト區別スルノ趣旨ニ非ス（二十八年四五六號同年四月二十三日）

第四節　過失殺傷ノ罪

第三百十七條　疏虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓

以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

◎過失ニ因リ同時ニ數個ノ結果ヲ生スルモ數罪ニ非スシテ一罪ニ吸收セラレ即チ殺傷等アレハ殺人ノ一罪ヲ以テ論ス（三十年四七二號同年六月二十二日）

◎迷信ノ結果狐憑者ヲ毆打シテ死ニ至シタル所爲ハ過失殺ヲ以テ論ス（三十二年五九五號同年六月十三日）

◎甲者ニ狐ノ憑ルモノト妄信シ之ヲ退治スルノ意思ヲ以テ多量ノ硫黄ト線香トヲ爇シ甲者ノ顔ヲ火上ニ差付ケタル爲メ心臟ニ麻痺ヲ起シ遂ニ死ニ至ラシメタル所爲ハ過失致死罪トス（三十二年一三四五號同年十二月八日）

◎甲者乙者ノ依頼ニ應シ乙者足部ノ疹痛ヲ治療スルノ祈禱ヲ爲スト稱シ乙者ニ火傷セシメタル場合ニ於テ甲者ノ詐辯ヲ弄シタルニ基因スルモノナルヤ將タ乙者ノ祈禱ヲ迷信シタルニ基因スルモノナルヤ否ノ事實關係ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アリ（三十一年れ第三九九號同年五月五日宣告）

◎一定ノ人ヲ毆打スルノ目的ヲ以テ果シテ其人ヲ毆打創傷セシメタル場合ニ於テハ過失罪ヲ構成スヘキモノニアラス（三十二年れ一三七七號三十三年三月五日）

第三百十八條　過失ニ因テ人ヲ創傷シ癈篤疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條　過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節　自殺ニ關スル罪

第三百二十條　人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲ニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百二十一條　自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

◎凡ソ刑法ニ於テ殺ト稱スルハ所爲ノ結果直接ニ死ニ致ラシムルノ謂ヒニシテ他人ノ身體ニ對スルト否トニ依リ殺ノ意ヲ異ニスルモノニ非ス謀故殺ヲ爲サント欲シテ手ヲ下スモ被害者死ニ至ラサル時ハ其謀故殺ノ未遂タルコト論ヲ俟ス此殺ニシテ未遂ナレハ自ラ殺シテ死ニ至ラサル時モ亦自殺ノ未遂ニ非スシテ何ソヤ決シテ死ナクシテ殺アルコトナシ然ラハ刑法三百二十條ノ自殺セシメ又ハ自殺人ノ爲メト云フハ皆死ニ至リタル場合ニシテ死ニ至ラサル場合ニ於テハ自殺ハ未遂ニシテ自殺人ノ爲メ手ヲ下シタル所爲モ亦未遂ナレトモ右未遂ヲ罰スル法律ノ正條ナキカ故ニ無罪ヲ言渡スハ相當ナリ（二十六年八〇一號同年十月九日）

◎刑法三百二十一條ニ所謂自己ノ利ヲ圖リトハ單ニ財產上ノ利益ヲ圖リタル場合ノミヲ意味スルニ非ス苟モ自殺人ノ死亡カ自己ノ利益トナルカ爲メ自殺ヲ教唆シタル者ニ至リテモ本條ニ問擬スヘキモノトス（廿八年一四五六號廿九年一月二十日）

第六節　擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第三百二十二條　擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第三百二十三條　擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

◎原判決ハ發狂每ニ毆打シタルヲ認メナカラ其行爲ヲ意思ノ繼續シタルモノト爲シタル事實齟齬ノ認定ナリ監禁ノ意思發狂ヨリ鎮定迄ハ意思ハ所爲ノ繼續ト共ニ相連續スルト云フヲ得ルモ死ニ致ス迄意思ノ連續シタリト云ヲ得スト論スレトモ意思ノ繼續ト行爲ノ繼續トハ自ラ別物ナルヲ以テ二者必スシモ併存スヘキモノニ非ス故ニ事實ノ齟齬ナシ又意思繼續ノ認定ハ承審官ノ職權ニ屬ス（三十年七三九號同年十月八日）

◎巡査ハ現行犯人ヲ引致スルノ職權ヲ有スレトモ之ヲ制縛シテ毆打拷問ヲ爲スノ職權ヲ有セス因テ其所爲ニ對シテハ當然犯罪ヲ構成スルモノトス（三十四年）

第三百二十四條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從ツテ處斷ス

◎監禁制縛ニ因テ疾病死傷ニ致シタル場合ハ實体上ノ二罪ニ非サレハ刑法百條ヲ適用スヘキモノニ非スシテ同法三百二十四條ヲ適用スヘキモノトス（三十年九三號同年二月二十二日）

第三百二十五條　擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第七節　脅迫ノ罪

第三百二十六條　人ヲ殺サントト脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セントト脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘントト脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セントト脅迫シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十七條　兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百二十八條　親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第三百二十九條　此節ニ記載シタル者ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第八節　墮胎ノ罪

第三百三十條　懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

◎墮胎ヲ爲スノ情ヲ知テ房室ヲ給與シタル所爲ハ墮胎罪ノ從犯ナリ（三十二年三七〇號同年四月七日）

第三百三十一條　藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシタタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

◎刑法三百三十一條末段ニ所謂因テ婦女ヲ死ニ致シタル者トアルハ墮胎ノ既遂未遂ヲ問ハス墮胎ノ手段ニ着手シ爲メニ婦女ヲ死ニ致シタル者ヲ云フ（三十年七九二號同年十月二十一日）

第三百三十二條　醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタハ者ハ各一等ヲ加フ

第三百三十三條　懷胎ノ婦女ヲ威迫シ又ハ誆騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十四條　懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百三十五條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癈篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第九節　幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條　八歲ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

自ラ生活スルコト能ハサル老者疾病者ヲ遺棄シタル者同シ

◎幼者又ハ老疾者等ノ遺棄罪ハ保養ノ義務アル者ニ非サレハ之ヲ當行セス（二十九年一二一號同年十二月十五日）

第三百三十七條　八歲ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥闃無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十八條　給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ

第三百三十九條　幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癈疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第三百四十條　自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地內ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルコトヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ疾病ニ罹リ昏倒スルコトヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ

第十節　幼者ヲ略取誘拐スル罪

第三百四十一條　十二歲ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十二條　十二歲以上二十歲以下ニ滿サル幼者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十三條　略取誘拐シタル幼者ナルコトヲ知テ自己ノ家屬僕婢トナシ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第三百四十四條　前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ効ナシ

第三百四十五條　二十歲ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

◎刑法三百四十五條ハ父母又ハ後見人其他直接監護ニ任スル者ノ權下ニ在ル幼年者ヲ爲

行強迫ヲ以テ奪取リ又ハ詐欺甘誘ヲ以テ携去リテ之ヲ外國人ニ交付シタル場合ヲ罰スル可キモノトス（二十三年一八八號一月二十六日）

◉父母自ラ養育スル所ノ幼者ヲ外國人ニ交付シタル所爲ハ刑法三百四十五條ニ包含セス（同上）

第十一節　猥褻姦淫重婚ノ罪

第三百四十六條　十二歲ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歲以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十七條　十二歲ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十八條　十二歲以上ノ婦女ヲ姦シタルモノハ輕懲役ニ處ス

藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

第三百四十九條　十二歲ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ懲輕役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百五十條　前數條ニ記載シタル者ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條　前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ廢篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

◉凡ソ姦淫罪ニ於テ被害者又ハ其親族ノ告クルヲ待テ其罪ヲ論スル所以ノモノハ其事タル被害者ノ榮辱ニ關スルカ爲メニ外ナラス然レトモ其姦罪ヲ犯スニ依リ致傷等ノ如キ觸告ヲ要セサル他罪ヲ併發スルニ至リテハ其之ヲ論スルカ爲メ原因タル姦淫ノ事實ハ自ラ表白セラレサルヲ得ス故ニ其併發罪ト共ニ姦罪モ親告ヲ待タス論スヘキヲ相當トス（二十八年四九號同年一月二十一日）

◉强姦ノ罪ヲ犯シ依テ人ヲ傷クタル所爲ハ强姦ト毆打創傷トノ二所爲ヲ以テ一種特別ノ一罪ト爲シタルモノトス從テ强姦罪ニ於ケル告訴ノ拋棄ヲ以テ公訴ヲ消滅スルノ特例ハ本罪ニ適用スルヲ得ス（三十年一四〇號同年三月二日）

◉强姦等ヲ爲スニ因テ人ヲ創傷セシメタル所爲即チ刑法三百五十一條ハ親告罪ニ非ス從テ告訴ノ拋棄ヲ以テ公訴權ヲ消滅セス（二十九年二五五號同年三月二十三日）

◉强姦スルノ意思ヲ以テ人ヲ毆打創傷シタル上其目的ヲ達シタル所爲ハ强姦負傷罪ヲ構成スルモノトス（三十一年一二四八號三十一年二月七日）

◉强姦罪ニ犯シ因テ負傷セシメタルトキハ刑法第三百五十一條ニ該當スルノミナラス同條ノ罪ハ同法第三百五十條ニ規定シタル親告罪ノ以外ナルヲ以テ告訴ノ取下ケ又ハ告訴ナキニ拘ラス强姦負傷罪ヲ以テ論スヘキモノトス（三十二年五六號同年二月十六日）

◉强姦ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタル所爲ハ親告罪ヲ以テ論ス（三十四年）

第三百五十二條　十六歲ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十三條　有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者

亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナシ

◎姦通者ノ一方死去スト雖トモ殘リノ一人ハ其罪體ナレハ公訴權消滅セス乃チ姦通罪ハ證者相須テ一罪ヲ構成スト云フト雖モ其罪ノ成否ハ必スシモ二者ノ同存ヲ要セス（三十四年四七八號二十五年二月四日）

◎夫婦タル關係ヲ有スル以上ハ送籍ノ手續ナキモ仍ホ夫婦タルノ身分ヲ有ス從テ送籍ノ有無ハ有夫姦罪ノ成立ニ影響ナシ（三十九年一一四三號三十年二月二十六日）

第三百五十四條　配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ附加ス

◎戸籍ノ登記ナキモ慣習ニ依テ婚姻ノ儀式ヲ擧行シタル以上ハ夫婦ノ關係ヲ認ムルヲ得ヘシ從テ其離婚前重ネテ他ノ者ト結婚シタル所爲アル時ハ重婚罪ヲ構成ス（廿九年七五二號三十年二月廿六日）

◎登記ヲ以テ婚姻取姻ノ必要條件ト爲シタル慣習ナルヲ認メス（同上）

◎送籍ハ婚姻成立ノ要素ニ非ス故ニ送籍ノ手續ナキモ婚姻成立ス而シテ婚姻ノ成立シテ夫婦タルノ關係ヲ有スルヤ否ハ事實ノ認定ニ屬ス（廿九年一一三九號三十年三月五日）

第十二節　誣告罪及ヒ誹毀ノ罪

第三百五十五條　不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ記載シタル僞證ノ例ニ照シテ處斷ス

◎誣告罪ハ不實ノ告訴ヲ受クヘキ管轄官廳ニ爲スニ非ラサレハ構成セス

被告人其供述ニ付增減變更ヲ申立タルニ拘ラス豫審判事再訊問ヲナサスシテ豫審ヲ終結スルモ之レカ爲メ現ニ作成シタル調書ノ効力ニ影響ヲ及サス（三十二年七七五號同年七月七日）

◎告發人ノ捺印ナキ告發書ト雖モ無効ニ非ス從テ其告發シテ不實ニ涉ルトキハ誣告罪ヲ構成ス（三十二年二九二號同年三月二十三日）

◎誣告罪ハ告訴者本人ノ外他人ニ於テハ教唆者ヲ除キ有形上ノ正犯者アルヘキニ非ス故ニ告訴ノ實行者ニ非ス又教唆者ニモ非スシテ單ニ共謀シタリトノ事實ハ法律上罪トナラス（廿七年七二七號同年十月十八日）

◎誣告罪ハ他人ヲ陷害スル意思ヲ以テ官ニ誣告スル時ニ於テ成立ス從テ檢事ノ起訴スルト起訴前誣告者ヨリ取下ノ有無ハ犯罪ノ構成ニ關係ナシ（廿九年九四〇號同年九月廿八日）

◎誣告罪ハ不實ヲ以テ人ヲ誣告スルニ於テ直チニ成立スヘキモノニシテ其被告人ノ推問ヲ受ケタリヤ否ハ犯罪ノ成立ニ影響ナシ（三十年四三號二月四日）

◎誣告罪ハ告訴人ノ外他ニ實行正犯アルコトナシ而シテ告訴人ト共謀シ告訴狀ノ作成ニ加功シタル所爲ハ從犯ナリ（三十年三二二號同年四月二十三日）

◎誣告罪ハ告訴人ノ外他ニ實行正犯アルヿナシ而シテ告訴人ト共謀シ其代人トナリ告訴狀ヲ檢事ニ提出シタル所爲ハ從犯ナリ（三十年五九八號同年七月二日）

◎誣告罪ノ手段ハ必スシモ告訴告發ニ限ルモノニ非ス申告者ノ無記名ノ葉書ヲ以テスルモ其罪成立ス（三十年六二一號同年七月十六日）

◎被害者ニアラスシテ告訴狀ニ署名シタル者ハ告發人ト認ムヘキモノトス從テ其告發ノ事項ニシテ不實ニ涉ルトキハ誣告罪ヲ構成ス（三十二年二〇五號同年三月六日）

◎不實ノ事項ヲ記載シタル自首狀ヲ警察署ニ差出シテ他人ヲ誣告シタルトキハ其差出シタル書面ノ名稱如何ニ拘ハラス誣告罪ヲ構成ス（三十三年れ二一〇號同三月十二日）

◎一ノ告訴狀ヲ以テ二人ヲ誣告シタル所爲ハ二罪ヲ構成ス（三十三年れ一二四九號同十一月五日）

◎二人ヲ陷害センカ爲メ誣告シタルトキハ其各人ニ對シ各誣告罪ヲ構成ス因テ其告訴狀カ一通ナリトシテ之ヲ一所爲ト做スヲ得ス（三十四年れ八三號同六月十一日）

第三百五十六條　誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

◎本條ノ自首ノ特免ハ誣告事件ノ公訴提起前ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス（三一九、三六、判決）

第三百五十七條　誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二百二十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シ處斷ス

第三百五十八條　惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

一　公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二　書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

◎刑法三百五十八條ノ人ヲ誹毀シタル者ハ云々トアル人トハ唯有形人ヲ指スノミナラス無形人ヲモ包含スルモノトス故ニ各人ノ集合ヨリ團結スル所ノ會社等ヲ誹毀スルニ於テハ同條ノ制裁ヲ受ケサルヘカラス（二十四年四八九號二十五年二月四日）

◎誹毀罪ハ特定ノ人ニ對シ其名譽ヲ毀損スル所爲アルヲ以テ成立スルモノナレハ其被害者ノ誰某タルコトヲ認定スルニ足レル理由ヲ說明セサルヘカラス（二十六年一五〇號同年二月二十七日）

◎刑法三百五十八條ノ誹毀罪ハ被害者ノ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論スヘキモノナリ故ニ一審判決后告訴ノ取消願即チ告訴ノ拋棄アル時ハ公訴ハ既往ニ遡リ消滅ス從テ一審判決モ亦消滅ニ歸ス（二十六年三九八號同年五月八日）

◎凡テ誹毀ノ構成ハ故意アルヲ要ス故ニ新聞紙ノ發行人或ハ印刷人ニシテ編輯人ト共ニ新聞紙上ニ人ヲ誹毀シタル者ト爲スニハ其編輯人共謀ニ出テタルヤ奈何ヲ審究明示セサルヘカラス然ラサレハ理由不備ノ裁判ナリ（二十七年四六號同年一月十八日）

◎新聞紙上ノ官吏侮辱罪ノ構成ニ就テハ編輯人發行人等カ惡意アリテ侮辱シタルコトハ說示スレハ足ルモノニシテ被告等ノ共謀シタルコトハ此罪犯ノ構成ニ必要ナル條件ニ非ス（二十八年三五〇號同年四月二十六日聯合決例）

◎新聞紙ニ猥褻ノ記事ヲ掲載シ世人ヲシテ一見羞恥厭惡ノ感情ヲ起サシムル所爲ハ風俗擾亂ノ事項ヲ記載シタルモノトス（三十三年れ第一〇二號同年十月十日）

第三百五十九條　醫師藥商穩婆又ハ代言人辨護人代書人若クハ神官僧侶其身分者職業ニ於テルコトヲ得ス

第三百六十條　醫師藥商穩婆又ハ代言人辨護人代書人若クハ神官僧侶其身分者職業ニ於テ

委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此餘ニ在ラス

第三百六十一條　此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第十三節　祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條　子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

其自殺ニ關スル者ハ凡人ノ刑ニ照シテ二等ヲ加フ

第三百六十三條　子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但廢疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタルハ死刑ニ處ス

第三百六十四條　子孫其祖父ニ父母母對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ欠キタルニ依リ其罪ヲ構成スルモノニハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前ノ例ニ同シ

◎飲奉養罪ハ衣服ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ欠キタルニ依リ其罪ヲ構成スルモノニシテ飢餓ニ迫マリタル事實ノ有無ハ犯罪ノ構成ニ關係ナシ

養子ノ其養家ニ於ケル親族ノ例ハ實子ニ同シキヲ以テ刑法第三百六十四條ノ制裁ヲ受クルモノトス（三十二年七六七號同年七月三日）

第三百六十五條　祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルコトヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス

◎祖父母父母ニ對スル殺傷罪ハ假令正當防衛ノ所爲ナルモ刑法三百十四條ヲ適用スルヲ得ス（二十八年二十六號同年一月二十二日）

第二章　財產ニ對スル罪

第一節　竊盜ノ罪

第三百六十六條　人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ窃盜ノ罪ト爲シ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

◎窃盜罪ヲ數回ニ犯シタル場合ニアリテモ連續犯ト認メ一罪トシテ處斷シタル上ハ其一罪ヲ分割スヘカラス故ニ被告ハ初犯ノ時ニ在テハ丁年ニ至ラストスルモ刑法八十一條ヲ適用スルヲ得ス（二十六年一二五三號同年十一月二十七日）

◎委託ヲ受ケタル物品ヲ骨董ニ預リタル貯藏ノ鍵ヲ有スルモノ取出シ費消セハ費消罪ニ非スシテ窃盜罪トス（二十六年一二五三號同年十一月二十七日）

◎官吏ト通謀シテ其官吏ノ監守金ヲ窃取スルモ通常窃盜トス（二十六年一二六〇號二十六年十一月二十七日）

◎村役場中ニ遺忘シアル金品ヲ助役カ掠奪シタル所爲ハ遺失物拾得若クハ委託物費消ト論スルモ被告カ論據トスル處當時已ニ村長ハ退出シ被告ハ宿直中ナリトノ事實ハ原判決ノ認メサル處ナレハナリ故ニ窃盜ニシテ委託物費消ニ非ス（三十年一一三九號三十一年二月四日）

◎權利義務ヲ證明スヘキ證書ハ乃チ一個ノ財產ナリ從テ之ヲ以テ竊盜罪ノ目的物ト爲スコトヲ得（廿九年七〇九號同年七月廿四日）

◎遺失物藏匿罪ハ他人ノ遺失シタル物品ヲ拾得シテ隱匿スルニ依テ其罪ヲ構成ス是故ニ他人ノ竊取シテ藏匿シ置キタル金錢ナルコトヲ確知シテ竊取シタル所爲ハ遺失物藏匿罪ニ非スシテ竊盜罪ナリトス（廿九年一八四號同年九月十八日）

◎他人ノ拾得シタル遺失物ヲ竊取セシ所爲ハ竊盜罪ナリ（廿九年八〇四號同年十月一日）

◎死者ノ遺骸ハ墳墓ト共ニ其相續人又ハ承繼人ノ保有ニ屬ス從テ其竊取ノ所爲ニ對シ遺骨ノ價格ヲ判定シ竊盜罪ヲ擬スルハ相當ノ裁判ナリ（廿九年七五七號同年十一月九日）

◎郵便局ニ差戾スコトヲ委託セラレタル書狀ヲ開披シ其封入ニ係ル送金手形ヲ竊取シタル所爲ハ竊盜罪ナリトス（廿八年一二三〇號同年十一月廿一日）

◎入浴ノ客人カ浴室ニ置キ忘レタルモノハ遺失物ニ非スシテ保管者即チ浴室主人ノ占有ニ在ルヲ以テ他ノ客人カ之ヲ取去レハ竊盜罪トス（廿七年一二六四號同年十二月十一日）

◎借用證書ハ有形有價ノ動產ナリ故ニ盜罪ノ目的物トナルナリ（廿八年九二一號同年九月十七日）

◎二人以上ニテ竊盜ヲ犯スノ情ヲ知リタル從犯ハ刑法三百六十九條ニ依リ其刑ヲ加重ス（廿八年九九八號同年九月廿六日）

◎郵便條例ニ所謂郵便物隱藏ト竊取トハ其間自ラ區別アルモノナレハ隱藏ノ事實ニ對レ郵便條例ノミヲ適用シ刑法三百六十六條三百七十六條ヲ適用セサリシハ當然ナリ（廿八年一一六六號同年十月五日）

◎甲者乙者宛ノ郵便在中ノ爲替券ヲ竊取シ丙ヲシテ乙ノ名義ヲ詐稱シ乙ノ氏名ヲ記載シ自己ノ印章ヲ押サシメ局員ヲ欺キ金員ヲ交付セシメタルハ竊盜ノ結果ニシテ私書僞造行使詐欺取財敎唆ノ罪ニ非ス丙ハ甲ト共謀竊取ノ事跡ナク單ニ甲ノ旨指ニ從ヒ前顯ノ詐僞ヲ爲シ金員ヲ甲ニ交付シタルモノナレハ事後ノ從犯ニシテ法律上罪トナラス（廿五年一一八七號同年十一月廿四日）

◎金圓在中ノ封書ヲ預リ其封筒ヲ切破リ在中ノ金圓ヲ取リタルトキハ即チ竊盜罪ヲ組成スルモノトス之ヲ委託金費消ノ所爲ナリト云フヲ得ス況ヤ之カ賠償ノ責ニ任スルモ背信罪ニ過キストニ云フヲ得ス（二十六年一一二四號二十七年一月十八日）

◎人ノ遺骨ハ金錢ニ換ヘ得ラレサル物件ニ非ス亦一種ノ有價物ナリ既ニ之ヲ有價物トシテ盜取スルニ於テハ竊盜罪ニ問フヘキモノトス其墳墓ヲ發掘スル如キハ埋骨ヲ得ンカ爲ノ手段タルニ過キサルヲ以テ特ニ刑法上ノ制裁ヲ加フヘキモノニ非ス然ルニ死屍ハ竊盜罪ノ目的物トナラサルモノトシテ其竊盜罪ヲ無罪ト爲シ墳墓發掘罪ニ處シタルハ擬律錯誤ノ判決ナリ（二十六年一〇〇九號同年九月二十八日）

◎官私ヨリ封印等ヲ爲シ包括シタル物件ノ保管ヲ受クル者其封印ヲ解放シテ其物件ヲ取出シタルトキハ竊盜罪ヲ構成ス（二十三年五九號二十四年三月二日）

◎飲食店ハ衆人ノ出入スル處ナリト雖モ其室內ハ常ニ其店主人ノ管守ニ屬シ道路等ニ比例スヘキモノニ非ス假令來客ノ遺忘シ置キタルモノニ係ルモ亦其店主ノ管守內ニ在ルヲ以テ之ヲ竊取シタルトキハ竊盜罪ヲ構成スルコト勿論ニシテ遺失物拾得ヲ以テ論スヘキモノニ非ス（二十四年七〇號同年九月二十一日）

◎自己ノ家屋內ニ甲者カ遺忘シ置キタル財布アルヲ發見シ竊ニ之ヲ取リタル時ハ其物品所有主ハ甲者ナルコト分明ナレハ之ヲ以テ遺失物ナリト謂フヲ得ス既ニ他人ノ所有物

ナルコトヲ知テ之ヲ窃取シタル時ハ即チ窃盗罪ヲ組成シタルモノニシテ其所有主ノ現ニ占有シ居ル物品ナルト否トニ依リ犯罪ノ成否ヲ判スヘキモノニ非ス（二十四年三一七號同年十二月十四日）

◎鐵道停車場構内ノ待合所ニ於テ他人ノ所有物ヲ窃取シタル所爲ハ屋外窃盗ニアラス（三十二年五三五號同年五月十二日）

◎他人ノ保管ニ依ル森林中ノ木材ヲ窃取シタル所爲ハ森林ニ於テ其物産ヲ窃取シタルモノニ非スシテ普通ノ窃盗罪ナリ（三十二年二二八號同年三月十七日）

◎郵便爲替券ヲ窃取シタル上其金額ヲ收受スルニ當リ之ヲ變換シテ行使シタル所爲ハ窃盗及ヒ官文書變造行使罪ノ二罪ヲ構成ス（三十三年）

◎郵便爲替證書ヲ窃取シ其金額ヲ收受スルニ當リ擅ニ受領人ノ氏名ヲ等僞造シテ之ヲ行使シタル所爲ハ郵便爲替證書窃盗罪ト文書僞造行使罪トノ二罪ヲ構成ス（三十三年れ一六四號三十四年一月廿二日）（三十三年四二六號同年五月一日）

◎窃盗罪ノ成立ニハ他人ノ占有スル物件ヲ奪取スルヲ必要トセス他人ニ屬スル物件ナルヲ知テ之ヲ自己ノ占有ニ歸セシムルヲ以テ足レリトス（三十三年れ第四一〇號同年五月二十四日）

◎甲者アリ乙者ト理料店ニ於テ酒肴飲酒中乙者カ金錢在中ノ小袋ヲ取落シテ心付カサル間ニ乘シ之ヲ收取シタル所爲ハ窃盗罪ヲ構成ス（三十三年れ七七〇號同年七月二日）

◎他人ノ所有ニ屬スル物件ナルコトヲ知テ之ヲ窃取シタルトキハ窃盗罪ヲ構成ス從テ其所有者ヲ明示スルヲ必要トセス（三十三年八八一號同年九月二十四日）

◎家屋其他ノ建造物外ニ於テ犯シタル窃盗（明治二十三年法律第九十五號）トハ看守ノ周到ナラサルニ乘シ犯シタル窃盗ヲ云フ故ニ此屋外窃盗ナルヤ否ハ看守ノ程度如何ニアリテ家屋ナル物体ニ依リテノミ區別スルヲ得サルモノトス從テ雨戸ヲ閉鎖シタ後看守ノ行屆カサル雨戸條側ニアリタル物品ヲ窃取シタル所爲ハ屋外窃盗ヲ以テ論スヘキモノトス（三十四年八九四八號仝年六月二十八日）

◎軒下ニ鈎リ下ケアル乾竿ニ掛ケアル物品ヲ家人ノ監守ノ隙ニ乘シ窃取シタル所爲ハ通常窃盗罪ニシテ屋外窃盗罪アラス（三十四年れ一六一三號仝年十二月三日）

◎軒下ハ家屋内ノ部分ナリ從テ軒下ニ吊リ下ケアル物品ヲ窃取シタル所爲ハ屋外窃盗罪ヲ以テ論スヘキモノニアラス（三十四年二九七號同年三月廿六日）

◎夫カ他人ヨリ融通使用ヲ許サレサル金圓ヲ預リタル場合ニ妻カ其情ヲ知リ之ヲ窃取シタル所爲ハ夫ノ金圓ヲ窃取シタル非スシテ他人ノ金圓ヲ窃取シタルモノトス（三十四年れ五六八號同年四月三十日）

◎建造物ニ於テ物件ヲ拾得シタル後之ヲ所有者ニ交付セスシテ隱匿シ若クハ不正ニ處分シタル所爲ハ遺失物隱匿罪ニシテ拾得スル當時窃取スルノ意思ヲ有スルトキハ窃盗罪ヲ構成ス（三十三年れ一二一號同年三月十三日）

第三百六十七條　水火震災其他ノ變ニ乘シテ窃盗ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

◎刑法三百六十八條ニ適スル犯罪ハ其刑法三百六十七條ト同一ナルヲ以テ三百六十七條ヲ適用シタルカ爲ニ水火震災ヲ事實ヲ判文ニ掲載スル必要ナシ（二十六年八二五號同年十月三十日）

◎水火震災等ノ變ニ乘シ窃盗ヲ爲シタル所爲ハ家屋内外ヲ問ハス賍額ノ多寡ニ拘ラス刑

法第三百六十七條ニ依リ論スヘキモノトキモノトス（三十三年れ一〇五三號同年十月八日）

第三百六十八條　門戸牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入リ窃盗ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

◉原裁判ノ趣旨ハ戸口ノ土臺下ヲ掘リ穿チ此穴ヨリ潛リ入リシモノト認メタルモノナリ刑法三百六十八條中ノ踰越トアル趣旨ハ門戸牆壁ヲ登リテ越ヘ入リタルモノノミナラス下ヨリ潛リ入リタルモノヲモ云フナリ（二十四年二〇號同年二月三十日）

◉垣根ヲ破リ邸内ニ忍ヒ入リ竹竿ニ掛ケアル物品ヲ窃取シタル所爲ハ牆壁ヲ損壞シ邸宅ニ入リ窃盗ヲ犯シタル者ニシテ屋外窃盗罪ニアラス（三十四年）

第三百六十九條　二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

◉刑法三百六十九條ニハ二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フトアリテ共ニ刑法三百六十六條以下二條ノ法律ヲ適用スヘキ共犯者アル場合ニ於テノミ適用スヘキモノナリ而シテ甲者ト共ニ罪ヲ犯シタル乙者ニハ刑法二百八十九條ヲ適用シタハ擬律錯誤ナリ（二十七年一〇九一號同年十一月一日）

第三百七十條　兇器ヲ携帶シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入リ窃盗ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

◉性質上ノ兇器ハ使用方法ニ依リ兇器タルノ性質ヲ變スルモノニ非ス（二十三年一〇七號同年十一月二十七日）

◉土藏内ヨリ衣類ヲ窃取シ土藏外ニ運搬シタル上ハ假令之ヲ持去ラサルモ窃盗罪ノ既遂トス兇器ヲ携帶シタル上ハ之ヲ他ノ用ニ供シタリトスルモ特兇器窃盗ナリ（二十五年一四三號同年三月七日）

第三百七十一條　自己ノ所有物ト雖モ抵當典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ窃取シタル者ハ窃盗ヲ以テ論ス

◉他ヨリ質ニ取リタル物品ヲ復質ニ爲シ置キ之ヲ窃取セハ窃盗罪ヲ構成ス（二十七年九二三號同年十月十六日）

◉父ノ所有物ト雖トモ官署ノ差押ニ係ル場合ニ於テ之ヲ窃取シタルトキハ窃盗罪ヲ構成ス（三十三年一〇九號同年三月二十三日）

◉稅務屬カ酒造稅法違犯ノ證據トシテ帳簿ヲ差押ヘ之ヲ保有スル場合ニ於テ被差押者カ其窃盗ヲ教唆シタル所爲ニ對シ刑法第三百七十一條ヲ適用セサル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ

第三百七十二條　田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ窃取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十三條　山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ窃取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ窃取シタル者ハ亦前條ニ同シ

◉明治二十三年法律九十九號ハ屋外窃盗ニ付刑法三百六十六條以下ノ條規ニ依ラス別ニ處分スル爲メ特ニ設ケタル法律ナレハ苟モ本法ニ適合スル場合ニ於テハ本法ニ依リ處斷スヘク刑法ニ依ルヘキモノニ非ス故ニ假令刑法ニ於テ刑ヲ加重スヘキ數人共犯ノ情狀アリトテ主タル犯罪ニ適用スヘキ法律ヲ變更スルノ理由ナシ（三十五年一三七七號二十六年一月二十三日）

◉露店ハ家屋其他ノ建物ニ屬セサルヲ以テ露店ヨリ物品ヲ窃取シタル所爲ハ其賍額ノ五

圓ニ滿ルト否トニ依テ刑法又ハ明治二十三年法律九十九號ヲ適用スヘキモノトス（二十五年三七一號二十六年二月二日）

◎村又ハ一部落ノ共有ニ係ル山林ノ如キハ其村落人民ノ協議ニ依ルニ非サレハ村氏一個ノ資格ヲ以テ之ヲ伐採シ得ヘカラサルハ勿論ナリ故ニ共有ニ係ル山林中ノ杉ヲ盜伐シタルノ事實ヲ認メ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ相當ニシテ事實ノ理由ヲ付セサルモノト云フヲ得ス（二十八年一〇〇號同年一月二十五日）

◎本件立木ハ既ニ伐木セシモ一枝タモ運搬セス又他ヘ賣却ノ約束ヲモ爲シタルコトナク現場ニ存在シテ未タ告訴人ノ占有ヲ離去セサルカ故ニ未遂犯ナリ故ニ明治二十三年法律九十九號ニ依リ無罪ナリト論告スレトモ已ニ盜伐シ了リ之カ小切ヲ爲シタルノ事實ヲ認メアレハ既遂犯タル勿論ナリ（二十八年三三二號同年三月十九日）

◎官吏ト通謀シ極印ヲ盜用シ正當ニ引渡ヲ受ケタル如ク假裝シ許可外ノ立木ヲ伐採シタルハ窃盜罪ナリ（二十六年五九六號同年六月二十二日）

◎窃盜ノ意ヲ以テ他人ノ樹木ヲ伐採セハ直チニ其物件ハ自己ノ占有ニ歸シ窃盜既遂ノ犯罪ヲ構成ス別ニ之ヲ運搬スル等ノ手段ヲ以テ始メテ既遂ト爲ルヘキニ非ス（廿九年六〇八號同年九月十八日）

◎傭入ノ手ヲ假リ盜伐シタリト認メタル以上ハ現場ニ在テ指揮スルト他所ニ在リテ指揮スルトニヨリ教唆ト共犯トノ別ヲ生スルノ理ナキヲ以テ指揮ノ場所ヲ明示スルノ要セス（同上）

◎部落所有ノ財產管理ハ町村制ノ規定ニ依リ町村長固有ノ職務ニ屬スルヲ以テ他人ニ代理セシムルコトヲ許サス故ニ町村長以外ノ者カ管理ノ事實アリトスルモ其責任ハ町村長ニ歸スル筋合ナルヲ以テ法律上管理者ト認ムルコトヲ得ス（三十二年一九五號同年三月三日）

◎刑法第三百七十三條ハ山林ニ於テ竹木鑛物其他ノ產物ヲ窃取シタル所爲ヲ罰スヘキ規定ニシテ原野ニ於テ樹木ヲ盜伐シタル所爲ヲ罰スヘキ規定ニ非ス故ニ第三百六十六條ヲ以テ論スヘキモノトス（三十二年七百二號同年六月廿二日）

◎森林法ヲ施行セサル場所ニ於テ立木ヲ盜伐シタル所爲ニ對シ森林法第三十七條ヲ適用シタル判決ハ不法ナリ（三十二年二七六號同年三月二十四日）

第三百七十四條　牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ窃取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十五條　此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百七十六條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百七十七條　祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラス若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

◎刑法三百七十七條ノ不論罪ハ父タリ子タル天然上ノ關係ヲ有スレハ戸籍上ノ親族關係ニ拘ラス（廿五年二二號同年二月一日）

◎相當ノ借地料ヲ納メテ官有地ヲ借リ受ケタルトキハ其地上ニ生スル樹木ハ反對ノ事實

ナキ以上ハ借地者ノ所有ト認ムヘキモノナリ（三十年一五三號同年二月二十六日）

◎親屬相盜ノ場合ニ於テ親屬以外ノ共犯人カ其財物ヲ分チタレハトテ親屬タル身分上ノ關係ヲ有スル者ヲ共犯ノ一人トシテ處罰スルハ刑法三百七十七條二項ノ精神ニ非ス（廿八年一一五二號同年十月廿五日）

◎刑法三百七十七條二項ニ所謂他人共ニ犯シタル者トハ唯實行ノ正犯者ノミヲ意味スルニ非ス總テノ共犯者卽チ教唆者從犯者ノ全體ヲ包括スル意義ナリトス（廿八年一〇八八號同年七月八日）

◎親屬シタル身分上ノ關係ヲ有スル者窃盜ノ所爲ヲ犯スモ其罪ヲ問ハス從テ之ト共ニ犯タル他人ノ所爲ヲ以テ共犯ナリト論スルヲ得ス（同上）

◎刑法第三百七十七條ノ前段親族相盜ハ之ヲ論セストノ規定ハ所有者カ自己ノ物ヲ窃取スルモ罪トナラサル場合ニ限リ其親族カ之ヲ窃取スルモ窃盜ヲ以テ論セストノ法意ニシテ自己ノ物ト雖モ之ヲ窃取セハ罪トナルヘキ刑法第三百七十一條ニ規定シタル二個ノ場合ノ如キニ於テハ假令ヒ所有者ノ親族カ之ヲ穗取スルモ刑法第三百七十七條前段ノ規定ヲ適用スヘキモノニアラス（三十五年十月九日）

第二節　强盜ノ罪

第三百七十八條　人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ强取シタル者ハ强盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

◎暴行脅迫ニ因リ承諾セシメタルハ眞ノ承諾ニ非ス卽チ着衣ノ襟ニ隱シ置キタル金ヲ强奪シタルハ是レ其暴行脅迫ヲ加ヘテ金ヲ强取シタル事實アレハ刑法三百七十八條等ヲ適用スルヲ相當トス（二十七年七九一號同年十一月五日）

◎自己ノ所有物ナルモ既ニ典物ニ供シ所分權ヲ有セサルモノヲ强取セハ强盜罪ヲ組成ス（二十五年三二二號同年四月二十一日）

◎强盜ナルヤ恐喝ナルヤヲ判別スルニ必要ナル犯罪構成ノ意思明瞭ナラサル判決ハ理由不備トス（二十六年五一四號同年六月一日）

◎强盜罪ノ如ク人ノ所有物ニ對スルトキニノミ成立スルモノニアラス從テ自己ニ所有權アル物件ト雖トモ差押ヒヲ受ケ他人ノ占有ニ屬スル場合ニ於テ暴行ヲ以テ之ヲ强取シタルトキハ强盜罪成立スルモノトス（三十四年）

◎不動產買渡契約證書ト雖トモ權利證明ノ具ニ供スヘキモノナレハ刑法第三百七十八條ニ所謂財物中ニ包含スヘキモノトス

實質上有効ナラサル證書ト雖トモ苟モ形式上權利證明ノ具ニ供スヘキモノナル以上シ之ヲ强取セハ强盜罪ヲ構成ス（三十五年九月二十九日）

◎强盜罪ハ暴行脅迫ヲ用ヘテ他人ノ占有スル財物ヲ不法ニ奪取スルニ依リ成立スルモノナレハ暴行脅迫ヲ用ヘテ他人ノ占有スル財物ヲ奪取シタル者カ强盜罪ノ責任ヲ免カルヽニハ財物其モノヽ交付ヲ要求スルコトヲ得ヘキ正當ノ權利ヲ有シ其權利ノ實行トノテ其財物ヲ交付セシメタルノ事實アルコトヲ必要トスヘク財物ノ奪取カ正當ナル權利ノ實行ニアル以上ハ其理由如何ヲ論セス常ニ强盜罪ヲ構成スルモノトス卽チ第三者カ質入差押其他ノ事由ニ因リ財物ヲ占有スルトキハ財物ノ所有權ハ所有者ニ屬スルニモセヨ暴行脅迫ヲ以テ之ヲ奪取シタル所有者ハ强盜罪ノ刑責ナシトセス況ンヤ所有者ノ占有スル財物ハ其承諾アル場合ハ格別第三者ニ於テ之ヲ占有スルコト能ハサルモノナレハ其財物上ニ權利ヲ有セサル第三者カ暴行脅迫ヲ用ヘテ其財物ヲ奪取シタルトキハ

其事由ノ如何ニ關セス强盜罪ヲ構成ス（三十五年れ一八二號）

第三百七十九條　强盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ

一　二人以上共ニ犯シタル時

二　兇器ヲ携帶シテ犯シタル時

◎强盜犯ノ携帶スル兇器ノ如キハ刑ノ加重ヲ爲スヘキ一ノ情狀ニ過キサレハ之ヲ以テ犯罪ヲ構成スヘキ罪体ト云フコトヲ得ス故ニ犯罪供用ノ物件トシテ沒收シタルハ不法ニ非ス（二十七年一三三四號二十八年二月二十一日）

◎共犯ノ一人カ强奪シタルモ共ニ强盜セハ二人ヲ强盜ノ正犯トス（二十八年二〇八號同年四月一日）

◎强盜ノ見張ヲ爲シ其實行ヲ幇助シタル所爲ハ强盜ノ正犯ナリ（三十年七七五號同年九月三日）

◎人ヲ殺傷スル爲メ特ニ作成シタル器具ニアラサルモ人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ器具ヲ以テ犯罪ノ用ニ供シタルトキハ刑法上之ヲ兇器ト謂フ（三十三年れ二九號同年二月十九日）

第三百八十條　强盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致タル者ハ死刑ニ處ス

◎强盜殺人ノ罪ハ其所爲ノ謀殺ト故殺トヲ判別スル必要ナキヲ以テ殺意ノ有無ヲ審究セサルモ適法ニ非ス又其所爲ハ財ヲ得ルト否トニ依リ其罪ノ長消スヘキモノニ非ス（廿四年一〇八號同年十月一日）

◎强盜人ヲ殺傷シタル者トハ其强盜ヲ爲スノ前后ヲ論セス苟モ强盜ヲ爲シ其犯所ニ於テ人ヲ殺傷シタル者ヲ云フ（二十四年一七九號同年十月十二日）

◎强盜ノ目的ヲ以テ他人ノ家ニ侵入シ暴行ヲ加ヘタル以上ハ財物强取ノ事實アルト否トニ拘ラス强盜罪ナリトス而シテ此場合ニ於ケル負傷ノ所爲ハ當然强盜傷人罪ヲ成立ス（廿九年二五二號同年三月十九日）

◎强盜人ヲ傷ケタルトキハ其創傷ハ强盜ヲ遂クル爲ナルト逮捕ヲ免カルヽ爲メナルトヲ問ハス雖盜傷人罪ヲ構成ス（三十年四九七號同年六月十一日）

◎强盜傷人强盜强姦ハ特別ノ犯罪ナレハ刑法三百七十八條及三百七十九條ヲ適用スルノ限リニ非ス（二十七年一〇六四號同年十二月三日）

◎强盜ヲ共謀シ其强奪ノ際ニ傷人ノ事實アル以上ハ假令其傷人ハ他ノ共犯者ノ行爲ニ因ルモ犯罪自体トハ强盜傷人ノ所爲ナルヲ以テ共犯者ハ共ニ强盜傷人ノ責任ヲ免脫スルコトヲ得サルモノトス（三十五年六月十二日）

◎暴行强迫ヲ以テ財物ヲ奪取スルニ當リ其强奪ノ行爲ヨリシテ人ヲ傷シタルトキハ毆打ノ意思アリシヤ否ヤヲ論セス强盜傷人罪ヲ構成スルモノトス（三十五年六月二十三日）

◎强盜犯ノ現場ニ於テ張番ヲ爲スハ即チ犯罪ノ實行ニ干與シタルモノトス故ニ被害者ニ負セシメタルハ他ノ共犯ノ行爲ナリトスルモ張番者カ已ニ强盜ヲ爲サンコトヲ共謀シ其實行ニ與カリタル以上ハ斯ル事實ハ固ヨリ其豫知スヘキ結果ナルヲ以テ其責任ヲ免カルコトヲ得ス（三十五年九月二十九日）

◎殺人罪ハ假令一個タルト雖トモ之ヲ犯ス當リ二人以上ノ者ヲ死ニ致シタルトキハ其死ニ所爲ハ假令一個タルト雖トモ之ヲ犯ス當リ二人以上ノ者ヲ死ニ致シタルトキハ其死ニ至リタル被害者毎ニ各別ノ强盜殺人罪ヲ構成スルモノトス（三十五年十一月六日）

第三百八十一條　强盜婦女ヲ强姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

◎甲乙共ニ强盜ヲ爲スニ際シ乙者ヲ助ケテ强姦セシメタル所爲ハ强盜强姦罪ノ實行ニ加

功シタルモノナルヲ以テ共ニ強姦ノ正犯トシテ論スヘシ從犯トセシハ擬律錯誤ナリ（廿八年五五五號同年六月十八日）

◎甲乙強盜ヲ爲ス際乙者ヲ助ケテ婦女ヲ強姦セシメタル所爲ハ強盜強姦罪ノ實行ニ加功シタルモノナルヲ以テ正犯トシテ論スヘキモノニシテ從犯ト爲シタルハ擬律錯誤ナリ（廿八年五五五號同年六月十八日）

第三百八十二條　窃盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

◎他人ノ所有物ヲ窃取スルニ當リ其取還ヲ拒ム爲メ臨時暴行ヲ爲シタル者ハ強盜罪ヲ以テ論スヘキモノトス從テ其暴行ノ結果人ヲ創傷シタルトキハ强盜傷人罪ヲ構成ス（三十四年れ六四八號同年五月二十一日）

第三百八十三條　藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第三百八十四條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減刑ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節　遺失物埋藏物ニ關スル罪

第三百八十五條　遺失物及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八十六條　他人ノ所有地內ニ於テ埋藏ノ物品ヲ堀得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百八十七條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ揭ケタル親屬ニ係リ時ハ其罪ヲ論セス

◎紙屑卸業人ノ紙屑中ヨリ財布ヲ發見シ其紙屑ハ某方ヨリ買取リタルヲ心付キナカラ財布ハ川ヘ投シ金ハ懷中シタル所爲ハ之ヲ費消シタリトスルモ双方授受若クハ委託ノ意ナク偶然ニ握取セシモノナレハ委託金費消罪ニ非スシテ遺失物タルニ外ナラス之ヲ無罪トセシハ不法ナリ（廿九年三三五號同年四月十四日）

◎他人ノ拾得シタル遺失物窃取セハ竊盜ナリ（廿九年八〇號同年八月一日）

◎凡ソ拾得シタル物件ハ所有者ノ不詳ナル場合ニアリテモ仍ホ且所有者ニ還付スルノ意渡ヲ爲スモ不法ニ非ス（廿九年一二二一號同年十二月十五日）

◎拾得ノ證書ヲ以テ金員ヲ取立タル所爲ハ遺失物隱匿ノ結果ニシテ詐欺取財罪ヲ成立セス（廿六年五一七號同年六月十五日）

◎買受物品中ニ入レアル金員ヲ發見シ其儘隱匿セハ遺失物隱匿罪ヲ成立ス（廿七年二四七號同年四月二日）

◎銅貨ノ包トシテ受授シ持歸リタル後銀貨ナルコトヲ發見シ隱匿シテ還付セサリシ所爲アルモ之ヲ以テ刑法三百八十五條ノ犯罪ナリト云ヲ得ス之ヲ罰スル正條ナキヲ以テ無罪（廿七年七八七號同年十月五日）

◎遺失物隱匿罪ト證書變造罪トハ全ク其罪質ヲ異ニスルモノナルヲ以テ拾得シタル證書ニ入墨シ之ヲ變造シタル上ハ別ニ一罪即チ證書變造罪モ成立ス（廿七年一三七一號廿八年一日十八日）

◎家宅內ニ於テ拾得シタル物件ヲ不正ニ處分シタル所爲ハ遺失物法第十六條ノ犯罪ヲ攪

成ス（三十二年れ一四九六號三十三年一日二十五日）

◎漂流物ヲ拾得シテ之ヲ隱匿シタルトキハ送還期日ノ規定アルト否トヲ問ハス直ニ犯罪ヲ構成ス從テ其拾得物ハ贓品ナリ（三十一年第五九號三十一年十月七日）

◎自家ノ家ニ置キ忘レタル他人ノ物品ヲ處分シタル所爲ハ窃盜罪ニアラスシテ遺失物隱匿罪ナリ（三十三年二八號同年三月十六日）

◎甲ノ家ニ乙カ落シ置キタル金錢（風呂敷ノ儘）ヲ丙ニ於テ發見シ之ヲ甲ノ座傍ニ投ケ遺リ甲之ヲ隱匿シタル所爲ハ他人ノ保管ヲ離レタルモノナルヲ以テ窃盜ニアラスシテ遺失物隱匿罪ヲ構成ス丙者カ之ヲ拾ヒ甲ニ授ケ遺リタルハ單ニ遺失ノ場所ヲ變シタルニ止マリ拾得ノ性質ヲ變スルモノニアラス（三十一年一〇八〇號三十二年二月十四日）

第四節　家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條　家資分散ノ際其財產ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛僞ノ負債ヲ增加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

情ヲ知テ虛僞ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

◎封印ヲ破棄シ差押物件ヲ藏匿脫漏セハ封印破棄及財產脫漏ノ二罪ヲ成立ス（廿六年五二六同號年五月廿五日）

◎未タ家資分散ノ決定ヲ受ケサル前區裁判所ヨリ支拂命令書ノ送達ヲ受ケ强制執行ヲ受ケルコトヲ豫知シ債主ヲ害スルノ意思ヲ以テ財產ヲ隱匿スルハ刑法三百八十八條ノ犯罪ナリ（廿七年六八號同年一月廿二日）

◎財產藏匿脫漏ノ罪ヲ認ムルニハ家資分散ノ宣告アルヲ要ス此宣告アリシヤ否ヤノ事實ヲ明示セサルハ理由不備ノ不法ナリトス（廿七年六九四號同年七月十日）

◎刑法第三百八十八條ハ家資分散ナル事實ノ前后ニ於テ藏匿脫漏シ又ハ虛僞ノ負債ヲ增加シ債權者ヲ害スル所爲ヲ罰スル法條ナレハ家資分散ヲ豫見シ右ノ所爲アリト虛僞ノ告訴ヲ爲シタルモノハ誣告罪ヲ構成ス（三十二年一二〇五號同年十二月五日）

◎家資分散トハ强制執行處分ニ依リ債務ヲ辨濟スル資力ナキ狀況ヲ指稱スルモノトス從テ刑法ノ家資分散ニ關スル罪ハ家資分散決定宣告前ニ於テ成立スルモノトス（三十四年れ一三〇號仝年十月二十九日）

◎家資分散ニ關スル犯罪ヲ構成スルニハ分散ノ事實アルヲ以テ足ルモノニシテ其決定ヲ必要トセス（三十四年れ一五七〇號仝年二月十八日）

◎刑法第三百八十八條ノ虛僞ノ負債ヲ增加シタル者ト之ヲ增加スル爲メ虛僞ノ負債ヲ承諾シタル者トハ性質上共犯ナリトス從テ訴訟費用ハ連帶セシム（三十四年れ第一六七二號同十二月二十七日）

第三百八十九條　家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

◎財產藏匿罪ノ成立ニ關スル藏匿ノ所爲カ家資分散ノ際ナルヤ否ヤハ事實ノ認定ニ屬ス（廿八年八六〇號同年八月十六日）

◎財產藏匿罪ハ民訴五百六十六條ノ差押手續ヲ爲シテ後始テ成立スルモノニ非ス（上同）

◎家資分散ノ際虛僞ノ負債ヲ增加シタル罪ハ其負債ヲ增加シタリ時ニ於テ犯罪ヲ構成ス其債權者ニ實害ヲ與ヘタリヤ否ハ問フ處ニ非ス（廿八年九二七號同年九月廿四日）

◎家資分散ノ當時既ニ消滅ニ歸シタル債權ヲ假裝シ配當加入ノ要求ヲ爲シ他ノ債權者ヲ

害シタル所爲ハ家資分散ノ際虚偽ノ負債ヲ增加シタル犯罪ナリトス（廿八年一〇〇九號同年九月廿六日）

◎家資分散ノ際虚偽ノ負債ヲ增加シタル罪ノ成立ニハ家資分散ノ決定アルヲ必要トセス明治廿三年法律六十九號家資分產施行ノ後ニアリテハ其一條前段ノ事實即チ分散ノ事實アレハ足レリ（廿九年二二號同年三月五日）

◎有罪破產者判例（廿三年法律第百〇一號及商法參照）

◎詐欺取財ト云ヒ詐欺破產ト云フモ唯其罪名ヲ異ニスルノミニシテ其事實ハ同一即チ二事件非サルヲ以テ詐欺取財ノ豫審ヲ受ケタル上ハ詐欺破產ノ豫審ヲ經スト云フコトヲ得ス（廿七年一〇二七號同年十一月十三日）

◎廿三年法律百一號ハ商法一部ノ施行ト共ニ施行シタルモノナリ（廿七年一〇二七號同年十一月十三日）

◎商法千五十條ニ履行スル意ナキ義務又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ負擔シタルトキ云云ハ詐欺破產ノ刑ニ處ストアリテ其義務ヲ負擔シタルトキニ成ルヲ以テ詐欺ノ手段ヲ行ヒタルト否トニ區別ナシ（同上）

◎商法千五十條ハ破產者ヲ罰スヘキ規則ナルコト勿論ナルヲ以テ其破產者タルヤ否ハ破產宣告ノ確定ニ依リテ決スヘキモノナルカ故ニ其宣告ノ確定以前ニ於テ該法條ニ依リ判決ヲ下シタルハ不當ノ裁判ナリ刑三百一條六號ニハ民事上ノ判決ト同視スルヲ得サルニ於テヲヤ（同上）

◎破產者カ有罪行爲ヲ行フ際犯者ヲ効ケ又ハ有罪行爲ヲ破產者ノ利益ノ爲メニ行ヒタル者ノ如キハ破產宣告ヲ受ケサルモ詐欺破產ノ刑ニ處ス（廿八年四九四號同年六月三日）

◎破產宣告ハ確定ノ日ヨリ宣告ノ日ニ溯リ効力ヲ生スルモノナリ故ニ檢事ノ公訴ノ提起ハ勿論此間ノ豫審調書モ亦無効トナルヘキモノニ非ス（廿九年二一九號同年三年廿四日）

◎破產ノ宣告ヲ受ケタル者ニシテ詐欺ノ行爲アリト認メラレタル時ハ其宣告確定前ト雖モ公訴提起ノ權アルモノトス（廿九年三九五號同年四月三十日）

◎商法三十一條及三十二條ハ獨リ商事會社ニ對シ實施シタルモノナレハ前二條ニ該當スル帳簿ナルト否トヲ問ハス債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テ商業上必要ナル帳簿ヲ毀損藏匿シタル者ハ當然有罪破產罪ヲ構成ス（廿九年六四九號同年六月二十九日）

◎商法千五十一條五號ニ所謂義務ヲ履行セサルトキノ文字ニハ怠慢ニ依リ義務履行セサルモノヲモ包含ス（廿九年一一七三號同年十二月十日）

◎合名會社ノ義務擔當社員トナリ會社ハ既ニ其當時ニ於テ支拂停止ノ情況ニ陷リ履行スルコト能ハサル事情ヲ熟知シナカラ第三者ヲ誘惑シタル所爲アルトキハ其社員退社後ニ至リ破產ノ宣告ヲ受ケタルモ仍ホ欺詐破產ノ刑責ヲ負フモノトス（廿九年一二八八號三十年二月二十日）

◎會社ノ業務擔當社員ヲ詐欺破產ノ刑ニ處スルニ當リ商法千五十二條ヲ適用セサル判決ハ擬律錯誤ノ不法ナリ（三十年四〇〇號同年五月十八日）

◎約束手形ノ原由ハ貸借賣買等苟モ債務ヲ認メ之ヲ作成シタル上ハ純然タル約束手形ニシテ必スシモ賣買代金ニ限ラス然ルニ借用證書ニ代ヘ約束手形ヲ振出シ破產ノ宣告ヲ受タルヲ認メナカラ商法千五十一條第五項ニ明治廿三年法律第百一號第二ヲ適用セス同法七百二條ニヨリ罪トナラストシタルハ失當ナリ（三十一年三〇八號同年三月廿九日）

◎支拂停止ハ破產決定ニ依リテ確定シタル事實ナリ芝居茶屋業ハ商行爲ナリ

商人ニシテ支拂ヲ停止シタルトキハ破產ノ宣告ヲ受クヘキ者トス而シテ其商行爲ナルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス（三十二年九九六號同年十月二十日）

第五節　詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第三百九十條　人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ官私ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シタル者ハ僞造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

◎假令名ヲ賭博ニ籍ルト雖モ之ヲ以テ詐欺ノ手段トナシ金圓ヲ欺罔騙取シタル時ハ刑法三百九十條ノ罪ヲ組成ス（廿三年一七七九號同年十二月五日）

◎甲者ノ遺忘シタル物品ヲ乙者ハ丙者ノ所有ト誤信シ丙者ニ渡シタルニ丙者ハ默シテ之ヲ受取リタル所爲ハ他人ノ物品ヲ自己ノ占有ニ歸スルニ在リト雖モ自ラ進シテ窃ニ握取シタルニ非サレハ窃盜罪構成セス又乙者ハ委托ヲ爲スノ意思ヲ以テ丙者ニ渡シタルニ非サレハ之ヲ受取リ費消スルモ受寄物費消罪構成セス然レ共乙者ノ提供ニ任セ默シテ受取リ其所有ト信セシメタルハ卽チ欺罔ノ所爲アリテ騙取シタルモノナレハ卽チ詐欺取財罪ヲ構成ス（廿四年一〇七號同年四月廿三日）

◎確定物ニ非サルモ約定品ト物質ヲ變シ交付シタルモノハ刑法三百九十二條ノ犯罪ヲ構成ス（廿四年一〇七號同年四月廿三日）

◎賭博ニ事寄セ之ヲ欺罔ノ方法手段トシ金圓ヲ騙取シタルトキハ欺罔取財ヲ構成ス而シテ金圓ヲ騙取セラレタル者ト雖モ法律ノ救濟ヲ受クルヲ妨ケス（廿四年一八三號同年六月十一日）

◎詐欺ノ手段タル欺罔ノ程度ハ被害者ノ精神ニ生セシムル効力ニ在リ被害者ノ過失如何ヲ問フヘキモノニ非ス（廿五年三六號同年二月廿二日）

◎其謀シ躁メ欺罔ノ手段ヲ定メ其手段ノ如ク共謀者ニ於テ人ヲ欺罔シ金圓ヲ騙取シタルハ卽チ詐欺取財ノ實行ヲ分擔シタルモノニシテ被告カ自ラ其事ヲ行ヒタルト同一ナリ（廿五年四〇七號同年四月廿八日）

◎詐欺取財未遂ハ人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取セントシテ其事ニ着手スルモ犯人意外ノ障礙等ニ依リ其財物ヲ騙取シ能サル時ニ組成ス（廿五年六三一號同年四月七日）

◎官吏カ未タ工事ニ着手セサル以前ニ以テ落成シタル如ク假裝シ官ヨリ金圓ヲ受取リ請負人ト後日工事ヲ爲スノ約束ヲ結ヒ且現金存在スルモ騙取罪ヲ成立ス（廿五年七五五號同年九月廿六日）

◎人ヲ欺罔シ其地所家屋等ヲ騙取シ自己所有ノ如ク假裝シ更ニ他ヘ抵當ト爲スモ詐欺ノ結果ニシテ冒認罪ヲ構成セス（廿五年六五九號同年十月廿七日）

◎債主ヲ欺テ自己ノ外假設シタル虛無ノ人名ヲ連署セル連借證書ヲ交付スルノ所爲ハ私書僞造行使罪ヲ構成ス而シテ此僞造證書ヲ他人ニ交付シテ金員ヲ得タルノ所爲ハ詐欺取財罪ヲ構成ス（廿六年三九六號同年五月四日）

◎金圓騙取ノ爲メニ虛僞ノ陳述ヲ爲シ公正證書第二正本ノ下附ヲ受クルモ證書ノ騙取ニ非ス（二十六年四〇號六月九日）

◎刑獄ノ事タル人情ノ最モ嫌忌スル所ナレハ其告訴スヘシト言懸ケラレタルニ因リ恐怖スルハ常人ノ狀態ニシテ他ノ暴行ヲ身體ニ受ケテ恐怖スルト敢テ撰サル所ナレハ之ヲ以テ取財セハ恐喝取財罪ヲ構成ス（廿六年九二五號同年十一月廿七日）

◎詐欺取財ノ罪ハ人ヲ欺罔スルノ手段カ財物騙取ノ以前若クハ同時ニアルコトヲ要ス若シ財物ノ授受アリシ後欺罔ノ手段ヲ行フ者ハ假令當初ヨリ惡意アルモ詐欺ヲ以テ義務ヲ免ルルコトヲ計ルニ過キスシテ詐欺取財ノ罪ヲ構成セス（廿六年一四二二號廿七年四月二日）

◎甲者ヲ欺罔シテ騙取シタル賍物ヲ乙者ニ發却シ更ニ乙ノ委託ニ依リ保管中之ヲ費消シタル所爲ハ詐欺取財委託物費消ノ二罪ヲ構成ス（廿七年五八四號同年七月三日）

◎恐喝トハ言語ヲ以テ人ヲ畏怖セシムルノ謂ヒニシテ必スシモ危害ノ及フコトヲ述ルヲ要セス（廿七年五九七號同年九月十日）

◎刑法三百九十條ハ欺罔セラルヽ人ト騙取セラルヽ人ト同一ナルヲ要セス故ニ欺罔カ騙取ニ關連スル場合ニハ欺罔セラルヽ人ト騙取セラルヽ人ト異ナルモ詐欺取財罪ヲ組成ス（廿七年一〇七三號同年十二月三日）

◎飲食物ヲ暴行脅迫ヲ以テ飲食セハ恐喝取財罪ヲ成立ス（廿七年一〇五八號同年十二月十日）

◎刑法三百九十條ニ所謂人ヲ欺罔スルトハ被害者其人ヲ欺罔スルニ止マラス公證人ヲ欺キ無實ノ證書ヲ作ラシメ又此無實ノ證書ヲ以テ執達吏ヲシテ幼者ノ財産ヲ差押シメタルハ卽チ欺罔ノ事實ナリ（廿六年一三〇四號廿六年一月十七日）

◎摸造小判ヲ使用シ數次ニ金員ヲ騙取セハ各個ニ犯罪ヲ成立シ其間連續ナシ（廿八年五號同年二月十五日）

◎刑法三百九十條ニ財物トハ廣ク財産ヲ包括シ不動産ノ騙取モ含蓄ス而シテ不動産騙取ノ既遂ハ所有權ヲ移轉セシムレハ足ルカ故ニ實体ノ占有ヲ要セス（廿八年一九號同年二月十五日）

◎僞造證書ハ證書タルノ價値ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ之ヲ騙取スルモ詐欺取財ヲ以テ論スヘキモノニ非ス（廿八年四〇六號同年四月十二日）

◎刑法三百九十條ニハ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ云々トアリテ該財物若クハ證書類ノ所有權カ必スシモ被害者ニ屬スルコトヲ要セス共犯者ノ所有物ト雖モ既ニ之ヲ典物トシテ其占有ノ他人ニ屬シタル場合ニ在テ之ヲ騙取スルニ於テハ均シク刑法三百九十條ノ制裁ヲ免レス（廿八年五五四號同年五月十四日）

◎虛言卽チ全ク存在セサル事實ヲ構造シテ他人ノ心ニ錯誤ヲ生セシメ騙取ノ目的ヲ達シタル所爲ハ詐欺取財ナリ（廿八年八一九號同年八月六日）

◎出訴期限ノ經過シタル借用證書ノ日付ヲ變換シ保證人ニ對シ請求シタルハ實害ナキ所爲ト云フヲ得ス而シテ負債主本人カ其義務ヲ果シタルト否トニ拘ハラス保證人ニ對シ詐欺取財ノ犯罪成立ス之ニ對シ刑法三百九十條ヲ適用シタルハ相當ナリ（廿八年八六一號同年八月廿日）

◎借用證書ヲ受領シテ金圓ヲ貸與セス反テ之ヲ奇貨トシテ證書面ノ金額ヲ騙取スルノ目的ヲ以テ支拂命令ノ申請ヲ爲シタル所爲ハ詐欺取財ニ着手シタルモノトス（廿九年九〇號同年二月七日）

◎人ヲシテ資産アル者ノ如ク信用セシムルハ詐欺ノ所爲ナリトス（廿九年五四號同年二月二十日）

◎印紙ノ貼用ナキ證書ト雖モ當事者間ニアリテハ證書タル効力ヲ有ス從テ之ヲ騙取シタル所爲ハ詐欺取財ヲ以テ之ヲ論ス（廿八年一一四七號同年九月三十日）

◎効者ノ智慮淺薄ナルニ乘シ欺罔ノ手段ヲ以テ財物ヲ授與セシメタル所爲ハ純然タル詐

欺取財ニシテ刑法三百九十條ニ依リ制裁スヘク同法三百九十一條ハ欺罔騙購ノ所爲ナキ場合ニ適用スヘキモノトス（二十八年八八八號同年十月十四日）

◎恐喝取財罪ハ被害者ヲシテ畏怖心ヲ生セシムルヲ以テ成立ス而シテ其恐喝ノ事實ハ必スシモ直接ナルヲ要セス（廿八年一一八〇號同年十一月七日）

◎債權證書ヲ僞造シ裁判所ニ提出シテ財產差押ヲ爲シタル所爲ハ詐欺取財ノ未遂犯ナリトス（廿九年八七號同年二月廿七日）

◎不動產賣買ノ登記ハ公示ノ方法タルニ過キスト雖モ既ニ被害者ヲ欺罔シテ地所賣渡證書ヲ僞造シ登記ヲ經テ其證書ヲ所持スル以上ハ表面其所有權移轉ノ手續ヲ盡シタルヲ以テ不動產ノ騙取罪ヲ成立ス（廿九年二七二號同年三月廿六日）

◎訴訟上事實ヲ構造シテ裁判官ヲ錯誤ニ陷ラシメ自己ノ所有ニ屬セサル物件ヲ騙取セントシタル所爲ハ詐欺取罪ナリトス（廿八年一三六二號同年十二月五日）

◎擅ニ保證人ノ名義ヲ記入シ且有合印ヲ押捺シ之ヲ以テ恰モ保證アル借用證書ノ如ク作成シ債權者ニ交付シテ物品ヲ騙取シタル所爲ハ詐欺取財ナリトス（廿八年一二七五號同年十一月十二日）

◎僞造ノ借用證書ヲ利用シテ物件ヲ詐取シタル後之ニ對スル利子ヲ辨濟シタル事實幷ニ元物ヲ返還スルノ意思アリシトスルモ一旦成立シタル詐欺取財罪ハ消滅セス（同上）

◎鐵道會社ノ社員會社ノ用材購入ニ際シ其受負人ト共謀シ請負價格ヲ增加シ會社ニ對シテハ其增加ヲ以テ入札ニ付シタルモノヽ如ク裝ヒ會社ヲシテ之ヲ誤信セシメ其差金ヲ騙取シタル所爲ハ詐欺取財罪ナリトス（廿八年一三〇七號同年十一月廿二日）

◎不動產ニ關スル賣買ノ登記ハ單ニ其事實ヲ公示スルノ一方法タルニ止マリ決シテ所有權移轉ノ効果ヲ生スルコトナシ從テ其所有ヲ以テ不動產ノ騙取ト爲スヲ得ス賣買ヲ證明スヘキ證書ニシテ僞造ニ係ル時ハ之ヲ以テ所有權ヲ移轉スルノ効力ヲ生セス從テ其所有權ハ依然原所有者ニ存ス（二十八年七七五號十一月廿五日）

◎詐欺取財ノ所爲ヲ罪トシテ處分スルハ人ノ財產ヲ保護スルニアリ從テ自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メニスルトハ犯罪ノ成立ニ關係ナシ（廿九年八三八號同年十月二日）

◎刑法三百九十條ニ所謂財物ニハ動產不動產ヲ包含ス而シテ不動產ノ騙取ハ所有權移轉ノ方法ヲ盡スヲ以テ其犯罪ヲ成立ス（廿九年一一四四號同年十二月一日）

騙取ノ目的ヲ達スル爲メ訴訟ヲ裁判所ニ提起シタル所爲ハ詐欺取財ノ實行ニ着手シタルモノトス

◎署名捺印ノ白紙ハ卽チ白紙ニシテ證書ニ非ス從テ證書騙取罪成立セス（廿九年一七二〇號同年十二月十八日）

◎他人ノ依賴ヲ受ケ甲者ニ入質シタル物件ヲ受出シ而シテ後恣ニ之ヲ乙者ニ抵當ニ差入タル所爲ハ其差入ノ際用ヒタル名義ノ差異ニ依リ罪質ヲ異ニス卽チ眞所有主ノ名義ヲ侵シタル所爲ハ詐欺取財罪ヲ構成シ自己ノ名義ヲ用ヒタル時ハ冒認罪ヲ成立ス故ニ其名義ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ裁判ナリ（廿九年六一三號同年六月十九日）

◎郵便局雇員不足稅若クハ未納稅ノ郵便物アルニ當リ郵便切手ヲ貼付セスシテ其金額ヲ騙取シタル所爲ハ詐欺取財罪ヲ構成ス若シ其不足稅未納稅ヲ徵收シタル後惡意ヲ生シ費消セハ委託金費消罪又ハ監守盜罪ヲ構成ス（三十一年六號同年一月廿五日）

◎不可分物ニシテ其共有權アル者カ之ヲ騙取セハ騙取罪成立ス（三十一年二六三號同年三月廿二日）

◎冒認罪ハ他人ノ動不動産ヲ自己ノ所有ナリトシ之ヲ販賣スルニ成立スルモノニシテ他人ノ所有物ナリトシ只其代理人ナリト詐リ賣却シタル所爲ハ冒認販賣ニ非スシテ詐欺取財ナルヲ冒認罪トセシハ擬律錯誤ナリ（三十一年一四五號同年五月廿六日）

◎被告ハ甲者ヨリ訴ヲ受ケタルモ勝算ナキヲ以テ乙者ヲシテ甲者ニ說カシムルニ訴訟手續ニ誤アルヲ以テ取下願書ヲ提出スヘシト勸誘シ遂ニ甲者ニ取下願書ヲ認シム被告ハ之ヲ受取リ裁判所ニ差出シタルモ其間詐欺取財組成ノ一要件タル騙取ノ所爲アラサルヲチリ願書ヲ甲者ヨリ受取リタル所爲ヲ以テ騙取ト論スルヲ得ス然ルヲ證書騙取トシテ處罰セシハ擬律錯誤ナリ（三十一年五〇六號同年五月廿七日）

◎無効ニ屬シタル證書ヲ利用シテ債權ヲ假裝シ裁判所ニ出訴シタル所爲ハ欺罔ノ手段ナリ之ニ依リテ金圓騙取ノ目的ヲ達シタル所爲ハ詐欺取財罪犯ナリトス（廿九年一二三一號同年十二月廿一日）

◎村役場ノ收入役村稅追加賦課ノ令狀ヲ偽造シ以テ金圓ヲ騙取シタル所爲ハ刑法二百九十八條ノ犯罪ニ非スシテ同三百九十條ノ犯罪ナリトス（廿九年一三一號三十年一月廿二日）

◎詐欺取財ノ手段トシテ文書ヲ偽造シタルトキハ刑法三百九十條二項ニ據リ重キニ從テ處斷スヘキモノトス同法百條ニ照シ數罪俱發ノ例ヲ用ヒタルハ擬律錯誤ナリ（廿五年一九〇號同年三月十四日）

◎私書偽造ハ詐欺取財ノ方法ナレハ一般ノ二罪俱發ト其處分ヲ異ニスヘキモノナリ故ニ文書偽造行使罪ト詐欺取財ノ併發ニ付テハ刑法三百九十條二項ニ依リ文書偽造罪ヲ頂シトシ尙ホ私印盜用罪アルヲ以テ百條ニ則リ情狀重キ私書偽造行使罪ニ從ヒ處斷シタルハ相當ナリ（廿七年一一七七號同年十一月廿七日）

◎詐欺取財ヲナスニ因テ犯シタル數個ノ私書偽造行使及私印偽造行使ノ所爲アル時ハ先ツ刑法三百九十條二項ニ從ヒ詐欺取財ト因テ犯シタル數個ノ私印偽造行使トヲ比照シ一ノ重キモノヲ定メ而シテ後同百條ニ則リ之ヲ私印偽造行使ノ所爲ト比較シ重キニ從テ處斷スヘキモノトス（三十七年七二四號同年十二月七日）

◎詐欺取財ヲ犯スニ因テ文書偽造罪又ハ變造行使罪ヲ犯シタル者ハ縱令詐欺取財罪ハ未遂ナルモ之カ爲メ文書ノ偽造又ハ變造行使罪ヲ未遂トナスコトヲ得ス（廿八年八八二號同年九月六日）

◎文書ノ偽造ハ詐欺取財ノ手段タルニ過キストスルモ法律ハ仍ホ二罪ノ成立ヲ認ム而シテ其罪ノ輕重ニ比照シ重キニ從テ處斷スルハ刑法三百九十條二項ノ精神ナリ（廿八年一〇〇八號同年十月四日）

◎詐欺取財ヲ犯スニ因テ文書ヲ偽造シタル者ニシテ親屬ノ關係ヲ有スルトキハ詐欺取財ノ所爲ハ刑法三百九十八條ニ則リ不調罪トナルヘキモ文書偽造ノ所爲ハ各本條ニ照シ處斷セラルヘキモノトス（廿八年一〇六六號同年十月十四日）

◎詐欺取財ヲナスニヨリ文書ヲ偽造シタルモノハ各本條ニ照シ重ニ從テ處斷スヘキハ刑法第三百九十條第二項ノ規定ナルヲ以テ數罪俱發ニアラス

品物ノ注文書ハ權利義務ニ關スル證書ナルヲ以テ其餘ノ文書ニアラス（三十二年六四四號同年六月八日）

◎地所ヲ騙取スル目的ヲ以テ他人ヲ欺罔シ賣買ノ形式ヲ完了スルモ登記ヲ以テ所有權移轉ノ條件トセシ場合ニアリテハ其登記ヲ輕ルニ至ラスシテ發覺シ目的ヲ遂ケサレハ詐欺取財罪ノ未遂ナリ（三十一年一一七三號三十二年二月七日）

◎賣買ノ的定ヲ爲シ內金ヲ支拂ヒタルモ未其目的物特定セス從テ所有權ノ買者ニ移轉セサル物件ヲ詐欺ノ手段ヲ用ヒ持去リタルハ殘部ノ支拂ノミニ付欺罔ヲナシタルニ止マラス假令所有權ノ移轉シタルモノトスルモ現品引換ニ仕拂ヲナスノ約束ナルトキハ代金全部ノ仕拂迄ハ賣主ニ於テ之ヲ占有シテ擔保トナスノ權ヲ有スルモノニシテ詐欺ノ手段ヲ以テ其留置物ヲ持去リタル所爲ハ詐欺取財罪ヲ構成ス（三十二年一〇四號同年二月廿一日）

◎拒證書作成ノ爲メ僞造手形ヲ執達吏ニ提出シタル所爲ハ手形僞造行使罪ヲ構成ス

◎僞造手形ニ基キ償還請求ノ通知書ヲ送達セシメタル所爲ハ犯罪ノ實行ニ着手シタルモノニシテ詐欺取財ノ未遂ナリ（三十二年三三六號同年四十日）

◎立木ヲ小柴ナリト詐稱シ種々ノ手段ヲ用ヒ拂下許可ノ指令ヲ受ケ伐採シタルハ立木ノ騙取ナリトス詐欺ノ情ヲ聞知シ之ニ同意シ立木騙取ノ目的ヲ達センカ爲メニ實地ニ臨ミ檢査スルニ當リ大小樹林ノ林立スルヲ目擊シナカラ小柴ノミ成立シ立木ハ之レナシト詐リ虛欺ノ復命ヲナシ以テ立木ヲ騙取シタルハ詐欺取財ヲ構成ス（三十二年六一八號同年六月一日）

◎僞造ノ借用證書ヲ以テ支拂命令ノ申請ヲ爲スモ申請ヲ爲ス當時其情ヲ知ラス執行命令ノ確定シタル後始テ知リタル場合ニ在リテハ前ノ命令ニ基キ執行ニ着手スルモ僞造取財罪ヲ構成セス（三十二年八二三號同年十一月廿一日）

◎警察官ト詐稱シテ無價ニテ入場シ末戶錢ヲ拂フヘキヲ拂ハサルニ過キスシテ取財ノ事實ナキトキハ詐欺取財ヲ構成セス（三十二年非常上告三號同年六月二十九日）

◎恐喝取財ノ未遂犯ヲ成立スルニハ被害者ヲシテ畏怖ノ念ヲ生セシメタル事實アルヲ必要トセス單ニ人ヲシテ畏怖ノ念ヲ生セシムヘキ恐喝手段アルヲ以テ足レリトス（三十二年一四〇六號同年十二月二十二日）

◎金圓ノ受授ナキニ拘ラス既ニ受授シタルモノノ如ク假裝シ公正證書ヲ作成シ其證書ニ基テ強制執行ニ着手シタル所爲ハ詐欺取財ノ未遂ナリ（三十二年七八二號同年六年三十日）

◎他人ノ委任ニ依リ入質シタル物品ヲ受出シテ費消シタル所爲ハ委託品費消罪ヲ構成ス（三十二年第一五七號三十一年二十六日）

（◎代理人其代理權限ヲ超越シ他人ノ所有物ヲ本人ノ所有物ナリトシテ販賣シタル所爲ハ冒認販賣罪ニ非スシテ詐欺取財罪ナリ（三十一年第一四五號三十一年五月二十六日）

◎少額ニテ買入レタル地所ヲ高價ニ買入レタル體ニ裝ヒ豫メ登記ヲ經由シ詐クニ將腹ヲ以テシ高價ノ賣買ヲナサントシテ證書ヲ騙取シタル所爲ハ詐欺取財罪ナリ（三十一年第五一二號三十一年五月三十一日）

◎被害者ヲ欺罔シテ所有權ノ移轉ヲ承諾セシメ例規ノ手續ヲ經テ登記ヲ受ケタル所爲ハ地所騙取罪ヲ構成ス（三十一年一〇三七號三十一年十一月二十二日）

◎賴母子講ニ於テ講金落札スルモ保證人附ノ借用證書ヲ差入ルルニ非サレハ金圓ヲ受領スルコト能ハサル講則アル場合ニ僞造ノ借用證書ヲ交付シテ金圓ヲ受取タル所爲ハ詐欺取財罪ヲ構成ス（三十一年第八八六號三十一年十月十四日）

◎戶主退隱後ニ成立シタル債務ヲ退隱前ニ成立シタルモノノ如ク假裝シ相續人ヲシテ辨償セシメントシタル所爲ハ詐欺取財罪ヲ構成ス（三十三年五〇二號同年五月二十四日）

◎甲者アリ乙者ニ恐喝セラレ金三十圓ヲ差出スコトヲ約シタルモ后丙者ノ意見ヲ聽キタル爲メ畏怖ノ念ヲ脫却シ反テ乙者ノ罪跡ヲ確ムル爲メ內金ト稱シテ金一圓ヲ差出シタ

トキハ乙者ニシテ之ヲ收受スルコトアルモ恐喝取財罪ヲ遂ケタルモノトスルヲ得ス

◉町村内ノ區長ニシテ國有林ノ一部ヲ區ノ共有林ナリト詐稱シ其立木ヲ販賣シタル所爲ハ冒認罪ヲ構成スルモノニ非ス然レトモ立木ヲ竇却スルニ當リ區ノ共有林ナリト詐言シ買得者ヲ欺罔シテ金圓ヲ騙取シタルトキハ詐欺取財罪ヲ構成スルモノトス（三十三年れ一五六五號同年二月一日）

◉金圓騙取ト約束手形ノ騙取トハ二罪トシテ處斷スヘキモノニアラス（三十三年れ七三九號同十二月二十一日）

◉騙取シタル土地ヲ自己ノ所有トシテ抵當ト爲シ金圓ヲ騙取シタル所爲ハ冒認罪ニ非スシテ詐欺取財罪ナリ（三十三年れ一四四〇號三十四年一月二十一日）

◉郵便切手ノ再貼用ハ必スシモ詐欺取財ノ場合ニ限ルモノニ非ス從テ郵便切手再貼用ノ制裁中ニ詐欺取財ノ制裁ヲ包含セス（三十四年れ三八七號同四月十二日）

◉刑法第三百九十條ニハ單ニ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ云々トアリテ必シモ他人ノ所有ニ屬スルコトヲ要セサルモノト限定セス從テ自己ノ所有物ト雖トモ他人ニ與物トシテ交付シタルモノヲ騙取スルトキハ詐欺取財罪ヲ構成ス（三十四年れ八七五號同六月十八日）

◉詐欺取財罪ハ人ヲ欺罔シ若クハ恐喝シテ財物又ハ證書類ヲ取得スルヲ以テ構成ス而シテ被告人カ使嗾者ナルヤ否ヤハ犯罪ノ構成ニ影響スルモノニ非ラス（三十四年れ一二六四號同十月二十八日）

◉委託金ヲ騙取スルニ因テ官文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ寶質上ノ一罪ヲ構成ス（卅三年）

◉詐欺取財ト文書偽造併發シタル場合ニ於テ刑法第三百九十條第二項ニ基キ寶質上一罪トシテ論スルハ其詐欺取財若クハ文書偽造ノ一カ免訴又ハ無罪トナリタルコトナリ又其裁判ニ對シ上訴ナクシテ全ク分離セサル場合ニ於テスルモノトス（三十四年）

◉詐欺取財罪ヲ犯スニ因リ私書ヲ偽造行使シタハ所爲ハ寶質上ノ一罪ナルヲ以テ私書偽造ニ就キ免訴ヲ言渡シタルトキハ詐欺取財モ亦其免訴中ニ包含セラルヽモノトス（三十三年）

◉文書偽造ニシテ詐欺取財ノ手段タルトキハ二所爲通シテ一罪ヲ構成スルモノナレハ詐欺取財罪ノ成立シタル時ニ於テ文書偽造罪モ亦共ニ成立シタルモノトス從テ餘罪后發ノ場合ニ在テハ一罪トシテ其法則(刑法第二百二條)ヲ適用ス

◉詐欺取財ノ未遂後其犯跡ヲ掩蔽スル爲メ官文書偽造行使シタル所爲ハ刑法第三百九十條第二項ヲ適用スヘキモノニアラス（三十三年）

◉因テ官私ノ文書云々ノ法則(刑法第三百九十條第二項)ハ詐欺取財罪ニ因テ官私ノ文書ヲ偽造行使シタル場合ニ適用スヘキ法意ニシテ詐欺取財未遂ノ后偽造文書ヲ行使シタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス（三十四年）

◉不動產ヲ詐取スルニ當リ登記ヲ經由スルヲ以テ所有權移轉ノ條件トナシタルトキハ登記ヲ經由シタルノミヲ以テ詐欺取財完全ニ構成スルモノトス（三十五年四月二十四日）

◉法律上犯罪ヲ構成セサルコトヲ確信シタル場合ト雖モ尙ホ刑責ヲ免ルヽコトヲ得ス何トナレハ全ク法律ヲ知ラサル罪ニ坐スルモノニシテ法律ノ不知ハ罪トナルヘキ所爲ヲ爲シタル人ノ其所爲ヨリ生スル刑罰ノ責任ヲ免脫セシムルノ効力ヲ生セス故ニ法律上罪トナルヘキ事實タルヤ否ヤヲ覺知スルハ一般普通ノ知能ヲ有スルヲ以テ標準トス